



▶ Polycom[®] RMX[®] 1500/2000/4000 スタートアップガイド

Trademark Information

Polycom®, the Polycom “Triangles” logo, and the names and marks associated with Polycom’s products are trademarks and/or service marks of Polycom, Inc., and are registered and/or common-law marks in the United States and various other countries.

All other trademarks are the property of their respective owners.

Patent Information

The accompanying product is protected by one or more U.S. and foreign patents and/or pending patent applications held by Polycom, Inc.

© 2011 Polycom, Inc. All rights reserved.

Polycom, Inc.
4750 Willow Road
Pleasanton, CA 94588-2708
USA

No part of this document may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose, without the express written permission of Polycom, Inc. Under the law, reproducing includes translating into another language or format.

As between the parties, Polycom, Inc., retains title to and ownership of all proprietary rights with respect to the software contained within its products. The software is protected by United States copyright laws and international treaty provision. Therefore, you must treat the software like any other copyrighted material (e.g., a book or sound recording).

Every effort has been made to ensure that the information in this manual is accurate. Polycom, Inc., is not responsible for printing or clerical errors. Information in this document is subject to change without notice.

目次

システム概要	1-1
RMX 1500/2000/4000	1-2
RMX の主な機能	1-3
会議モード	1-3
Dynamic Continuous Presence	1-3
ビデオスイッチング	1-5
オペレータ会議	1-5
ビデオ解像度	1-6
CP 解像度の設定	1-6
ビデオスイッチング	1-6
H.239 / People+Content	1-6
Video Clarity™	1-7
IVR 対応の会議	1-7
PCM	1-7
エントリーキュー	1-8
会議の機能とオプション	1-8
オンデマンド会議	1-8
常設会議	1-8
予定済みの会議 / 予約	1-8
Polycom Conferencing for Microsoft Outlook®	1-8
接続方法	1-9
カスケード会議	1-9
ゲートウェイ	1-9
セキュリティ	1-9
LAN の冗長化	1-10
会議の管理機能とモニタリング機能	1-10
カード設定モード	1-11
必須条件	1-11
ワークステーションの要件	1-11
Windows 7 セキュリティ設定	1-12
Internet Explorer 8 の設定	1-14
初回の設置と設定	2-1
準備	2-2
ネットワーク装置情報およびアドレス情報の収集	2-2
IP サービス	2-2
管理ネットワーク	2-2
デフォルトの IP サービス (会議サービス)	2-2
IP ネットワークサービスの必須情報	2-2
ISDN/PSTN サービス	2-4
RMX の開梱	2-4
RMX 1500 の開梱	2-4
RMX 2000 の開梱	2-5

RMX 4000 の開梱	2-5
出荷時デフォルトの USB キーの管理ネットワーク設定の変更	2-7
ハードウェアの設置とセットアップ	2-9
RMX 1500 の設置	2-9
RMX 1500 のラックへの取り付け	2-9
RMX 1500 へのケーブル接続	2-10
RMX 2000 の設置	2-11
RMX 2000 のラックへの取り付け	2-11
RMX 2000 へのケーブル接続	2-12
RMX 4000 の設置	2-12
RMX 4000 のラックへの取り付け	2-12
RMX 4000 の電源への接続	2-13
RMX 4000 へのケーブル接続	2-15
初回の電源起動と設定	2-16
手順 1: 初回の電源起動	2-16
手順 2: 製品の登録	2-17
アクティベーションキーの入手	2-17
手順 3: MCU への接続	2-17
手順 4: デフォルトの IP サービスおよび ISDN/PSTN ネットワークサービス 設定の変更	2-19
初期設定ウィザード	2-20
ユーザ定義	2-34
RMX Web Client 言語の選択	2-34
RMX のデフォルトの会議設定	2-35
RMX のデフォルト会議設定のカスタマイズ	2-37
基本操作	3-1
RMX Web Client の起動	3-1
RMX 2000 Web Client の画面コンポーネント	3-2
表示およびシステム機能に関する許可	3-4
会議リスト	3-5
リストペイン	3-6
RMX 管理	3-6
ステータスバー	3-6
システムアラート	3-7
参加者アラート	3-7
ポート使用状況ゲージ	3-7
MCU ステータス	3-8
アドレス帳	3-8
アドレス帳の表示と非表示	3-9
会議テンプレート	3-9
会議テンプレートの表示および非表示	3-9
メイン画面のカスタマイズ	3-10
RMX 管理ペインのカスタマイズ	3-11
会議の開始	3-12
会議ペインからの会議の開始	3-13

一般タブ	3-14
参加者タブ	3-17
情報タブ	3-20
予約の開始	3-22
開催中の会議をテンプレートから開始	3-23
Microsoft Outlook Polycom Meeting Invitation からの音声ミーティングの	
開始	3-24
クリックして会議	3-24
会議への接続	3-25
直接ダイヤルイン	3-25
H.323 参加者	3-25
SIP 参加者	3-26
ISDN/PSTN 参加者	3-26
エントリーキューアクセス	3-27
H.323 参加者	3-27
SIP 参加者	3-28
ISDN および PSTN 参加者	3-28
Outlook Meeting Invitation からの Polycom Conference への接続	3-29
ダイヤルアウト参加者	3-29
自動ダイヤルアウト	3-29
手動ダイヤルアウト	3-29
フェーズの収集	3-30
フェーズの収集ガイドライン	3-31
ビデオレイアウトにおけるテキスト表示	3-32
エンドポイント (サイト) の名前	3-32
エンドポイント名の透明度	3-33
エンドポイント名の常時表示	3-34
エンドポイント名の場所	3-34
テキスト表示	3-34
クローズドキャプション	3-35
メッセージオーバーレイ	3-35
開催中の会議のモニタリング	3-36
全般のモニタリング	3-36
複数選択	3-37
チェアパーソンパスワードによるフィルタリング	3-37
会議レベルのモニタリング	3-38
会議開催中のロールコール / オーディオトーン	3-40
音声のみのメッセージ	3-41
セキュアな会議のモニタリング	3-41
進行中のゲートウェイセッションのモニタリング	3-41
参加者レベルのモニタリング	3-41
参加者の接続のモニタリング	3-41
ビデオレビュー	3-44
開催中の会議で実行される操作	3-46
会議レベルの操作	3-46
会議時間の変更	3-46

アドレス帳から参加者を追加	3-47
参加者の移動	3-47
開催中の会議をテンプレートとして保存	3-49
会議のコピーと貼り付け	3-49
会議のコピー	3-49
会議を貼り付け	3-50
会議の名前を付けて貼り付け	3-50
会議のビデオレイアウトの変更	3-51
ビデオ固定	3-53
Video Clarity™ の有効化および無効化	3-54
メッセージオーバーレイの有効化および無効化	3-54
自動スキャン	3-55
カスタムポーリング	3-56
参加者レベルの操作	3-58
参加者の切り取りと貼り付け	3-60
参加者をコピー	3-60
参加者をカット	3-60
参加者を貼り付け	3-61
参加者の名前を付けて貼り付け	3-62
RMX Web Client による個人レイアウトの制御	3-63
Click&View による個人レイアウトの選択	3-64
Polycom Touch Control による個人レイアウトのコントロール	3-67
DTMF コードの使用による会議制御	3-67
ヘルプの要求	3-69
発言の要求	3-69
Personal Conference Manager (PCM)	3-70
ガイドライン	3-70
システムフラグ	3-71
PCM インターフェース	3-72
PCM 開始	3-72
リモートコントロール装置キー	3-73
メニュー操作 – 矢印とズームキー	3-73
PCM メインメニュー – レベル 1	3-75
Click&View	3-75
参加者の招待	3-75
着信参加者のミュート / ステータス	3-77
カメラ制御	3-79
ビデオ固定	3-80
レコーディング	3-81
PCM メインメニュー – レベル 2	3-82
参加者の切断	3-82
会議の終了	3-83
付録 A – 用語集	A-1

システム概要

このマニュアルでは、RMX システムの設置と基本操作について説明します。



チェアパーソンおよびオペレータ（他のユーザのために会議を開始して管理するユーザ）は、次の章をお読みください。

- 第1章 – システム概要
- 第3章 – 基本操作

システム管理者は、次の章をお読みください。

- 第1章 – システム概要
- 第2章 – 初めての設置と設定
- 第3章 – 基本操作

システムの設定および管理の詳細については、システムに付属する *RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide* を参照してください。



特に指定のない場合、本書に記載されているすべての画面キャプチャ、図および表は、RMX 1500、RMX 2000 および RMX 4000 に適用されます。

RMX 1500/2000/4000

Polycom RMX 1500/2000/4000 Multipoint Control Unit (MCU) は、機能豊富で使いやすい多地点音声 / ビデオ会議システムを提供する、高性能かつ拡張可能な IP ネットワーク (H.323 および SIP) および ISDN/PSTN ソリューションです。

RMX MCU は、国際電気通信連合の電気通信標準化部門 (ITU-T、旧称 CCITT) による多地点マルチメディアブリッジデバイスの標準に準拠し、欧州通信規格協会 (ETSI) による電気通信製品の標準にも準拠しています。

さらに、RMX ユニットは IETF (インターネットエンジニアリングタスクフォース) に従って設計されています。IETF は、インターネットアーキテクチャの進化とインターネットの円滑な操作に関心を寄せるネットワーク設計者、オペレータ、ベンダー、研究者から成る大規模で開かれた国際コミュニティです。

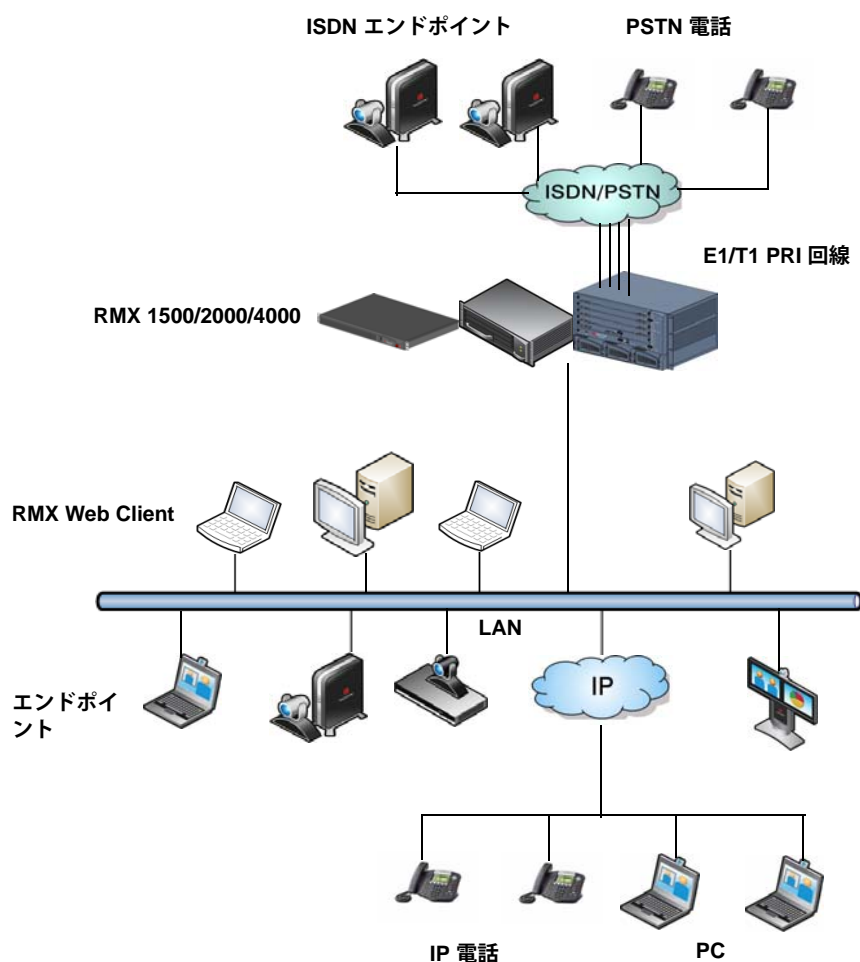


図 1-1 多地点ビデオ会議 Polycom RMX 1500/2000/4000

Polycom RMX 1500/2000/4000 ユニットの制御は、LAN を介して *RMXWeb Client* アプリケーションで行います。これにはユーザのワークステーションにインストールされた Internet Explorer® または RMX Manager アプリケーションを使用します。RMX Manager は、複数の RMX ユニットの制御できます (RMX 1500、RMX 2000 および RMX 4000)。RMX Manager の詳細については、「*RMX Manager Application*」、18-1 ページを参照してください。

RMX 1500/2000 では、RMX の管理と IP 会議はどちらも同じ 1 つの LAN ポートで実行されます。ネットワークは、最大セキュリティ環境に分割できます。

RMX 4000 では、RMX の管理と IP 会議は 2 つの別々の LAN ポートで実行されます。ネットワークは、最大セキュリティ環境に分割できます。

RMX 1500 は、4 本の E1/T1 PRI 回線による ISDN カード 1 枚をサポートできます。

RMX 2000/4000 では、最大で 2 枚の RTM ISDN カードがサポートされ、各カードは最大で 7 本の E1 回線または 9 本の T1 PRI 回線の接続を提供します。

RMX 1500/2000/4000 では、E1 と T1 接続を同時に使用することはできません。

RMX の主な機能

会議モード

Dynamic Continuous Presence

RMX システムの Dynamic Continuous Presence (CP) 機能は、ビデオ会議用に複数の表示オプションとウィンドウレイアウトを提供し、柔軟性のある表示を提供します。デフォルトでは、システムに定義されている最大 CP 解像度をすべての会議、エントリーキューおよびミーティングルームに指定できます。これには、*RMX Web Client* によって開始される会議および API を介して開始される会議が含まれます。

CP モードの会議は、以下のように定義します。

- 会議プロファイル設定：
 - 会議の回線速度
 - ビデオ画質の選択 — モーションまたはシャープネス
- エンドポイントの機能 — 参加者は機能が異なるエンドポイントを使用して各種の回線速度で接続できます

CP のビデオレイアウト

参加者の人数や会議の設定に応じて、35 種類のレイアウトを使用できます。4CIF 解像度ではなくワイドビデオフォーマットを送信するエンドポイントには H.264 プロトコルの VUI 付加情報もサポートされます。

表 1-1 Continuous Presence – ビデオレイアウト

臨場感モード

TPX (Telepresence) および RPX (Realpresence) ルームシステムはハイディフィニッションカメラで構成され、すべての参加者が同じ会議室にいるような臨場感を得られるように画像をセットアップします。

RMX は、ポイントツーポイント接続を使用できない会議に **臨場感ルーム** で接続することができます。

Telepresence を使用するオペレータが TPX ルームシステムを設定する場合に更に多くのオプションを使用できるように、ビデオレイアウトが追加されています。これらのビデオレイアウト追加オプションは、会議プロファイルで **臨場感** が選択されている場合に使用できます。

複数の切り替えモード

選択したレイアウトのビデオウィンドウの数より参加者の数が多い場合、以下のいずれかのモードでビデオ参加者の切り替えを実行できます。

- 音声のアクティベーション。
- RMX ユーザが、選択したビデオウィンドウに参加者を強制的に表示する。
- レクチャーモード – 講師が会議参加者全員にフルスクリーンで表示されます。発言者の表示では、オーディエンスが「時間で切り替え」られます。
- プレゼンテーションモード – 発言者のプレゼンテーションが決められた時間を超えると、その発言者が現在の講師になり、会議がレクチャーモードに切り替わります。

ビデオスイッチング

ビデオスイッチング (VSW) モードでは、参加者全員が同じビデオ画像 (全画面) を見ることができます。各接続に使用される CIF ビデオリ。

VSW モードの会議は、以下のように定義します。

- 会議プロファイルで会議の **回線速度設定**
 - すべてのエンドポイントが同じ **回線速度** で会議に接続する必要があります。回線速度の範囲は 192kbps ~ 6Mbps です。RMX は会議の **回線速度** でサポートされている可能な限り高いビデオ画質で参加者に接続します。
- エンドポイントの機能
 - 対応エンドポイントは、最大 1920 x 1080 ピクセル (1080p) の解像度で会議に接続できます。

会議のビデオ画質は **高度な共通メカニズム** によって定義され、会議に接続されている中で最も低機能のエンドポイントを基準とします。**高度な共通メカニズム** は、エンドポイントが会議に接続 / 切断するときに、システムが最善なビデオ画質を動的に選択できるようにします。

オペレータ会議

Continuous Presence モードは、オペレータとなる RMX ユーザが開催中の会議を中断することなく、会議の他の参加者に聞かれることもなく参加者を支援できる特別な会議です。オペレータは、参加者をエントリーキューまたは開催中の会議からオペレータ会議のプライベートな 1 対 1 の対話に移動できます。

ビデオ解像度

CP 解像度の設定

RMX 管理者は、[解像度の設定] ダイアログボックスでビデオ解像度決定マトリックスを変更して、各自の決定マトリックスを有効に作成できます。様々なビデオ解像度でエンドポイントが接続される際の回線速度の最小しきい値は、解像度スライダーを調節して最適化できます。

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』『Resolution Configuration』、[2-13](#) ページを参照してください。

ビデオスイッチング

ビデオスイッチング (VSW) モードでは、参加者全員が同じビデオ画像 (全画面) を見ることができます。各接続に使用される CIF ビデオリ。

VSW モードの会議は、以下のように定義します。

- 会議プロファイル設定：
 - 回線速度 — 192kbps ～ 6Mb。参加者全員が同じ回線速度で接続する必要があります。
 - 解像度 — HD720 または HD1080。
- エンドポイントの機能：
 - VSW 会議に接続している参加者は、HD または SD 対応のエンドポイントでなければなりません。この要件を満たしていない場合、セカンダリ (音声のみの参加者) として接続されます。
- HD_THRESHOLD_BITRATE システムフラグ — HD チャンネルが開かれる最小回線速度を決定します。

H.239 / People+Content

H.239 プロトコルによって、対応のエンドポイントでコンテンツを共有できます。デフォルトでは、RMX で開始されるすべての会議、エントリーキューおよびミーティングルームが H.239 機能を持ちます。このプロトコルは、MIH カスケード会議でもサポートされます。

会議には、H.239 または People+Content をサポートするエンドポイントを組み合わせて含むことができます。

People+Content は、Polycom が独自開発した、H.239 と同等のプロトコルです。

Video Clarity™

Video Clarity 機 各エンドポイントによってサポートされている最も高い解像度で、鮮明なエッジと高コントラストのクリア画像をすべてのエンドポイントに返信します。

1x1 を含むすべてのレイアウトがサポートされます。

Video Clarity は、MPM+ および /MPMx モードでの連続表示の会議にのみ使用できます。

IVR 対応の会議

Interactive Voice Response (IVR) は、接続プロセスを自動化し、開催中の会議で参加者がさまざまな操作を行うことを可能にするソフトウェアモジュールです。参加者はエンドポイントのキーパッド、リモコン、タッチコントロールデバイスを使用して、会議のメニュー駆動型スクリプトを DTMF コードで操作します。

参加者またはチェアパーソンが会議中に実行できる操作には、以下があります。

- 会議を手動で終了する。
- 参加者の音声チャンネルをミュートまたはミュート解除する。
- 参加者の発信音量および受信音量を調整する。
- ヘルプメニューを再生する。
- 未定義のダイヤルイン参加者が会議に参加したときに、その参加者をミュートまたはミュート解除する。
- ロールコールを要求およびロールコール名レビューを停止する。
- 会議のセキュリティ保護 / 解除を切り替える。
- 個人および会議アシスタンスを要求する。

PCM

Personal Conference Manager (PCM) インターフェースでは、会議のチェアパーソンが各自のエンドポイントのリモートコントロール装置を使用して、様々な会議機能を制御できます。以下の会議操作を実行できます。

- **Polycom Click&View** アプリケーションを起動して、ローカルの画面レイアウトを変更。
- H.323 および SIP 参加者を会議への接続に招待。
- 接続された各エンドポイントでの音声とビデオの表示および制御。
- カメラ制御 1 – リモートエンドポイントのカメラを (FECC) を使用して制御。
- 接続されたエンドポイントのカメラを制御。
- 特定の参加者をビデオ固定して、ビデオレイアウトの専用画面に表示。
- 会議の録画を開始および制御。
- 参加者の切断。
- 会議の終了。

エントリーキュー

エントリーキューは、ビデオ参加者および音声参加者をルーティングするための特別なロビーです。エントリーキュー ID またはダイヤルイン番号 (ISDN/PSTN) をダイヤルした後、参加者を適切な会議に接続するために IVR サービスの音声プロンプトが使用されます。

このサービスは、Ad Hoc 会議を開始する権限または開催中の会議に参加する権限を参加者が持っていることを確認するためにも使用されます (必要な場合)。

会議の機能とオプション

オンデマンド会議

会議のセットアップには、以下のオプションを使用できます。

- **新規会議** – 1 度セットアップし、1 度だけ使用。
会議は、終了後に MCU から削除されます。
- **ミーティングルーム** – 1 度セットアップし、複数回使用。
ミーティングルームは (リソースを使用せずに) メモリに保存され、必要に応じて何度でも使用できます。
- **Ad Hoc エントリーキュー** – セットアップなし。ユーザがダイヤルインして、既存の会議またはミーティングルームによって使用されていない会議 ID を入力することで、新規会議を開始できます。
- **ゲートウェイ通話** – IP エンドポイントから別の参加者へ、1 つのダイヤル文字列に含まれる最大 10 カ所の接続先に直接ダイヤル文字列を使用して接続します。

常設会議

常設会議は、終了時間があらかじめ設定されていない開催中の会議で、管理者、オペレータまたは議長が終了させるまで続けられます。

予定済みの会議 / 予約

カレンダーに基づいて、単発または繰り返し会議のスケジュールを予約できます。予約された会議は、指定した日時に直ぐに開始または開催させることができます。

Polycom Conferencing for Microsoft Outlook®

Polycom Conferencing for Microsoft Outlook は、*Polycom Conferencing Add-in for Microsoft Outlook* を *Microsoft Outlook* 電子メールクライアントにインストールして実装します。これにより、*Outlook* でビデオ会議のエンドポイントをスケジュールできます。アドインでも *Polycom Conference* ボタンを *Microsoft Outlook* メールクライアントリボンの [ミーティング] タブに追加できます。

接続方法

会議への接続では、IPv4、IPv6、ISDN、PSTN 通信プロトコルがサポートされます。

- ダイアルアウト：自動、定義済みの参加者へ（回線速度の検出は自動）
- ダイアルイン：
 - 事前に定義された参加者が接続（IP 参加者のみ）
 - 未定義の参加者から会議に直接（IP および ISDN/PSTN）
 - 定義されていない参加者が単一ダイヤルのエントリーキューを介して接続（IP および ISDN/PSTN）

カスケード会議

- 単純カスケード（MCU x 2 およびスタートポロジ）。
- 多階層カスケード（MIH）

ゲートウェイ

特別なゲートウェイプロファイルを使用することにより、RMX を H.323、SIP、ISDN および PSTN などのさまざまな物理ネットワークで接続できるゲートウェイとして使用できます。このゲートウェイは、ISDN/PSTN エンドポイントと DMA 間の接続も提供します。

セキュリティ

- 会議レベルおよび参加者レベルで、AES 128 のメディア暗号化規格および DH 1024 の鍵交換規格に基づいたメディア暗号化が可能です。
- セキュアな通信モード（SSL/TLS）
- DTMF コードおよびセキュアな会議のモニター制限によってセキュリティが保護された会議。
- RMX システムにおける設定変更および異常または悪意のある活動を監査役が分析
- ネットワークセキュリティは、シグナリングおよび管理ネットワークを分けることで強化できます。
- 管理者は RMX ユーザを無効にできます。またアクティブでないユーザを自動的に無効にすることもできます。管理者は、無効なユーザを有効にすることができます。
- SNMP バージョン 1、2、3 に対応します。
- 最大セキュリティ環境では、ウルトラセキュアモードを実装できます。
エンハンスドセキュリティ環境では、以下の属性が実装されます。
 - パスワード管理：
 - ストロングパスワードとパスワード再使用 / 履歴ルール
 - パスワード割り当てルール、パスワード変更頻度およびパスワード変更の強制
 - 会議とチェアパーソンのパスワード
 - ユーザのロックアウト
 - ユーザログイン記録の表示
 - ユーザセッションの制御：
 - 同時に行われるユーザセッション最大数の制御
 - 接続タイムアウト

- ユーザセッションタイムアウト
- システムに接続できる最大ユーザ数の制限
- 複数のネットワークサービス

LAN の冗長化

LAN ポートが不良な場合、冗長の LAN ポート接続を、別の物理的接続と NIC (ネットワークインターフェースカード) を使用して不良ポートを自動的に置き換えるようにすることができます。

会議の管理機能とモニタリング機能

Polycom RMX 1500/2000/4000 Web Client は、参加者や会議を管理およびモニタリングするために、以下のような機能を提供します。

- Continuous Presence 会議での レクチャーモードまたは プレゼンテーションモード。
- ビデオ会議での相手側からのカメラ制御 *Far End Camera Control (FECC/LSD)*。
- アイドル会議 (参加者のいない会議) の自動終了。
- 会議時間の自動延長。
- 個々の参加者の受信音量および発信音量の制御。
- *Auto Gain Control (AGC)* による個々の参加者の雑音および音量の調整。
- 参加者のエンドポイントまたは電話からの *DTMF* コードによる会議制御。
- エントリー、退席、および会議終了の表示。
- メディア 暗号化。
- すべての会議および参加者をアクティブに表示 (セキュアな会議における表示を制限するオプションあり)。
- 各参加者の接続ステータスおよびプロパティのリアルタイムモニタリング。
- 参加者の複数のドラッグアンドドロップ。
- 管理者向けの *Call Detail Records (CDR)* への容易なアクセス。
- すべてのシステムリソースのアクティブな表示。
- ビデオ会議にリアルタイムの字幕や言語の翻訳を提供する *クローズドキャプション*。
- メッセージオーバーレイを使用して、開催中の会議への参加者全員にメッセージを送信できます。
- 会議の議長は、各自のエンドポイントのリモートコントロール装置を使用して、PCM から様々な会議機能を制御できます。.
- RMX ユーザーは、*Video Preview* を使用して、参加者から会議および会議から参加者に送信されたビデオをプレビューできます。
- RMX では、*Auto Redial when Endpoint Drops* を使用して、会議から異常切断された IP および SIP 参加者に自動リダイヤルできます。
- CP モードでの会議のオペレータアシスタンスと参加者の移動。
- ホットバックアップは、高可用性で高速の回復処理を実施します。

カード設定モード

サポートされている *カード設定モード* は、以下の 3 種類です。

- **MPM モード** – バージョン 7.1 より前のすべての RMX 2000 バージョンの *MPM* カードでサポートされています。



バージョン 7.1 以降、*MPM* メディアカードはサポートされていません。

- **MPM+ モード** – バージョン 4.0 以降について、RMX 2000 と RMX 4000 にインストールされた *MPM+* カードでサポートされます。提供される機能には以下が含まれています。
 - システムリソース割り当てを超える制御の増加に対応する 2 種類の *ビデオ/音声リソース容量リソース割り当てモード*。
 - より適切なシステム管理に対応する *拡張リソースレポート*。
 - ビデオ解像度とビデオ画質の強化。
- **MPMx モード** – バージョン 7.0 以降について、RMX 1500、RMX 2000、および RMX 4000 にインストールされた *MPMx* カードでサポートされます。*MPM+* で提供される機能には以下が含まれます。
 - リソース容量の拡大。
 - 対称 *HD* 解像度の拡大。
 - H.264 高プロファイル。
 - 回線速度の拡大。

必須条件

本書は、ユーザが以下の知識を備えていることを前提としています。

- Windows XP または Vista オペレーティングシステムおよびインターフェースに関する知識
- Microsoft Internet Explorer バージョン 6 以降に関する知識
- ビデオ会議の概念および技術に関する基本知識。

ワークステーションの要件

RMX *Web Client* および RMX *Manager* アプリケーションをインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

- **ハードウェア** – Intel Pentium III、1 GHz 以上、1024 MB RAM、空き容量 500 MB
- **オペレーティングシステム** – Microsoft Windows XP、Vista、Windows 7
- **ネットワークカード** – 10/100 Mbps
- **ウェブブラウザ** – Microsoft Internet Explorer バージョン 6 以降



.Net Framework 2.0 が必要です。これは自動的にインストールされます。ActiveX のインストールがブロックされる場合、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「ActiveX Bypass」、**19-103** ページを参照してください。



RMX Web Client のインストール時、Windows Explorer > インターネット オプション > セキュリティのタブでセキュリティのレベルを 中またはそれ以下にしてください。

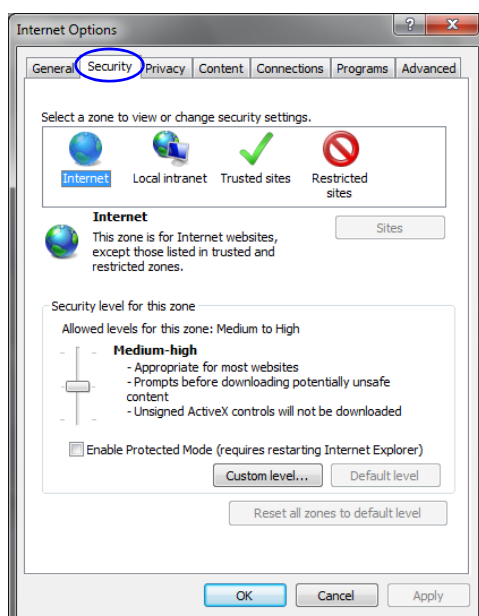
Windows 7 セキュリティ設定

Windows7 がワークステーションにインストールされている場合、バージョン 7.0 ソフトウェアをワークステーションにダウンロードする前に、[保護モード] を無効にしてください。

保護モードを無効にするには：

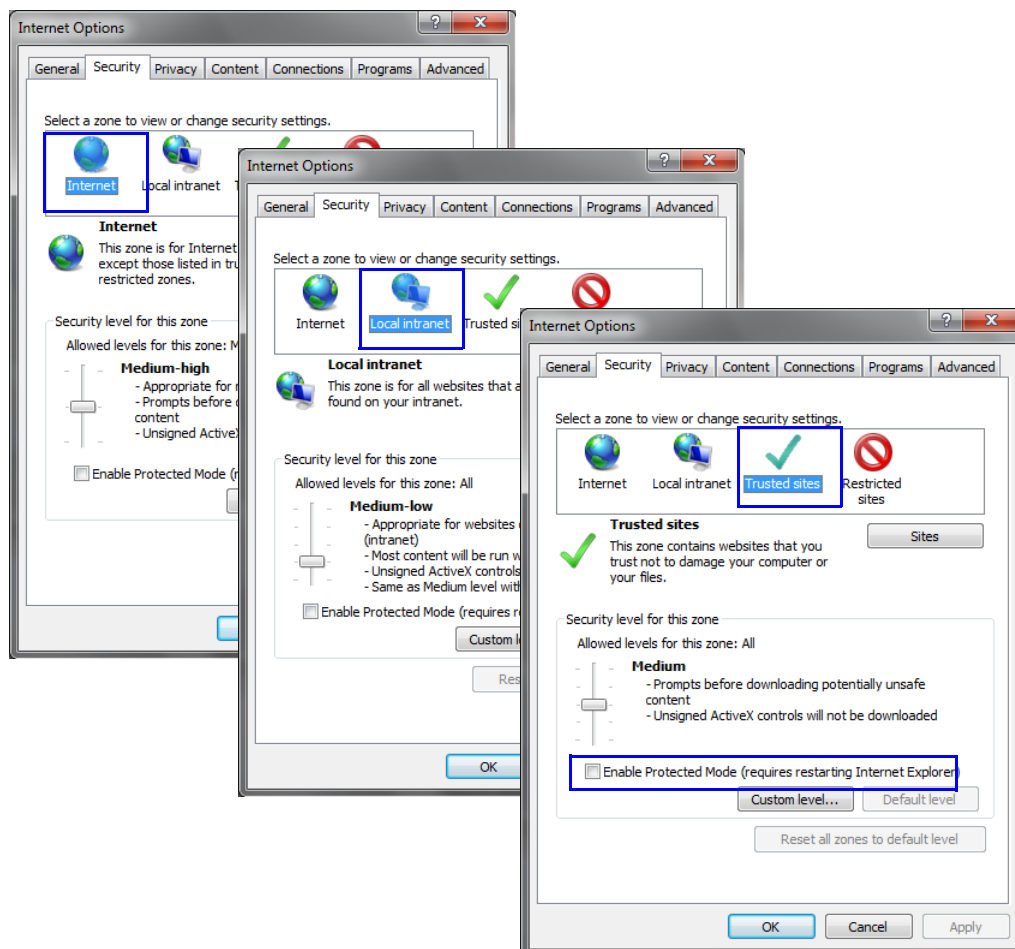
- 1 [インターネットオプション] ダイアログボックスで、[セキュリティ] タブをクリックします。

[セキュリティ] タブが表示されます。



2 以下の各タブで、[保護モードを有効にする] チェックボックスを無効にします。

- インターネット
- ローカルイントラネット
- 信頼済みサイト



3 RMX に接続後、[保護モードを有効にする] チェックボックスを選択して、以下のタブの [保護モード] を有効にできます。

- インターネット
- ローカルイントラネット

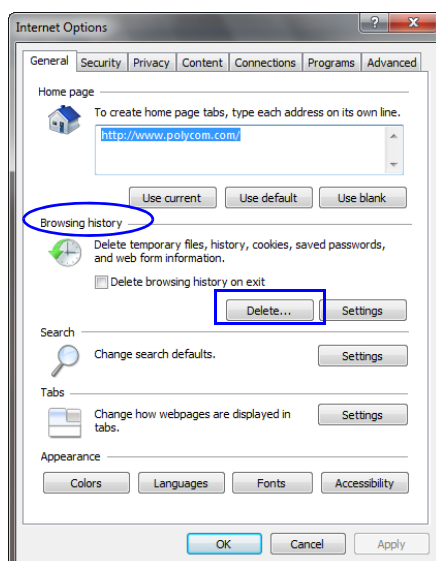
Internet Explorer 8 の設定

Internet Explorer 8 を使用して RMX Web Client または RMX Manager アプリケーションを実行する場合、以下の手順に従ってブラウザを設定することが重要です。

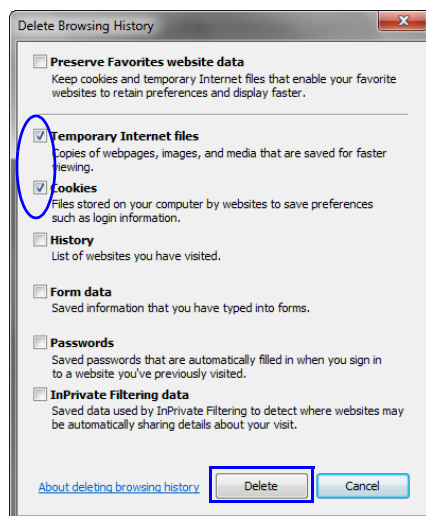
Internet Explorer 8 を設定するには：

- 1 ワークステーションで実行中のすべてのブラウザを終了します。
- 2 Windows タクスマネージャを使用して、ワークステーションで実行されている *iexplore.exe* プロセスがないことを確認します。実行中のプロセスがあれば、[プロセスの終了] ボタンをクリックして終了します。
- 3 Internet Explorer を開きます。RMX には、接続しないでください。
- 4 Internet Explorer のメニューバーで、[ツール]>>[インターネットオプション] を選択します。

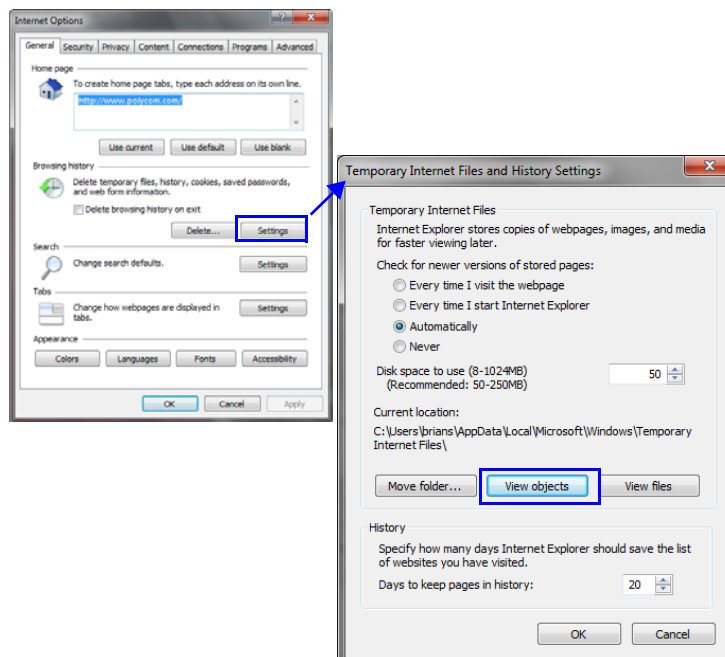
[インターネットオプション] ダイアログボックスで [全般] タブを開きます。



- 5 閲覧の履歴セクションで、[削除] ボタンをクリックします。
[閲覧の履歴の削除] ダイアログボックスが表示されます。

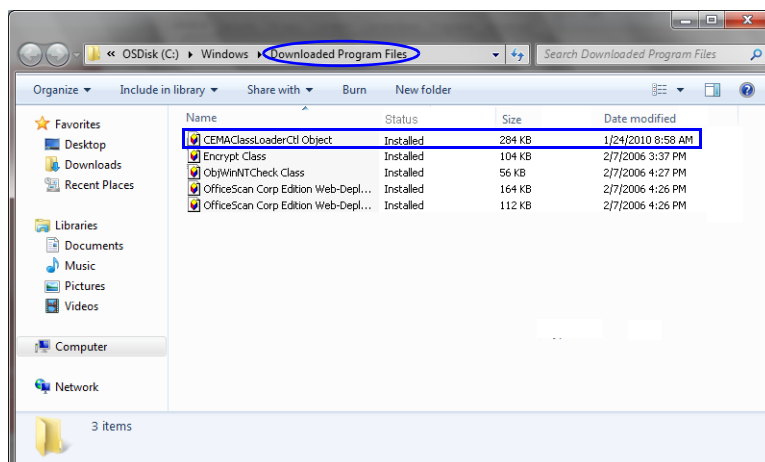


- 6 [インターネット一時ファイル] と [Cookies] チェックボックスを有効にします。
7 [削除] ボタンをクリックします。
8 [閲覧の履歴の削除] ダイアログボックスが閉じて、ファイルが削除されます。
9 [インターネットオプション] ダイアログボックスで、[設定] ボタンをクリックします。
[インターネット一時ファイルと履歴の設定] ダイアログボックスが表示されます。



10 [オブジェクトの表示] ボタンをクリックします。

インストールされている *Program Files* を含む *Downloaded Program Files* フォルダが表示されます。



11 CEMAClassLoaderCntl Object ファイルを選択します。

12 ワークステーションの **Delete** キーを押します。

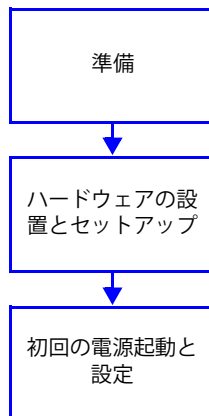
13 *Downloaded Program Files* フォルダと [インターネット一時ファイルと履歴の設定] ダイアログボックスを閉じます。

14 [インターネットオプション] ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックして、変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

初回の設置と設定

Polycom RMX 1500/2000/4000 の初回の設置と設定は、以下の手順に従ってください。

1 準備



- ネットワーク装置とアドレス情報の統合 — RMX をネットワークに統合するために必要な情報を収集します。
- RMX を開梱します。
- USB キーの管理ネットワークパラメータを調整します。

2 ハードウェアの設置とセットアップ

- RMX をラックに取り付けます。
- 必要なケーブルを接続します。

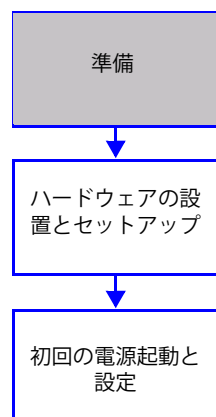
3 初回の電源起動と設定

- RMX の電源を入れます。
- RMX を登録します。
- RMX に接続します。
- デフォルトの IP ネットワークサービスを設定します。
- ISDN/PSTN ネットワークサービスを設定します。

準備

ネットワーク装置情報およびアドレス情報の収集

IP サービス



RMX、管理アプリケーションおよび会議デバイス間の通信を可能にする IP アドレスとネットワークパラメーターは、以下の 2 つの IP サービスに分類されます。

- 管理ネットワーク (コントロールユニット)
- デフォルトの IP サービス (会議サービス)

初期入力設定を行うときに、これら 2 つのネットワークサービスのパラメーターをローカルネットワークの設定に適合するように変更します。

管理ネットワーク

管理ネットワークでは、RMX コントロールユニットと RMX Web Client の通信が可能です。このネットワークは、RMX の管理に使用されます。

RMX の出荷時のデフォルト IP アドレスを表 2-1 に示します。

管理ネットワークの定義

管理ネットワークの定義は、以下の 2 つの方法で行うことができます。

- **USB キー (推奨方法)** – システムには USB キーが付属しており、コントロールユニットとシェルフ管理のデフォルトの IP アドレスが格納されています。
これらのデフォルトは、最初に PC で変更してから、RMX にアップロードします。
- **直接接続** – RMX とコンピュータ間にプライベートネットワークを作成し、RMX Web Client の初期設定ウィザードを使用して管理ネットワークのパラメーターを変更します。
詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Configuring Direct Connections to RMX」、**G-1** ページを参照してください。

デフォルトの IP サービス (会議サービス)

デフォルトの IP サービス (会議サービス) は、RMX と会議デバイス間の通信を設定および管理するために使用されます。

IP ネットワークサービスの必須情報

RMX ユニットを設置する際は、ローカルネットワーク設定に合わせて、これらのデフォルト IP アドレスを変更する必要があります。したがって、初めて RMX ユニットの電源を入れる前に、表のローカルネットワーク設定の項目を入力するのに必要な情報をネットワーク管理者から入手することが重要です。



メディア、シグナリングおよび管理ネットワークは、セキュリティを強化するために、RMX システム上で物理的に分離できます。RMX 4000 に 8 つまでのメディアとシグナリングネットワークを定義するか、RMX 2000 に 4 つ、RMX 1500 に 2 つを定義できます。詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「複数のネットワーク」を参照してください。

各 RMX には、ローカルネットワークで IP アドレスを以下のために割り当てる必要があります。

- コントロールユニット
- シグナリングホスト
- シェルフ管理 (RMX 1500 のオプション)

RMX にインストールされた各 MPM カードには、追加の IP アドレスも必要です。

例：

- **RMX 1500** — ネットワーク管理者は：
 - 1 枚の MPMx カードを備えた MCU にはローカルネットワークで **3 つ** の IP アドレスを割り当てる必要があります。
 - 分離した シェルフ管理 IP アドレスが必要な場合は、1 枚の MPMx カードを備えた MCU にはローカルネットワークで **4 つ** の IP アドレスを割り当てる必要があります。
- **RMX 2000** — ネットワーク管理者は、1 枚の MPM/MPM+/MPMx カードを備えた MCU にはローカルネットワークで **4 つ** の IP アドレスを、2 枚の MPM/MPM+/MPMx カードを備えた MCU には **5 つ** の IP アドレスを割り当てる必要があります。
- **RMX 4000** — ネットワーク管理者は、1 枚の MPM+/MPMx カードを備えた MCU にはローカルネットワークで **4 つ** の IP アドレスを、4 枚までの MPM+/MPMx カードを備えた MCU には **7 つ** までの IP アドレスを割り当てる必要があります。



バージョン 7.1 から、MPM メディアカードはサポートされていません。

表 2-1 ネットワーク装置情報およびアドレス情報

パラメーター	出荷時デフォルト	ローカルネットワーク設定
コントロールユニット IP アドレス	192.168.1.254	
コントロールユニット サブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトのルーター IP アドレス	192.168.1.1	
シェルフ管理 IP アドレス	192.168.1.252	
シグナリングホスト IP アドレス	—	
メディアカード 1 IP アドレス	—	
メディアカード 2 IP アドレス RMX 2000/4000 のみ	—	
メディアカード 3 IP アドレス RMX 4000 のみ	—	
メディアカード 4 IP アドレス RMX 4000 のみ	—	

表 2-1 ネットワーク装置情報およびアドレス情報 (続き)

パラメーター	出荷時デフォルト	ローカルネットワーク設定
ゲートキーパー IP アドレス (オプション)	—	
DNS IP アドレス (オプション)	—	
SIP サーバ IP アドレス (オプション)	—	

ISDN/PSTN サービス

ISDN/PSTN ネットワークサービスは、ISDN/PSTN スイッチのプロパティと、ISDN/PSTN スイッチから RMX に取り付けられた ISDN カードまでの ISDN 回線のプロパティを定義するために使用されます。

ISDN/PSTN ネットワークサービスを設定する前に、ISDN/PSTN サービスプロバイダから以下の情報を入手してください。

- スイッチタイプ
- 回線符号化およびフレーミング
- 番号プラン
- 番号タイプ
- ダイヤルイン番号範囲



RMX が公衆 ISDN ネットワークに接続されている場合は、外部 CSU または類似の装置が必要です。

RMX の開梱

RMX 1500 の開梱

RMX 1500 を開梱して取り出すには：

- 1 RMX 1500 の納品時に、装置が損傷していないか点検し、各コンポーネントを梱包明細とつき合わせて確認してください。
- 2 梱包の一番上のカバーを開きます。
2つの箱がストラトセルの上に置かれています。
 - *Installation Accessories (取り付け付属品)* と書かれた箱には、電源ケーブルと USB キーのキットが入っています。
 - *Rack Installation Accessories (ラック取り付け付属品)* と書かれた箱には、下の表のように、19 インチ / 23 インチラックの付属品キットが入っています：



RMX のシリアル番号は、ユニット背面のステッカーに書かれています。この番号は、後述の製品登録が必要となります。

表 2-2 19 インチおよび 23 インチラック取付け付属品パッケージ

品目 ID	説明	数量
MEC2791A-L0	RMX 1500 ラック取付けシャーシランナー (長さ 60cm)。19 インチ /23 インチラックの両方で、これらのランナーをラックに取り付ける必要があります。	2

RMX 2000 の開梱

RMX 2000 を開梱して取り出すには：

- 1 RMX 2000 の納品時に、装置に損傷がないかを点検し、各コンポーネントを梱包明細とつき合わせて確認してください。
- 2 RMX 2000 梱包ケースの一番上のカバーを開き、*Installation Accessories* (取付け付属品) キットの中に電源ケーブルと USB キーが含まれていることを確認してください。
- 3 一番上のカバーを外し、RMX 2000 を箱から取り出し、平らな床に置きます。



RMX のシリアル番号は、ユニット背面のステッカーに書かれています。この番号は、後述の製品登録で必要となります。

RMX 4000 の開梱

RMX 2000/4000 を開梱して取り出すには：

- 1 RMX 2000/4000 の納品時に、装置に損傷がないかを点検し、各コンポーネントを梱包明細とつき合わせて確認してください。
- 2 RMX 2000/4000 は、ストラトセルで梱包されて出荷されます。一番上のカバーを取り外してください。
- 3 梱包の一番上のカバーを開きます。
2つの箱がストラトセルの上に置かれています。
 - *Installation Accessories* (取付け付属品) と書かれた箱には、電源ケーブルと USB キーのキットが入っています。
 - *Rack Installation Accessories* (ラック取付け付属品) と書かれた箱には、下の表のように、19 インチと 23 インチラックの付属品キットが入っています。



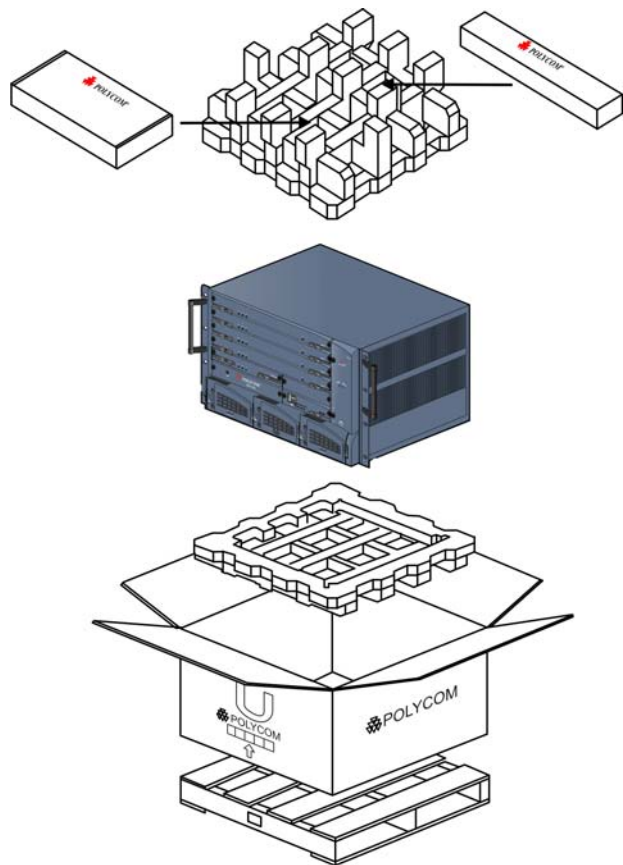
RMX のシリアル番号は、ユニット背面のステッカーに書かれています。この番号は、後述の製品登録で必要となります。

表 2-3 19 インチおよび 23 インチラック取付け付属品パッケージ

品目 ID	説明	数量
MEC2474A-L0	RMX 4000 ラック取付けシャーシランナー (長さ 60cm)。19 インチおよび 23 インチラックの両方で、これらのランナーをラックに取り付ける必要があります。	2
MEC2475A-L0	RMX 4000 の正面に取り付ける 23 インチブラケット。	2

必要な部品がすべて入っていることを確認してください。

- 4 箱を取り出し、一番上のストラトセルを取外し、RMX を梱包している帯電防止バッグを開きます。



- 5 両側のハンドルを持ち、RMX 2000/4000 を箱から取り出し、平らな床に置くかラックに取り付けます。RMX 2000/4000 を配置する前に、梱包材料をすべて取り除きます。



注意：
MCU の梱包箱からの取り出しおよびラックへの取り付けは、必ず 2 名で行ってください。



RMX のシリアル番号は、ユニット背面のステッカーに書かれています。この番号は、後述の製品登録が必要となります。

出荷時デフォルトの USB キーの管理ネットワーク設定の変更

USB キーには *lan.cfg* テキストファイルが含まれており、出荷時の IP アドレスパラメーターが保管されています。これらのパラメーターは、*LAN Configuration Utility* を使用してローカルネットワーク設定に合わせて変更する必要があります。また、USB キー上でも変更する必要があります。

USB キーの設定を変更するには

- 1 *Installation Accessories (取り付け付属品)* キットから USB キーを取り出し、PC ワークステーションに挿入します。

Polycom Documentation ウィンドウが表示されます。

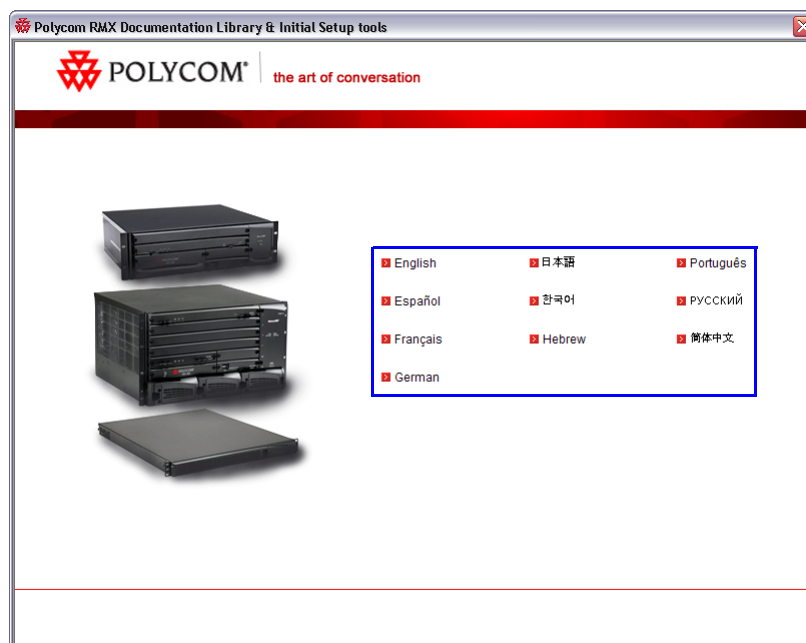
Windows XP では：

- a **Polycom Documentation** オプションが自動的に選択されます。**OK** をクリックします。

Windows 7 では：

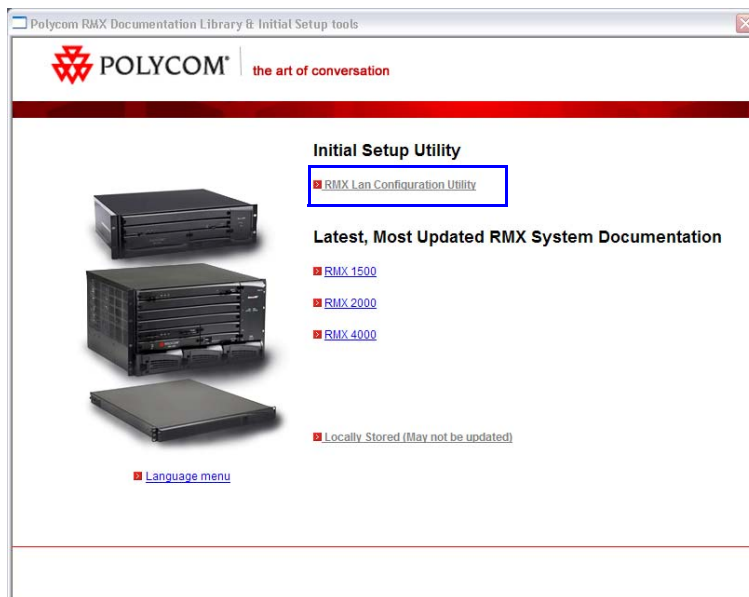
- a **Open Folder to view files using Windows Explorer** を選択します。
- b **index.hta** ファイルをダブルクリックします。

Language Menu が開き、いくつかの言語を選択できます。

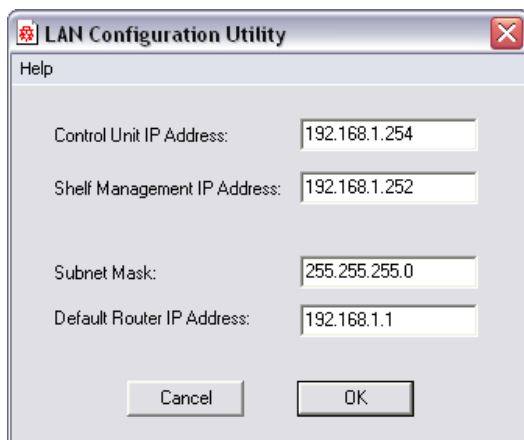


- 2 希望するドキュメンテーション言語をクリックします。
End-User Licence Agreement for Polycom Software が表示されます。
- 3 使用許諾契約書を読み、**Accept Agreement** ボタンをクリックします。

- 4 *Initial Setup Utility* 画面で、**RMX LAN Configuration Utility** リンクをクリックします。



LAN Configuration Utility ダイアログボックスが開きます。



- 5 ネットワーク管理者から提供された情報を使用して、ユーティリティのダイアログボックスの以下のパラメーターを変更します。
- コントロールユニット IP アドレス
 - シェルフ管理 IP アドレス
 - サブネットマスク
 - デフォルトのルーター IP アドレス
- 6 **OK** をクリックします。
- 7 PC ワークステーションから USB キーを取外します。
USB キーは、RMX の 初回の電源起動と設定に必要です。

ハードウェアの設置とセットアップ

換気の良い場所で、RMX 1500/RMX 2000 ユニットを 19 インチラックに取り付けます。RMX 4000 ユニットは 19 インチまたは 23 インチのラックに取り付けることができます。RMX 1500/2000/4000 Hardware Guides の「設置場所の要件」、1-5 ページで説明されている設置場所要件に従うことが重要です。



特に高速ビットレートでの通話環境では、会議の性能を最大限にするため、すべての RMX タイプに 1Gb の接続をお勧めします。

RMX 1500 の設置



RMX 1500 の取付け説明、事前注意および要件の詳細については、『Polycom RMX 1500 ハードウェアガイド』を参照してください。

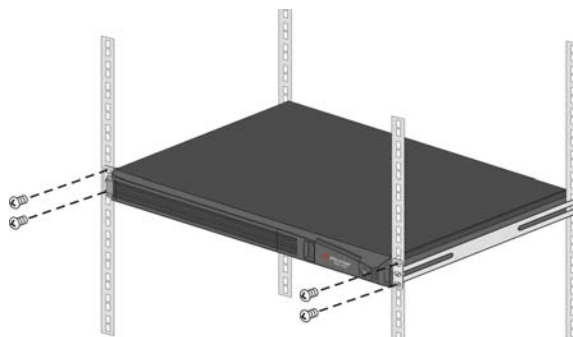
RMX 1500 を設置する際は、以下の手順に従ってください。

- RMX をラックまたはそのまま床に置きます。
- RMX 1500 を電源に接続します。
- ネットワーク (LAN および ISDN) ケーブルを RMX に接続します。

RMX 1500 のラックへの取り付け

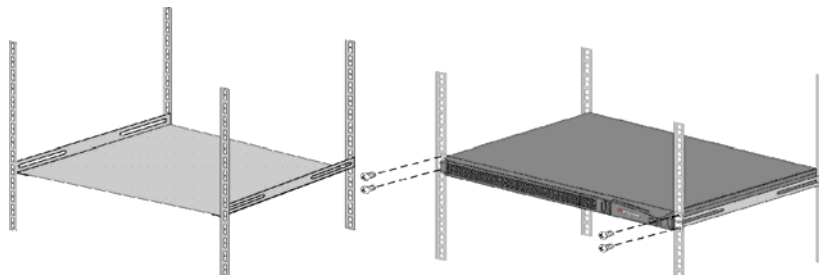
RMX の 19 インチラックへの取り付けには、以下の 2 つの方法があります。

- **RMX 1500 にシャーシ ランナーを使用する**
 - Polycom が提供したシャーシ ランナーを、ラックの製造メーカーが提供したネジ (1 つのシャーシ ランナーに 2 本のネジ) を使用して取り付けます。
 - シャーシ ランナーの上に RMX 1500 を取り付けます。
 - RMX 前面の取り付けブラケットにある 4 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。



シャーシ ランナーの長さは 60cm (23.62 インチ) です。ラックの奥行きが異なる場合は、代わりにシェルフを使用することができます。

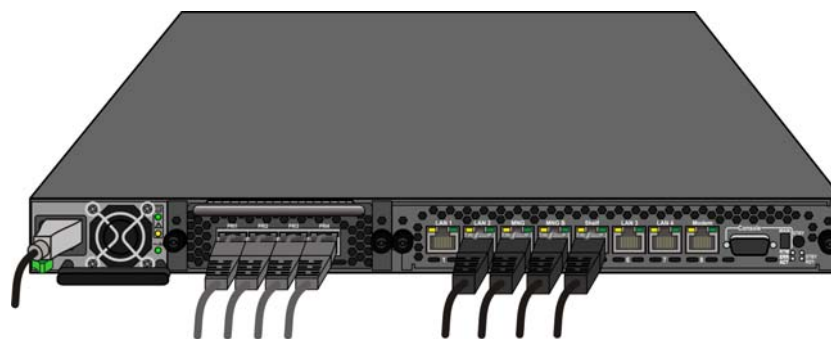
- シェルフを使用する
 - ラックメーカー製のシェルフをラックに取り付けます。
 - RMX をシェルフの上に載せます。
 - RMX 前面の取り付けブラケットにある 4 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。



RMX 1500 へのケーブル接続

ケーブルを接続するには：

- RTM IP 1500 モジュールの場合：
 - メディアケーブルを **LAN 2** ポートに接続します。
(オプション) LAN ケーブルを **LAN 1** に接続します。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*LAN Redundancy*」、**14-30** ページを参照してください。
 - ネットワークケーブルを **MNG** (シグナリング) ポートおよび **MNG B** 管理ネットワーク) ポートに接続します。
 - (オプション) シェルフ管理ケーブルをシェルフポートに接続します。
- RTM ISDN 1500 モジュールの場合：
 - E1/T1 ケーブルをそれぞれの **PRI (1-4)** ポートに接続します。



電源ケーブル E1/T1 PRI 接続 LAN 2 - メディア、MNG - シグナリング、MNG B - 管理 & シェルフ

図 2-1 AC 電源と通信ケーブルを接続した状態の RMX 1500 リアパネル



LAN1、LAN3、LAN4 およびモデムポートは使用しませんので、これらのポートのプラスチックキャップは取り外さないでください。

RMX 2000 の設置



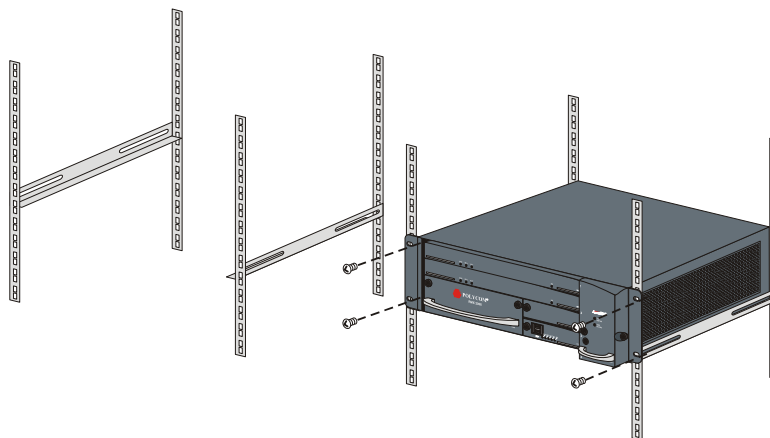
RMX 2000 の取付け説明、事前注意および要件の詳細については、『Polycom RMX 2000 ハードウェアガイド』を参照してください。

- RMX 2000 を設置場所に設置する際は、以下の手順に従ってください。
- RMX をラックまたはそのまま床に置きます
- RMX 2000 を電源に接続します
- ネットワーク (LAN および ISDN) ケーブルを RMX に接続します

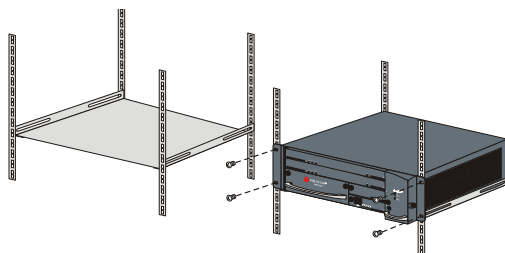
RMX 2000 のラックへの取り付け

RMX の 19 インチラックへの取り付けには、以下の 2 つの方法があります。

- **RMX 2000 にラックブラケットを使用する**
 - ラックメーカー製のラックブラケットをラックに取り付けます。
 - RMX 2000 をラックブラケットの上に載せます。
 - RMX 前面の取り付けブラケットにある 4 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。



- **シェルフを使用する**
 - ラックメーカー製のシェルフをラックに取り付けます。
 - RMX をシェルフの上に載せます。
 - RMX 前面の取り付けブラケットにある 4 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。



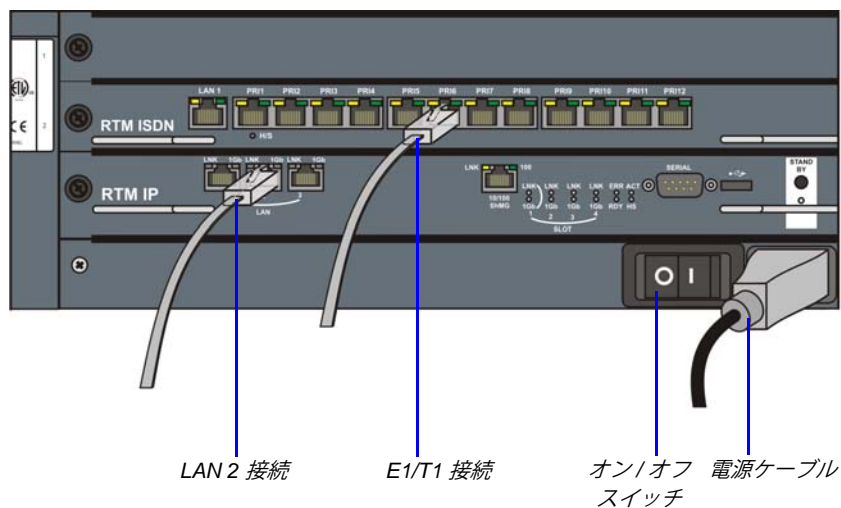
RMX 2000 へのケーブル接続



LAN 1、LAN 3 および ShMG ポートから保護キャップを取り外さないでください。

以下のケーブルをバックパネルに接続します。

- 電源ケーブル
 - RTM IP カードで、LAN ケーブルを **LAN 2** ポートに接続します。
(オプション) LAN ケーブルを **LAN 1** に接続します。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「LAN Redundancy」[14-30](#) ページを参照してください。
- RTM ISDN カードで、E1/T1 ケーブルを **PRI** ポートに接続します



RMX 4000 の設置

RMX 4000 を設置場所に設置する際は、以下の手順に従ってください。

- RMX をラックに取り付けます
- RMX 4000 を電源に接続します
- ネットワーク (LAN および ISDN) ケーブルを RMX に接続します

RMX 4000 のラックへの取り付け

RMX 2000/4000 は、卓上などの硬くて平らな面または 19 インチ / 23 インチラックに設置します。

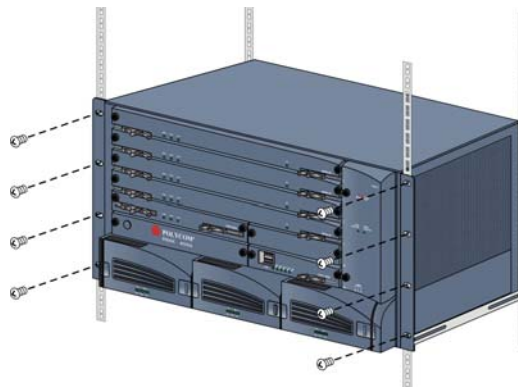


安全要件、事前注意、RMX 4000 の床または 23 インチラックへの設置、RMX 4000 の 19 インチラックへの逆取付けについての詳細は、『*RMX 4000 ハードウェアガイド*』を参照してください。

RMX 4000 を 19 インチラックへ取り付ける場合は、以下の手順に従います。

- RMX 4000 にラックブラケットを使用する
 - Polycom 製のシャーシランナーをラックに取り付けます。

- RMX 4000 をラックブラケットの上に載せます。
- RMX 前面の取り付けブラケットにある 8 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。
- シェルフを使用する
 - ラックメーカー製のシェルフをラックに取り付けます。
 - RMX をシェルフの上に載せます。
 - RMX 前面の取り付けブラケットにある 4 つの穴にネジを通して RMX をラックに固定します。



RMX 4000 の電源への接続



保護接地線およびケーブルのサイズは、最低 10AWG としてください。

以下の電源ケーブルを RMX 4000 バックパネルに接続します。

AC 電源接続:

- 1 各電源ケーブルを 3 つの AC 電源入力モジュール (PEM) に差し込みます。



図 2-2 RMX 4000 リアパネル、AC 電源を接続した状態

DC 電源接続:

- 1 DC 電源レールモジュールで、2つのサーキットブレーカーをオフにします。

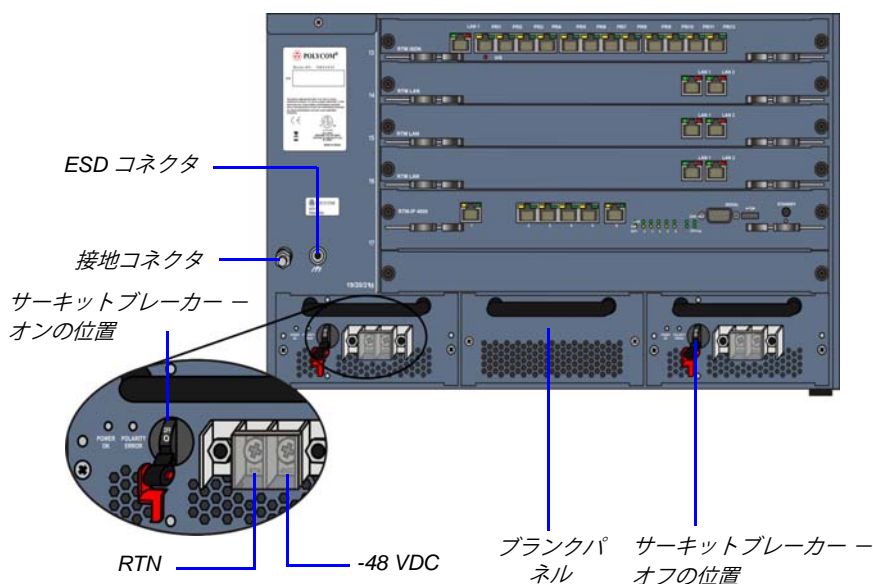


DC 電源レールモジュールには、2種類のサーキットブレーカーを使用できます。詳細については、『RMX 4000 ハードウェアガイド』を参照してください。

- 2 DC 電源装置に給電する主電源からのケーブルを切断するか、接続を外してください。
- 3 端子ブロックの透明プラスチックキャップを外します。
- 4 DC 電源供給装置から配線している 10 AWG ケーブルを 2 本使用して、黒色の線を -48VDC 端子ブロック、赤色の線を RTN 端子ブロックに接続します。



- RMX 4000 DC 電源レールモデルと主電源の接続には、A 10 AWG ケーブルを使用してください。
- DC 電源の線の終端には、クイックコネクタを使用してください。
- 延長コードの使用はお勧めしません。



中央の PRM スロット / モジュールは、ブランクパネルに取り付けられます。スロットは DC 電圧のシステムには使用できません。

- 5 緑色または緑-黄色の線は、システムの単極 M6x15 「接地」 ボルトに接続します。



保護接地線の定格は、最低 10AWG 以上です。

ラック取り付けの場合、MCU の単極接地をシングルコンダクタのラックに接続して、緩まないように固定してください。裸線を使用する場合、圧着接続を行う前に、適切な酸化防止剤で被覆してください。この手順は、スズメッキ、はんだメッキ、銀メッキのコネクタには適用しないでください。

- 6 端子ブロックの透明プラスチックキャップを取り付けます。

- 7 RMX に給電する主電源を入れます。
- 8 各 DC 電源レールモジュールのサーキットブレーカーをオンにします。

RMX 4000 へのケーブル接続

ケーブルを接続するには (AC および DC システム):

- **RTM-IP 4000:**
 - 管理ネットワークケーブルを **LAN 2** に接続します。
 - シグナリングケーブルを **LAN 3** に接続します。
 - シェルフ管理ケーブルを **LAN 6** に接続します。
- 取り付けた各 **RTM LAN** に対して - LAN ケーブルを **LAN 2** に接続します。
 - (オプション) LAN ケーブルを **LAN 1** に接続します。複数のネットワークと LAN の冗長化の設定で、LAN 1 ポートが使用されます。詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「LAN Redundancy」、[14-30](#) ページと「RMX Configuration」、ページ [14-53](#) を参照してください。
- 取り付けた各 **RTM ISDN** に対して:
 - E1/T1 ケーブルをそれぞれの **PRI** ポートに接続します。
 - LAN ケーブルを **LAN 1** に接続します。

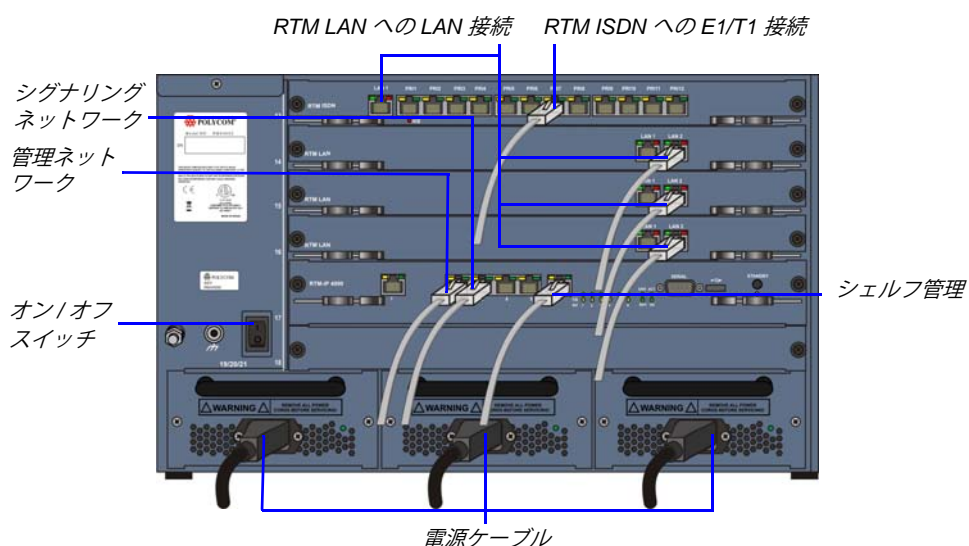
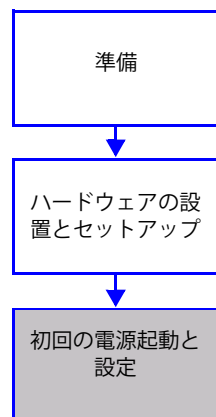


図 2-3 AC 電源と通信ケーブルを接続した状態の RMX 4000 リアパネル

初回の電源起動と設定



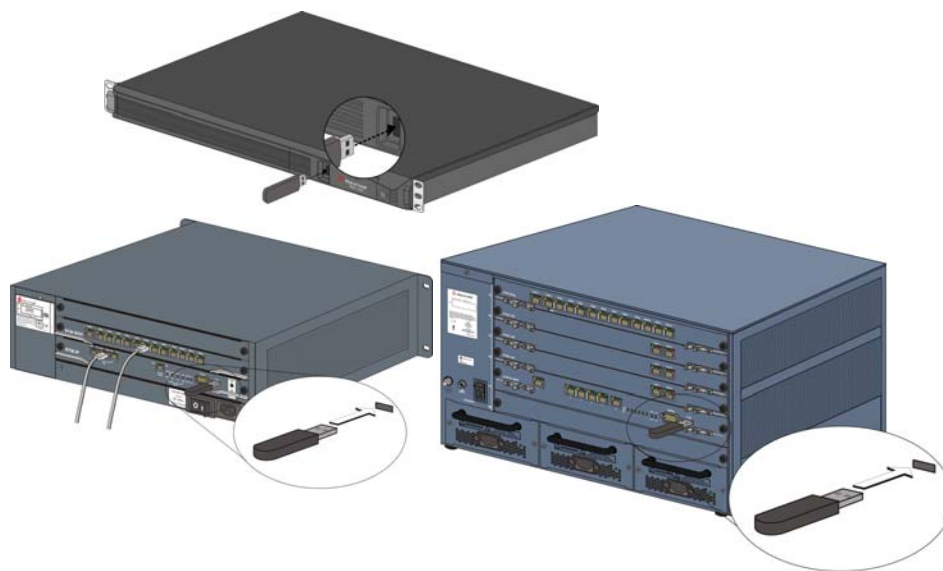
新規の RMX をセットアップするには、4 つの手順を実行する必要があります。これらの手順は、以下の順序で実行することが重要です。

- 1 初回の電源起動
- 2 製品の登録
- 3 MCU への接続
- 4 デフォルトの IP および ISDN/PSTN サービス設定の変更 (初期設定ウィザード)

手順 1: 初回の電源起動

USB キーを使用して初回の電源起動を行うには：

- 1 変更済みの IP アドレスが格納された USB キーを RMX 1500 のフロントパネルおよび RMX 2000/4000 のバックパネルにある USB ポートに挿入します。



- 2 RMX の電源を入れます。

AC システム — RMX 1500/2000/4000 のリアパネルにある電源スイッチを押して電源を入れます。

DC システム (RMX 4000) — RMX に給電する主電源を入れ、各 DC 電源レールモジュールをオンにします。

電源起動中に lan.cfg ファイルのパラメーターが USB キーから RMX のメモリにアップロードされて適用されます。

システムの起動段階は、5 分程度かかることがあります。

初回の電源起動中は、*管理*および IP ネットワークサービスの両方が定義されるまで RMX のフロントパネルの赤色の ERR LED は オンのままです。

RMX の設定が完了すると (*管理*および IP ネットワークサービスを含む)、システムエラーがなければ、(RMX のフロントパネルの) CNTL モジュールの緑色の RDY LED がオンになります。

- 3 RMX への接続が確立して、ログイン画面が表示されたら、USB キーを取り外します。詳細については、「*手順 3: MCU への接続*」、2-17 ページを参照してください。

手順 2: 製品の登録

RMX を使用できるようにするには、製品を登録してアクティベーションキーを入手する必要があります。

初回の電源起動時に、製品アクティベーションダイアログボックスが表示され、アクティベーションキーの入力を指示するメッセージが表示されます。

アクティベーションキーの入手

- 1 Polycom Web サイトの *Service & Support* ページにアクセスします。
(<http://support.polycom.com>)
- 2 電子メールアドレスとパスワードでログインするか、新しいユーザとして登録します。
- 3 **Product Registration (製品登録)** を選択します。
- 4 *Product Registration* および *Product Activation* の画面の指示に従います (RMX のシリアル番号は、ユニットの背面のシールにあります)。詳細については、製品に同梱された RMX ソフトウェアライセンス書類を参照してください。
- 5 製品のアクティベーションキーが表示されたら、書き留めるかコピーして、後で製品アクティベーションダイアログボックスのアクティベーションキーフィールドに貼り付けができるようにしておきます。

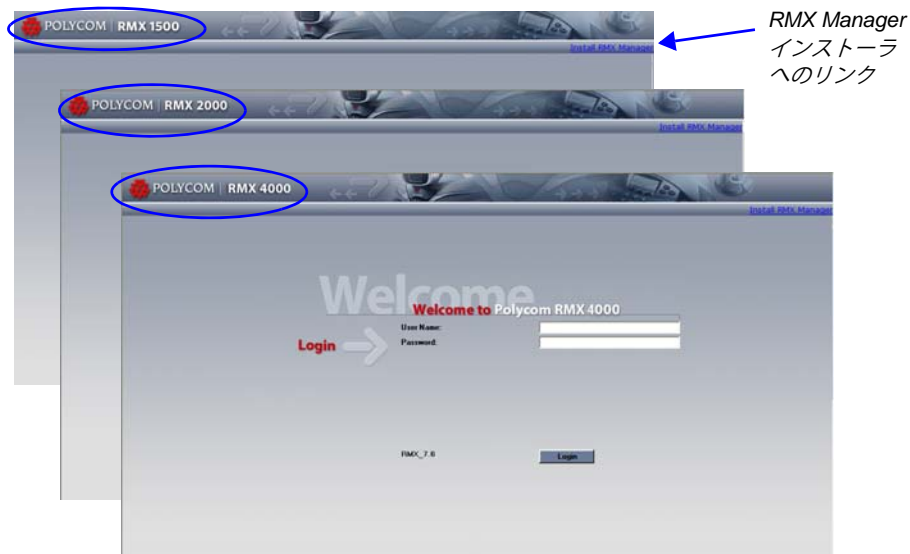
手順 3: MCU への接続



Windows7 がワークステーションにインストールされている場合、Version 7.0 ソフトウェアを実行中の MCU に接続する前に、[保護モード] を無効にしてください。
詳細については、「*Windows 7 セキュリティ設定*」、1-12 ページを参照してください。

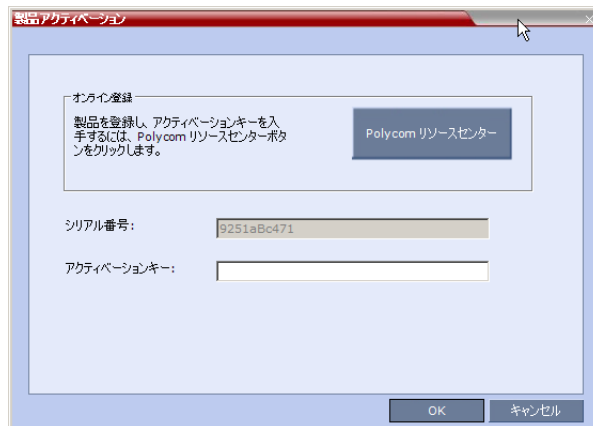
- 1 ワークステーションで RMX Web Client アプリケーションを起動します。
 - a ブラウザのアドレス行に、コントロールユニットの IP アドレスを以下の形式で入力します : **http://<Control Unit IP Address>**。これは、USB キーで定義されているものと同じです。
 - b **Enter** キーを押します。

RMX Web Client のログイン画面が表示されます。



RMX との接続が確立されたら、USB キーは RMX から取り外すことができます。

- 2 RMX Web Client のログイン画面で、デフォルトのユーザ名 (**POLYCOM**) とパスワード (**POLYCOM**) を入力し、ログインをクリックします。
RMX Web Client が起動し、製品アクティベーションダイアログボックスが、下図のようにシリアル番号が入力された状態で表示されます。



- 3 前の手順で入手した製品アクティベーションキーをアクティベーションキーフィールドに入力するか、コピーして貼り付けます。
- 4 **OK** をクリックします。
デフォルトの IP ネットワークサービスが定義されていないので、初期設定ウィザードが自動的に起動します。

手順 4: デフォルトの IP サービスおよび ISDN/PSTN ネットワークサービス設定の変更

初期設定ウィザードに従って、デフォルト IP ネットワークサービスを設定します。このウィザードは、デフォルトの IP ネットワークサービスが定義されていない場合は自動的に起動します。初回の電源起動時、サービスが定義される前またはシグナリングサービスが削除された後に RMX を再起動すると、このウィザードが自動的に開かれます。

初期設定ウィザードの IP 管理サービスタブは、出荷時デフォルトの管理 IP アドレスが変更されていない場合にのみ有効になります。



RMX 1500、RMX 2000 および RMX 4000 の初期設定ウィザードでは、IPv4 がネットワークサービス設定のためのデフォルトのプロトコルです。

IPv6 アドレス指定が必要な場合、初期設定ウィザードを完了後に以下を行います：

- 1 IPv6 アドレス指定または IPv4 および IPv6 アドレス指定を使用して、管理ネットワークを変更します。
- 2 RMX を再起動します。
- 3 初期設定ウィザードを起動して、IPv6 アドレス指定または IPv4 および IPv6 アドレス指定オプションを使用して、シグナリングネットワークサービスを設定します。

IP ネットワークサービスの詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』を参照してください。

初期設定ウィザード

- 1 必須の IP 情報をダイアログボックスに入力します。

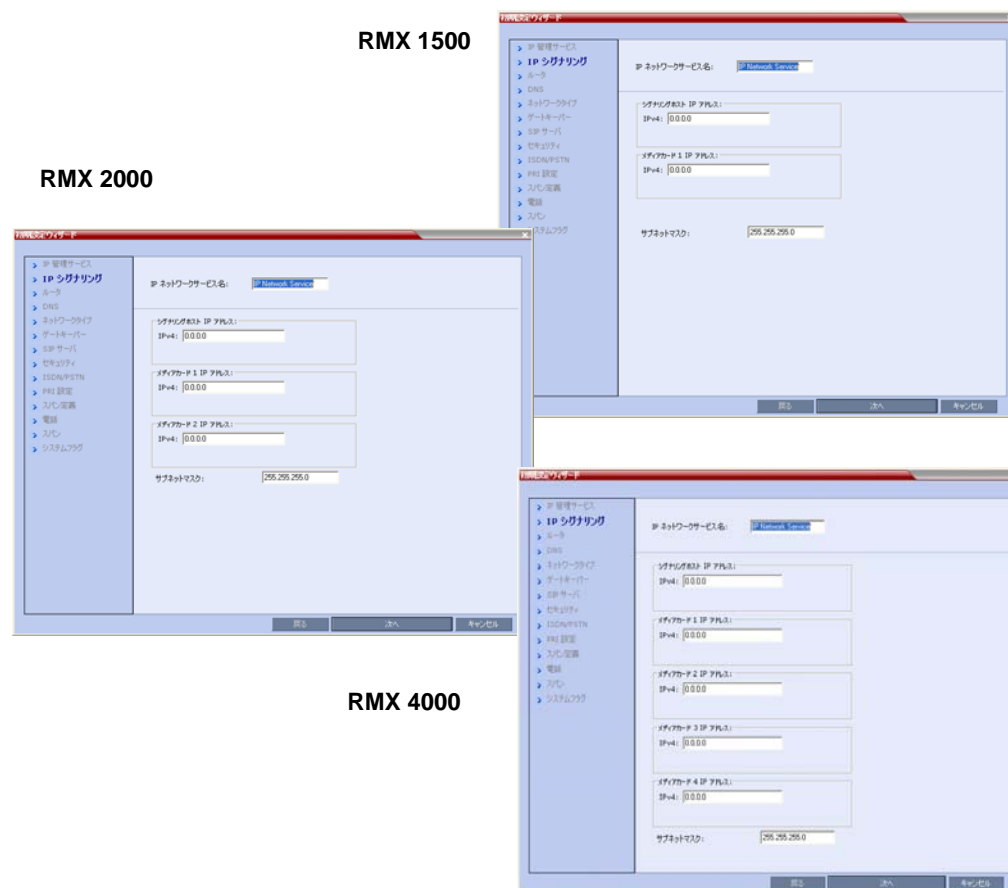


表 2-4 初期設定ウィザード IP シグナリング

フィールド	説明
ネットワークサービス名	初期設定ウィザードで、 <i>Default IP Service</i> という名前が IP ネットワークサービスに割り当てられます。この名前は変更できます。 メモ: このフィールドは、すべての IP シグナリングダイアログボックスで表示され、Unicode エンコーディングを使用する文字セットを含むことができます。
シグナリングホスト IP アドレス	IP エンドポイントから MCU にダイヤルインするときに使用するアドレスを入力します。 RMX からのダイヤルアウトは、このアドレスから開始されます。このアドレスは、RMX をゲートキーパーまたは SIP プロキシサーバに登録するために使用されます。

表 2-4 初期設定ウィザード IP シグナリング (続き)

フィールド	説明
メディアカード 1-4 IP アドレス	ネットワーク管理者から入手した メディアカード MPM/MPM+/MPMx 1 および MPM/MPM+/MPMx 2-4 (インストールされている場合) の IP アドレスを入力します。エンドポイントは、これらのアドレスを使用して会議に接続し、通話メディア (ビデオ、音声、およびコンテンツ) を送信します。
サブネットマスク	MCU のサブネットマスクを入力します。 デフォルト値 : 255.255.255.0.



RMX 上でセキュリティ保護された通信が必要な場合：初期設定ウィザードを完了し、ログインして、証明書をインストールしてからセキュアな通信モードを有効にします。

- 2 次へをクリックします。
- 3 必須のルータ情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-5 初期設定ウィザード – ルータ

フィールド	説明
デフォルトのルータ IP アドレス	デフォルトのルータの IP アドレスを入力します。

- 4 次へをクリックします。

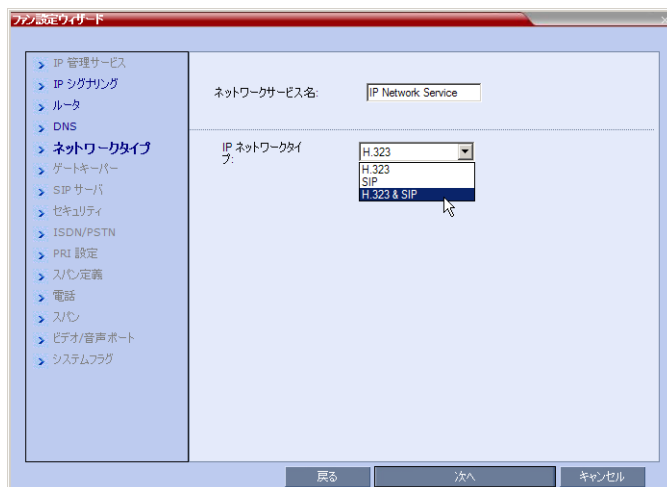
5 必須の DNS 情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-6 初期設定ウィザード DNS

フィールド	説明
MCU ホスト名	ネットワーク上の MCU の名前を入力します。 デフォルトの名前は RMX です。
DNS	<p>以下のように選択します：</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ – ネットワーク内で DNS サーバが使用されていない場合 • 指定 – DNS サーバの IP アドレスを入力する場合 <p>メモ： IP アドレスのフィールドは、指定を選択した場合のみ有効になります。</p>
ホスト名を DNS サーバに自動的に登録する	MCU シグナリングホストおよびシェルフ管理を DNS サーバに自動的に登録するには、このオプションを選択します。
ローカルドメイン名	MCU がインストールされたドメインの名前を入力します。
プライマリ DNS サーバの IP アドレス	プライマリ DNS サーバの静的 IP アドレス。

6 次へをクリックします。

7 IP ネットワークタイプを選択します(H.323、SIP または H.323 および SIP)。



8 次へをクリックします。

9 SIP を選択した場合のみ、手順 13 に進みます。

10 必須のゲートキーパー情報をダイアログボックスに入力します。

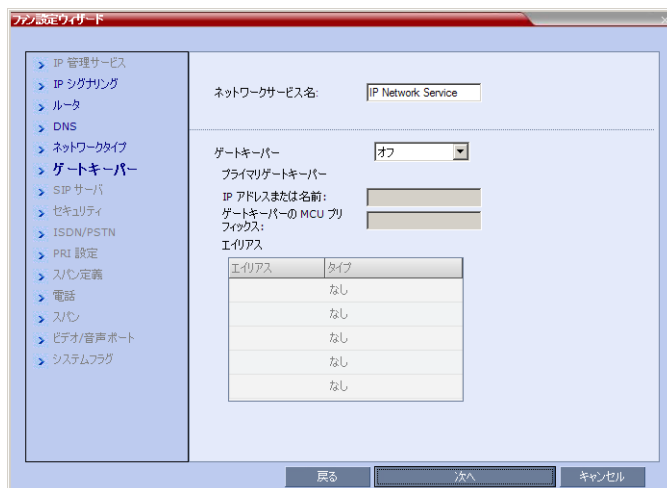


表 2-7 初期設定ウィザード ゲートキーパー

フィールド	説明
ゲートキーパー	ゲートキーパー IP アドレスの設定を有効にするには、 指定 を選択します。 オフ を選択すると、すべてのゲートキーパーオプションが無効になります。
プライマリゲートキーパー	
IP アドレスまたは名前	ゲートキーパーのホスト名 (DNS サーバが使用されている場合) か、IP アドレスのいずれかを入力します。

表 2-7 初期設定ウィザード ゲートキーパー (続き)

フィールド	説明
ゲートキーパーの MCU プレフィックス	MCU が MCU 自身をゲートキーパーに登録するとき使用する文字列を入力します。 ゲートキーパーは通話を MCU に転送するとき、この文字列を使用して MCU を識別します。 H.323 エンドポイントは MCU にダイヤルするとき、ダイヤルイン文字列の一部としてこの番号を使用します。
エイリアス	
エイリアス	ネットワーク内の RMX のシグナリングホストを識別するエイリアス。各 RMX に最大 5 つのエイリアスを定義できます。 メモ ：ゲートキーパーを指定する場合は、少なくとも 1 つのエイリアスをこのテーブルに入力する必要があります。 追加のエイリアスやプレフィックスも入力することができます。
タイプ	タイプでは、カードのエイリアスがゲートキーパーに送信される時の形式を定義します。各エイリアスのタイプは異なっていてもかまいません。 <ul style="list-style-type: none"> • H.323 ID (英数字 ID) • E.164 (数字の 0 ～ 9、*、#) • Email ID (電子メールアドレス形式、例 abc@example.com) • 参加者番号 (数字の 0 ～ 9、*、#) メモ ：すべてのタイプがサポートされていますが、使用されるエイリアスのタイプは、ご使用のゲートキーパーの機能によって異なります。

- 11 次へをクリックします。
- 12 H.323 を選択した場合のみ、手順 15 に進みます。
- 13 必須の SIP サーバ情報をダイアログボックスに入力します。

初期設定ウィザード

> IP 管理サービス
 > IP シグナリング
 > ルータ
 > DNS
 > ネットワークタイプ
 > ゲートキーパー
> SIP サーバ
 > セキュリティ
 > ISDN/PSTN
 > PRI 設定
 > スビン定義
 > 電話
 > スビン
 > ビデオ/音声ポート
 > システムフラグ

ネットワークサービス名: IP Network Service

SIP サーバ: オフ

サーバ IP アドレスまたは名前: 0.0.0.0

サーバドメイン名: DomainName

トランスポートタイプ: TCP

戻る 保存 & 続行 キャンセル

表 2-8 初期設定ウィザード SIP サーバ

フィールド	説明
SIP サーバ	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 指定 – SIP サーバを手動で設定する場合 • オフ – ネットワーク内に SIP サーバが存在しない場合
SIP サーバ IP アドレス	優先する SIP サーバの IP アドレスまたはホスト名 (DNS サーバが使用されている場合) のいずれかを入力します。
トランスポートタイプ	SIP サーバでサポートされるプロトコルに基づいて、MCU と SIP サーバまたはエンドポイントの間のシグナリングに使用するプロトコルを選択します。 <p>UDP – シグナリングに UDP を使用するには、このオプションを選択します。</p> <p>TCP – シグナリングに TCP を使用するには、このオプションを選択します。</p> <p>TLS – シグナリングホストはセキュリティで保護されたポート 5061 のみを受信し、すべての発信接続はセキュリティで保護された接続として確立されます。SIP クライアントまたはサーバからのセキュアでないポートへの通話は拒否されます。</p>
トランスポートタイプ (続き)	以下のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> • TLS 1.0 • SSL 2.0 • SSL 3.0

14 次へをクリックします。

必須のセキュリティ情報をダイアログボックスに入力します。

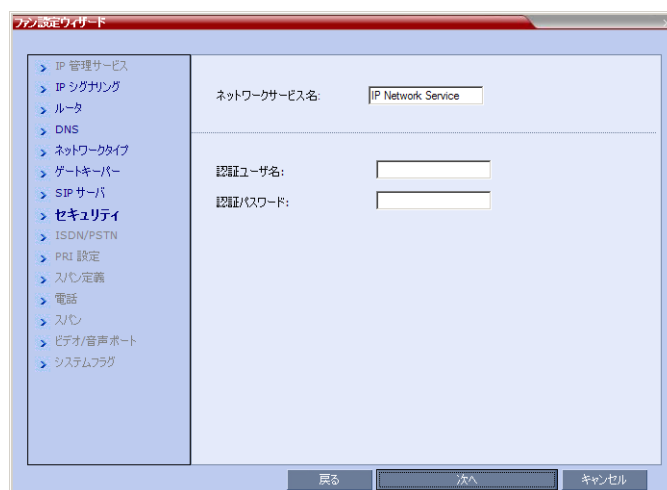
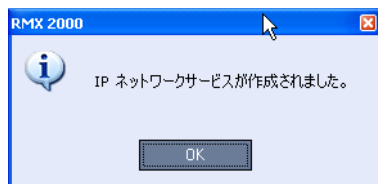


表 2-9 初期設定ウィザード - セキュリティ

フィールド	説明
認証 ユーザ名	会議、エントリーキュー、またはミーティングルームの名前を、プロキシに登録されているとおりに入力します。 このフィールドには、最大 20 の ASCII 文字を入力できます。
認証 パスワード	会議、エントリーキュー、またはミーティングルームのパスワードを、プロキシで定義されているとおりに入力します。 このフィールドには、最大 20 の ASCII 文字を入力できます。

15 次へをクリックします。

IP ネットワークサービスが作成されたことが示されます。

**16** OK をクリックします。

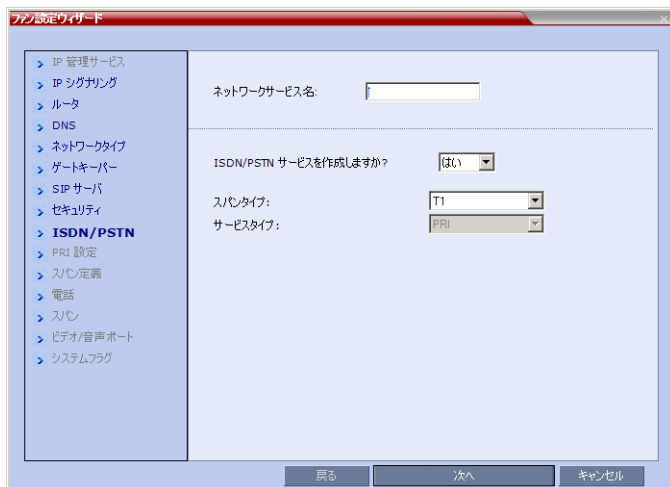
RMX の初期設定中に RTM ISDN カードの存在が検出されると、初期設定ウィザードの ISDN/PSTN ネットワークサービス定義画面が有効になります。

RMX に RTM ISDN カードがない場合または ISDN/PSTN ネットワークサービスを定義しない場合は、ステップ 33 に進みます。



システムに RTM ISDN カードがインストールされていなくても、新規の ISDN/PSTN ネットワークを定義できます。**この場合、ISDN/PSTN ネットワークサービス -> 新規サービスの追加**ダイアログボックスでのみ定義できます。

初期設定ウィザードの ISDN/PSTN 設定シーケンスは、ISDN/PSTN ダイアログボックスから始まります。



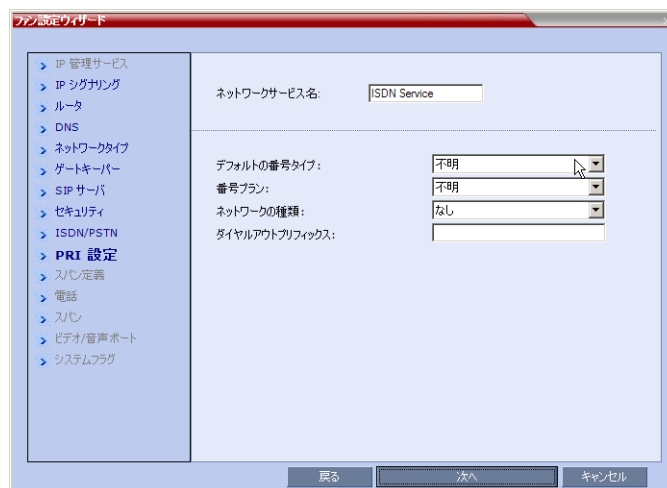
17 以下のパラメーターを定義します。

表 2-10 初期設定ウィザード - ISDN サービス設定

フィールド	説明
ネットワークサービス名	<p>サービスプロバイダ (キャリア) 名またはその他の任意の名前を 20 文字以内で指定します。ネットワークサービス名により、ISDN/PSTN サービスはシステムで識別されます。</p> <p>デフォルトの名前: ISDN/PSTN サービス</p> <p>メモ: このフィールドは、すべての ISDN/PSTN ネットワークプロパティタブで表示され、Unicode エンコーディングを使用する文字セットを含むことができます。</p>
スパンタイプ	<p>サービスプロバイダから提供された、RMX に接続されているスパン (ISDN/PSTN) 回線のタイプを選択します。各スパンは、それぞれ別のネットワークサービスとして定義することができます。または、同一キャリアから提供されたすべてのスパンを同一ネットワークサービスの一部として定義することができます。</p> <p>以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • T1 (米国 23 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル) • E1 (ヨーロッパ 30 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル) <p>デフォルト: T1</p> <p>メモ: RMX でサポートされるのは、1 つの スパンタイプ (E1 または T1) のみです。最初のスパンをタイプ E1 として定義した場合、後で定義するその他のスパンもすべてタイプ E1 とする必要があります。</p>
サービスタイプ	<p>サポートされるサービスタイプは PRI のみです。自動的に選択されます。</p>

18 次へをクリックします。

PRI 設定ダイアログボックスが開きます。



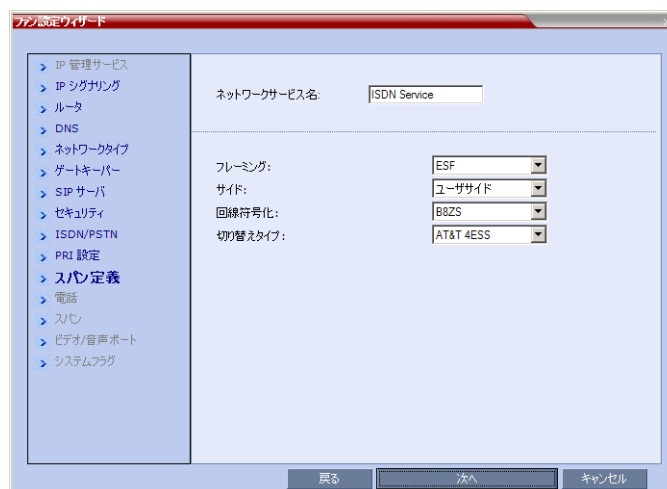
19 以下のパラメーターを定義します。

表 2-11 初期設定ウィザード PRI 設定

フィールド	説明
デフォルトの番号タイプ	<p>デフォルトの番号タイプをリストから選択します。</p> <p>番号タイプは、システムによるダイヤル番号の処理方法を定義します。たとえば、8 桁のダイヤル番号を入力する場合、それが国内であるか国際であるかが番号タイプによって決まります。</p> <p>PRI 回線がネットワークスイッチを介して RMX に接続されている場合、番号タイプでの選択内容は特定の PRI 回線への通話をルーティングするために使用されます。ダイヤル番号をネットワークで解釈させて通話をルーティングする場合は、不明を選択します。</p> <p>デフォルト：不明</p> <p>メモ： E1 スパンの場合、このパラメーターはシステムによって設定されます。</p>
番号プラン	<p>サービスプロバイダから入手した情報に従って、シグナリングのタイプ (番号プラン) をリストから選択します。</p> <p>デフォルト：ISDN</p> <p>メモ： E1 スパンの場合、このパラメーターはシステムによって設定されます。</p>
ネットワークの種類	<p>サービスプロバイダ (キャリア) によってサービスプログラムが使用されている場合は、適切なサービスプログラムを選択します。</p> <p>サービスプロバイダによっては、使用できるサービスプログラムを数個持っている場合があります。</p> <p>デフォルト：なし</p>
ダイヤルアウトプリフィックス	<p>PBX がダイヤルアウトするために必要なプリフィックスを入力します。ダイヤルアウトプリフィックスが不要な場合は、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>このフィールドは空白にするか、0 ～ 9999 の数値を入力できます。</p> <p>デフォルト：空白</p>

20 次へをクリックします。

スパン定義ダイアログボックスが開きます。

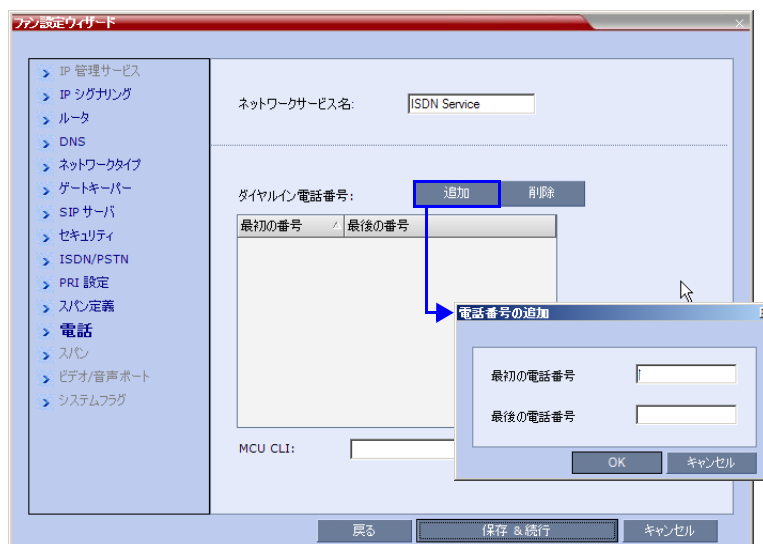


21 以下のパラメーターを定義します。

表 2-12 初期設定ウィザード – スパン定義

フィールド	説明
フレーミング	<p>キャリアがネットワークインターフェース用に使用するフレーミングフォーマットをリストから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> T1 スパンの場合、デフォルトは SFSF です。 E1 スパンの場合、デフォルトは FEFE です。
サイド	<p>以下のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザサイド (デフォルト) ネットワークサイド シンメトリックサイド <p>メモ: PBX がネットワークサイドで設定されている場合は RMX ユニットをユーザサイドとして設定する必要があり、PBX がユーザサイドで設定されている場合は RMX ユニットをネットワークサイドとして設定する必要があります。あるいは、どちらもシンメトリックに設定する必要があります。</p>
回線符号化	<p>PRI の回線符号化方式をリストから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> T1 スパンの場合、デフォルトは B8ZS です。 E1 スパンの場合、デフォルトは HDB3 です。
スイッチタイプ	<p>サービスプロバイダの電話局に設置されたスイッチ装置のブランドとリビジョンレベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> T1 スパンの場合、デフォルトは AT&T 4ESS です。 E1 スパンの場合、デフォルトは EURO ISDN です。

- 22 次へをクリックします。
電話ダイアログボックスが開きます。



- 23 追加をクリックして、ダイヤルイン番号の範囲を定義します。
電話番号の追加ダイアログボックスが開きます。
- 24 以下のパラメーターを定義します。

表 2-13 初期設定ウィザード - 電話番号の追加

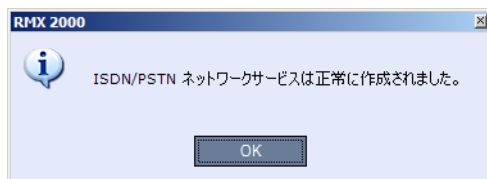
フィールド	説明
最初の番号	電話番号範囲の最初の番号。
最後の番号	電話番号範囲の最後の番号。



- 1 つの範囲に最低 2 件のダイヤルイン番号を含む必要があります。
- 1 つの範囲に 1000 以上のダイヤルイン番号を含むことはできません。

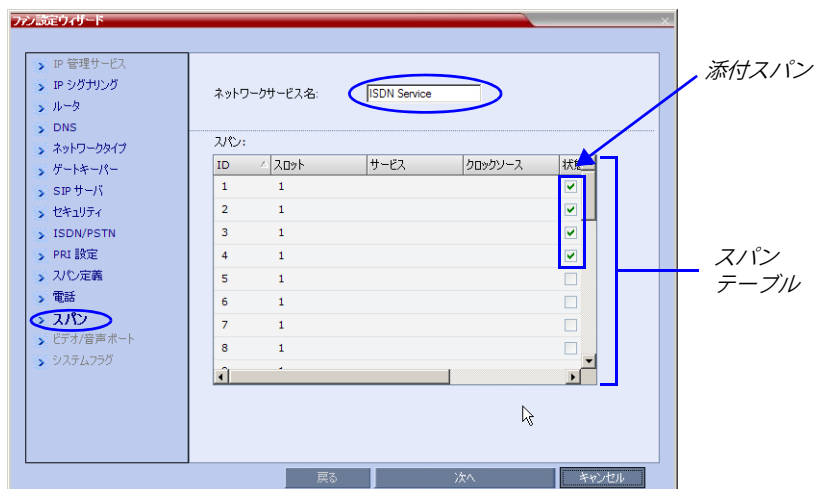
- 25 OK をクリックします。
新しい範囲がダイヤルイン電話番号テーブルに追加されます。
- 26 オプション。ステップ 23 ~ 24 を繰り返して、追加のダイヤルイン範囲を定義します。
- 27 電話タブで、MCU CLI (Calling Line Identification) を入力します。
ダイヤルイン接続では、MCU CLI は参加者がダイヤルする MCU の番号を示します。
ダイヤルアウト接続では、参加者に表示される MCU (CLI) 番号を示します。
- 28 保存して続行をクリックします。
保存して続行をクリックすると、戻るボタンを使用して前の設定ダイアログボックスに戻ることができなくなります。
ISDN/PSTN ネットワークサービスが作成され、ISDN/PSTN ネットワークサービスのリストに追加されます。

システムが ISDN/PSTN ネットワークサービスを作成できない場合は、原因を示すエラーメッセージが表示されます。このメッセージから、ファン設定ウィザードの適切なダイアログボックスにアクセスし、修正作業を行うことができます。



29 OK をクリックして、設定を続けます。

スパンダイアログボックスが開き、以下の読み取り専用フィールドが表示されます。



- **ID** - RTM ISDN カード上のコネクタ (PRI1 ~ PRI12)。
- **スロット** - RTM ISDN / RTM ISDN 1500 カード接続先の MPM/MPM+/MPMx カード (RMX 2000: MPM 1/MPM2 RMX 4000: MPM1/MPM2/MPM3/MPM4)。



RMX 1500 では、スロットフィールドは表示されません。

- **サービス** - スパンが割り当てられている ISDN/PSTN ネットワークサービス。
- **クロックソース** - ISDN シグナリング同期がプライマリまたはセカンダリのクロックソースによって提供されているかどうかを示します。最初に同期化するスパンがプライマリクロックソースになります。
- **状態** - スパンのシステムアラートレベル (重要、軽度)。アラートに関連付けられたスパンがない場合、この列には何も表示されません。

30 添付フィールドのチェックボックスをクリックにして、スパン (E1 回線または T1 PRI 回線) を、ネットワークサービス名フィールドに示されているネットワークサービスに添付します。

スパンテーブルに、システム内のすべてのスパンとすべての ISDN ネットワークサービスの設定が表示されます。

最初の設定でファン設定ウィザードを使用するとき、システム内で最初の ISDN/PSTN ネットワークサービスを定義します。スパンは、このサービスにしか添付できません。

RMX Web Client で、**ISDN/PSTN ネットワークサービス > 新規 PSTN サービス** ボタンを使用して、追加の ISDN/PSTN ネットワークサービスを定義できます。

RMX Web Client で、**ISDN/PSTN ネットワークサービス > ISDN プロパティ > スパン** タブを使用して、ISDN ネットワークサービス間でスパンを添付または移動できます。各 ISDN/RTM カードは、最大 7 本の E1 回線または 9 本の T1 PRI 回線をサポートします (E1 および T1 接続は同時に使用できません)。

31 次へをクリックします。

システムフラグダイアログボックスが表示されます。

32 必須のシステムフラグ情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-14 初期設定ウィザード システムフラグ

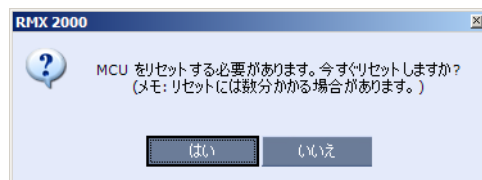
フィールド	説明 / デフォルト	
会議 ID 長 (MCU 割り当て)	MCU によって割り当てられる会議 ID の桁数。 範囲：2 ～ 16 (デフォルト：5)	メモ：2 桁を選択すると、同時に進行する会議が 99 件に制限されます。
最小会議 ID 長 (ユーザサイド)	数字 ID を会議に手動で割り当てるときにユーザが入力しなければならない最小の桁数。 範囲：2 ～ 16 (デフォルト：4)	
最大会議 ID 長 (ユーザ割り当て)	数字 ID を会議に手動で割り当てるときにユーザが入力できる最大の桁数。 範囲：2 ～ 16 (デフォルト：8)	
MCU 表示名	MCU 名は、エンドポイントの画面に表示されます。 デフォルトの名前：Polycom RMX 1500/2000/4000	
チェアパーソン退席時に会議を終了する	はい (デフォルト) を選択すると、他に接続されている参加者がいる場合でも、チェアパーソンが退席したときに会議が終了します。 いいえを選択すると、会議はあらかじめ決められていた終了時刻か、すべての参加者が会議から切断したときに自動的に終了します。	

表 2-14 初期設定ウィザード システムフラグ(続き)

フィールド	説明 / デフォルト
会議時間の自動延長	はい (デフォルト) を選択すると、参加者が接続されて使用可能なリソースがある限り、RMX で実行されている会議は自動的に延長されます。 MCU によって許可される最大延長時間は 30 分です。

これらのフラグは、必要に応じて後で変更することができます。それには、セットアップメニューからシステム設定オプションを選択します。詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「System Configuration」、19-4 ページを参照してください。


- 33 保存して閉じるをクリックします。
正常に設定されたことが示されます。
- 34 成功メッセージボックスで、OK をクリックします。
- 35 設定リセットダイアログボックスで、はいをクリックします。



- 36 「システムがリセットされるまでお待ちください」というメッセージボックスで、OK をクリックします。



システムの再起動は、5 分程度かかることがあります。

- 37 ログイン画面が表示されるまで、ブラウザをリフレッシュ機能で何回か更新してください。
- 38 ログイン画面が表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力し、ログインをクリックします。
初回の入力時は、デフォルトのユーザ名とパスワードはどちらも **POLYCOM** です。
RMX Web Client のメイン画面で、MCU の状態インジケータに進行状況  が表示され、システムのスタートアップが完了するまでの残り時間を示します。
- 39 管理者の権限を持つユーザを新規作成して、デフォルトユーザ(POLYCOM)を削除します。
セキュリティを確保するため、このステップを実行し終わるまで、システムは完全に設定されません。
詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の第 13 章、「Users, Connections and Notes」、13-1 ページを参照してください。

- 40 システムが完全に設定された状態で、システムエラーがなければ、(RMX のフロントパネルの) CNTL モジュールの緑色の RDY LED がオンになります。



初期設定ウィザードでは、デフォルトの IP ネットワークサービスを共通のパラメータで設定できます。初期設定を完了後に、固有および追加の設定 (例えば ICE ではセキュアモードの設定) を行ってください。IP ネットワークサービスの詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』を参照してください。

ユーザ定義

RMX は、POLYCOM という名前のデフォルトの管理者が設定された状態で出荷されます。別の承認済み管理者ユーザを定義したら、承認されていないユーザがシステムにログインするのを防ぐために、デフォルトのユーザを削除することをお勧めします

詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「Deleting a User」、**13-5** ページを参照してください。

RMX Web Client 言語の選択

デフォルトでは、RMX Web クライアントインターフェイスは英語のみで表示されます。ただし、システム管理者はログイン画面で選択可能な言語を指定できます。これらの言語は、国旗で示されます。

ログイン画面の言語設定を選択するには

- 1 RMX メニューで、**設定 > 多言語設定**を選択します。
- 2 RMX Web クライアントのログイン画面に表示する言語のチェックボックスをクリックします。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「Multilingual Setting」、**19-79** ページを参照してください。

選択した言語がブラウザまたはワークステーションのオペレーティングシステムでサポートされていない場合、RMX Web Client は英語で表示されます。

- 3 **OK** をクリックします。
- 4 RMX からログアウトして、再接続します。
ログイン画面に選択した言語のフラグが表示されます。

RMX のデフォルトの会議設定

RMX は、デフォルトの会議エンティティが事前に設定された状態で出荷されます。RMX ユーザおよび参加者は、これらのエンティティを使用して、追加設定することなく、開催中の会議を開始できます。

デフォルトの会議エンティティは以下のとおりです。

表 2-15 会議エンティティ

エンティティ	説明										
ミーティングルーム	<p>リソースを使用することなく MCU に保存される会議。最初の参加者がダイヤルインしたときにアクティブになります。</p> <p>以下の 4 つのミーティングルームがあらかじめ用意されています。</p> <table> <tr> <th>名前</th><th>ID</th></tr> <tr> <td>Maple_Room</td><td>1001</td></tr> <tr> <td>Oak_Room</td><td>1002</td></tr> <tr> <td>Juniper_Room</td><td>1003</td></tr> <tr> <td>Fig_Room</td><td>1004</td></tr> </table> <p>各ミーティングルームには、<i>出荷時ビデオプロファイル</i>と呼ばれる 384Kbps で実行されるデフォルトの会議プロファイルが使用され、デフォルトの会議時間は 1 時間です。</p>	名前	ID	Maple_Room	1001	Oak_Room	1002	Juniper_Room	1003	Fig_Room	1004
名前	ID										
Maple_Room	1001										
Oak_Room	1002										
Juniper_Room	1003										
Fig_Room	1004										
会議プロファイル	<p>名前: <i>出荷時ビデオプロファイル</i></p> <p>会議プロファイルは、ミーティングルームに割り当てられ、回線速度やビデオ解像度などの会議パラメーターを定義します。</p> <p><i>出荷時ビデオプロファイル</i>には、ビットレートが 384Kbps のビデオ会議パラメーター、<i>自動レイアウト</i>、およびポリコムスキンが含まれています。このプロファイルでは、<i>Conference IVR Service</i> と呼ばれる IVR サービスが使用されます。</p>										
会議 IVR サービス	<p>名前: <i>会議 IVR サービス</i></p> <p>会議 IVR サービスには、オプションのビデオスライドと、参加者の接続プロセス中および会議中に再生されるすべての音声メッセージが含まれています。</p> <p>会議 IVR サービスには、英語による一連の音声プロンプトとオプションのビデオスライドが含まれています。</p> <p>このサービスにより、参加者の会議への接続が自動化されます。</p>										

表 2-15 会議エンティティ (続き)

エンティティ	説明
エントリーキュー	<p>名前 ID <i>DefaultEQ</i> 1000</p> <p>エントリーキューを使用すると、1 つのダイヤルイン番号をすべての会議に使用できます。参加者はエントリーキューで、目的の会議へのルーティングされるための情報を入力するよう求められます。<i>DefaultEQ</i> と呼ばれるデフォルトのエントリーキューが用意されています。</p> <p>デフォルトのエントリーキューも、参加者が会議または MCU 上で現在開催中の会議で使用されていないミーティングルーム ID を入力して定義しなくても、新たな会議を開始できる Ad Hoc 会議に設定されます。これには <i>Entry Queue IVR Service</i> と呼ばれるエントリーキュー IVR サービスを使用します。</p> <p>エントリーキューに接続すると、参加者のエンドポイントにデフォルトのようこそスライドが表示され、デフォルトのミーティングルームがリストされます。参加者は、いずれかのミーティングルームを選択するか、別の ID を入力して新しい会議を開始することができます。</p> <p>トランジットエントリーキューが定義されない場合、<i>DefaultEQ</i> がデフォルトのトランジットエントリーキューとして適用されます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Transit Entry Queue</i>」、5-6 ページを参照してください。</p> <p>メモ： ISDN/PSTN ダイヤルイン番号は、ネットワークサービスで定義されるダイヤルイン番号の範囲に属するため、エントリーキューには割り当てられません。ISDN または PSTN 参加者の接続をエントリーキューに対して有効にするには、手動で割り当てる必要があります。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>ISDN/PSTN Network Services</i>」、14-35 ページを参照してください。</p>
エントリーキュー IVR サービス	<p>名前： エントリーキュー IVR サービス</p> <p>参加者に MCU への接続プロセスを示し、参加者を目的の会議にルーティングするために使用されるすべての音声メッセージおよびビデオスライドが含まれています。</p> <p>エントリーキュー IVR サービスは、デフォルトのエントリーキュー用に提供されるデフォルトのエントリーキュー IVR サービスです。</p>

RMX のデフォルト会議設定のカスタマイズ

会議エンティティは、独自の要件に合わせてカスタマイズできます。

- さまざまな組織、ユーザ、言語などに合わせて音声プロンプトやビデオスライドをカスタマイズするには、まず必要なメッセージを録音し、ビデオスライドを作成してから、適切な会議 IVR サービスまたはエントリーキュー IVR サービスを作成します。作成したサービスは、適切な会議プロファイルまたはエントリーキューに割り当てる必要があります。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*IVR Services*」[15-1](#) ページを参照してください。
- 会議ビットレート、会議に固有のビデオレイアウト、ビデオ表示に使用する背景 (スキン) など、会議プロパティを変更するには、新しい会議プロファイルを作成します。このプロファイルは、新しい開催中の会議、ミーティングルーム、および単一ダイヤルのエントリーキューを定義するために使用できます。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Defining Profiles*」[1-8](#) ページを参照してください。
- ISDN 参加者が単一ダイヤルエントリーキューに接続できるようにするには、ダイヤルイン番号を事前に設定されるエントリーキューに割り当てる必要があります。
384 Kbps (デフォルトのエントリーキューの設定) 以外の回線速度で参加者が単一ダイヤルエントリーキューに接続できるようにするには、または、別の言語で音声メッセージを再生するには、新しいエントリーキューを作成します。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Defining a New Conference IVR Service*」[15-7](#) ページを参照してください。
- あらかじめ定義した会議パスワードおよびチェアパーソンパスワードで、組織内のユーザ向けにミーティングルームをパーソナライズできます (セキュリティ強化のため)。これにより、権限のあるユーザだけに開催中の会議の開始を許可することができます。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Meeting Rooms*」[4-1](#) ページを参照してください。
- ISDN 参加者がミーティングルームに直接接続できるようにするには、ダイヤルイン番号を事前に設定されるミーティングルームに割り当てる必要があります。
- 会議エンティティは、主に、事前の参加者定義がないダイヤルイン参加者向けに設計されています。MCU がダイヤルする参加者のリストが記述された自分用のアドレス帳を作成できます。一度定義された参加者は開催中の会議に追加できるので、再度定義する必要がありません。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Address Book*」[6-1](#) ページを参照してください。
- 後日開催する会議をスケジュールできます。

基本操作

RMX Web Client を使用して実行される最も一般的な操作は、以下のとおりです。

- 会議の開始、モニタリングおよび管理
- 個人またはグループとしての参加者およびエンドポイントのモニタリングと管理
 - 参加者 — エンドポイントを使用して会議に接続する個人。ルームシステムを使用する場合は、複数の参加者が1つのエンドポイントを使用します。
 - エンドポイント — 電話をかけることができ、MCU または他のエンドポイントからの電話を受けることのできるハードウェアデバイスまたはデバイスセット。たとえば、電話、PC に接続されたカメラとマイク、統合型ルームシステム (会議システム) などがエンドポイントです。
 - グループ — 共通の名前を持つ参加者またはエンドポイントの集合。

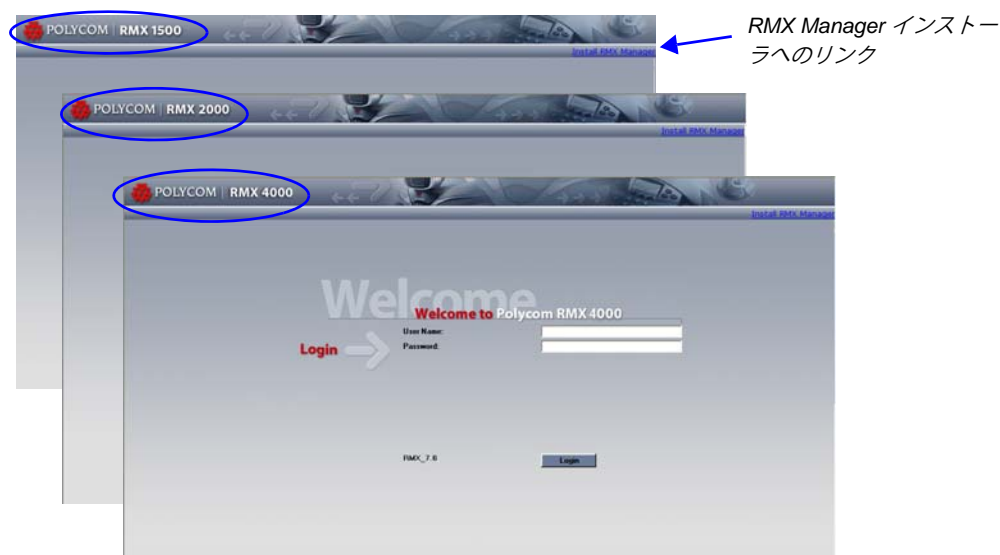
RMX Web Client の起動

開始する前に、システム管理者から以下の情報を入手する必要があります。

- ユーザ名
- パスワード
- MCU コントロールユニットの IP アドレス

RMX 2000 Web Client を起動するには：

- 1 ブラウザのアドレス行に次のように入力します。
http://< コントロールユニットの IP アドレス >。
入力したら、**Enter** キーを押します。
ログイン画面が表示されます。



- 2 ユーザ名とパスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。
 初回の入力時は、デフォルトのユーザ名とパスワードはどちらも **POLYCOM** です。
 RMX 2000 Web Client のメイン画面が表示されます。



ログイン画面には RMX Manager インストーラへのリンクが表示されます。
 RMX Manager アプリケーションを使用して、1 名のユーザが単独または複数の RMX ユニットならびに複数の RMX からの会議を制御できます。RMX 1500/2000/4000 は、RMX Manager アプリケーションによって管理および制御できます。
 詳細については、RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide の「RMX Manager Application」
 18-1 ページを参照してください。

RMX 2000 Web Client の画面コンポーネント

RMX 2000 Web Client のメイン画面は、以下の 5 つのペインで構成されます。

- 会議リスト
- リストペイン
- RMX 管理
- ステータスバー
- アドレス帳
- 会議テンプレート

チェアパーソン、オペレータまたは管理者の権限を持つユーザとしてログインできます。
 使用できる表示とシステム機能は、認証レベルによって異なります。

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Users, Connections and Notes」
 13-1 ページを参照してください。

管理者の場合の表示は、下図のようになります。

会議リスト

リスト

RMX 管理

アドレス帳

会議テンプレートタブ

ステータスバー

メイン画面はカスタマイズできます。詳細については、「メイン画面のカスタマイズ」、**3-10** ページを参照してください。

表示およびシステム機能に関する許可

RMX 2000Web Client ユーザが使用できる表示およびシステム機能は、各ユーザに割り当てられた認証レベルによって異なります。以下の表 3-1 は認証レベルの要約です。

表 3-1 表示およびシステムに関する許可

	認証レベル		
	チェアパーソン	オペレータ	管理者
	表示許可		
会議リスト	✓	✓	✓
リストペイン	✓	✓	✓
アドレス帳	✓	✓	✓
会議テンプレート		✓	✓
ステータスバー		✓	✓
RMX 管理		✓	✓
会議アラーム		✓	✓
会議ステータス		✓	✓
設定		✓	✓
	システム機能		
会議の開始	✓	✓	✓
会議のモニタリング	✓	✓	✓
参加者のモニタリング	✓	✓	✓
基本的な問題の解決		✓	✓
MCU 設定の変更			✓

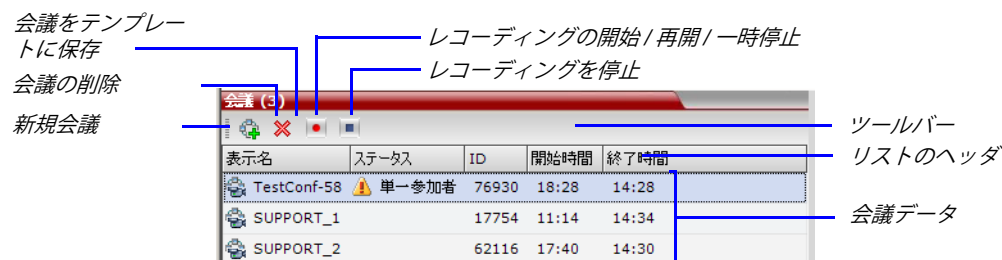


監査ファイルを開覧およびシステムを監査できるユーザのタイプとして、チェアパーソン、オペレータ、管理者の他に監査役があります。詳細については、*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide* の「Auditor」、[19-95](#) ページを参照してください。

会議リスト

オペレーターまたは管理者の権限を持つユーザとしてログインした場合：

Conferences ペインには、MCU で現在実行されているすべての会議がステータス、会議 ID、開始時間、終了時間のデータと一緒にリスト表示されます。このペインのタイトルには、開催中の会議の数が表示されます。



会議リストのツールバーには、以下のボタンがあります。

- ・ **新規会議** - 新規開催中の会議を開始します。
- ・ **会議の削除** - 選択した会議を削除します。

会議レコーディングが有効になっている場合には、以下が色付きで表示されます。

- **レコーディングの開始/再開** レコーディングを開始/再開します。

MPM+ および MPMx モードでは、レコーディング表示がすべての会議参加者に表示され、会議が録画されていることを知らせます。

- **レコーディングの停止** レコーディングを停止します。

- **一時停止** - **開始/再開** ボタンを切り替えます。

MPMx モードでは、一時停止表示がすべての会議参加者に表示され、会議の録画が一時停止していることを知らせます。

チェアパーソンの権限を持つユーザとしてログインした場合：

- ・ 自分が開始した会議、パスワードを入力した会議、またはチェアパーソンパスワードが割り当てられていない会議のリストをモニタリングできます。
- ・ チェアパーソンパスワードフィールドとリフレッシュボタンが表示されます。
リフレッシュボタンはチェアパーソンパスワードを変更するものではなく、会議リストを更新して要求されたパスワードで現在開催中のすべての会議が表示されます。詳細については、「チェアパーソンパスワードによるフィルタリング」(3-37 ページ) 参照を参照してください。
- ・ チェアパーソンパスワード列は、会議データに含まれます。



リストペイン

リストペインには、会議ペインまたは RMX 管理ペインで選択した項目の詳細が表示されます。

ペインのタイトルは、選択した項目に応じて変更されます。

例：会議ペインで進行中の会議を選択すると、接続されている参加者のリストとパラメーターが表示されます。



RMX 管理ペインで項目を選択すると、現在定義されている項目のリストが表示されます。

例：ユーザー項目が選択されると、RMX に定義された RMX ユーザーのリストが表示されます。



RMX 管理

表示許可		
チェア/バーン	オペレーター	管理者
	✓	✓

RMX 管理ペインには、RMX による会議の実行を可能にするために設定する必要のあるエンティティがリスト表示されます。これらのパラメーターを変更できるのは、管理者の権限を持つユーザのみです。

RMX 管理ペインは、以下の 2 つのペインに分かれています。

- **メイン** – 頻繁に設定、モニタリングまたは変更されるパラメーター。
- **その他** – 初回のシステムセットアップ時に設定され、その後ほとんど変更されないパラメーター。

項目は 2 つのセクション間で移動させて、RMX ユーザごとに管理タスクをカスタマイズできます。詳細については、「RMX 管理ペインのカスタマイズ」、[3-11 ページ](#)を参照してください。

ステータスバー

RMX Web Client の下部のステータスバーには、システムアラートタブと参加者アラートタブが含まれています。また、ポート使用状況ゲージと MCU ステータスインジケータも含まれています。



表示許可		
チェアパーソン	オペレータ	管理者
	✓	✓

システムアラート

システム問題のリストです。1つ以上のシステムアラートがアクティブになると、アラートインジケータが赤色で点滅します。この点滅は、オペレータまたは管理者の権限を持つユーザがリストを確認するまで続きます。

システムアラートペインは、ステータスバーの左隅にあるシステムアラートボタンをクリックすると開閉できます。

アクティブアラーム

失敗リスト

システムアラート (2)					
ID	時間	カテゴリ	レベル	コード	説明
2	23/08/2007	一般	重要	IP ネットワークサー	IP Network Service was modified. Please reset the MCU
1	23/08/2007	一般	重要	Polycom デフォルト	Default user exists in Users list

アクティブアラームおよび失敗リストの詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「System and Participant Alerts」の **19-1** ページを参照してください。

表示許可		
チェアパーソン	オペレータ	管理者
✓	✓	✓

参加者アラート

接続問題が発生している参加者のリストです。会議別にソートされています。

参加者アラートペインは、ステータスバーの左隅にある参加者アラートボタンをクリックすると開閉できます。

参加者アラート (1)											
会議	名前	ステータス	切断時間	ロール	IP アドレス/電話	エイリアス名/SIP アドレス	ネットワーク	ダイヤル方向	オーディオ	ビデオ	暗号化
test1	1111	切断済み	09/10/2007 14	123	123	ISDN/PSDN	ダイヤルアウト				
test2	Duke	切断済み	17/10/2007 10	0.0.0.1	H.323	ダイヤルアウト					

表示許可		
チェアパーソン	オペレータ	管理者
	✓	✓

ポート使用状況ゲージ

ポート使用状況ゲージは、以下のことを示します。

- ビデオ/音声ポート設定に基づいた、システム内のビデオポートまたは音声ポートの総数
- 使用中のビデオポートおよび音声ポートの数
- ポート使用量の上限

システム内の割り当て済みビデオポート (CIF 解像度) の総数

使用中のビデオポートの数

ビデオポート使用状況インジケータ

システム内の割り当て済み音声ポートの総数

使用中の音声ポートの数

音声ポート使用状況インジケータ

音声およびビデオのポート使用量の上限


ポート使用状況: 音声 1 / 50 ビデオ 14 / 70



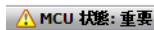
ポート使用量の上限しきい値は、使用できるビデオおよび音声ポートの総数の比率を表します。リソース使用量が最大に近づいているために、追加の会議を実行するために使用できるリソースがないときに表示されるように設定されています。ポート使用量がしきい値に達した場合や、しきい値を超えた場合は、ゲージの赤色の部分が点滅します。デフォルトのポート使用量しきい値は 80% ですが、システム管理者はこの値を変更できます。詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Port Usage Threshold」、19-56 ページを参照してください。

表示許可		
チェアパーソン	オペレータ	管理者
✓	✓	✓

MCU ステータス

MCU ステータスインジケータには、以下のいずれかが表示されます。

-  起動中 (0:28) – MCU は起動中です。緑色の進行状況インジケータバーがスタートアップの進捗状況を示すと同時に、システムスタートアップが完了するまでの残り時間がカッコ内に表示されます。

進行状況インジケータバー
 
 残り時間
-  MCU 状態: 正常 – MCU は正常に機能しています。
-  MCU 状態: 重要 – MCU に重大な問題があります。MCU の動作に影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要です。

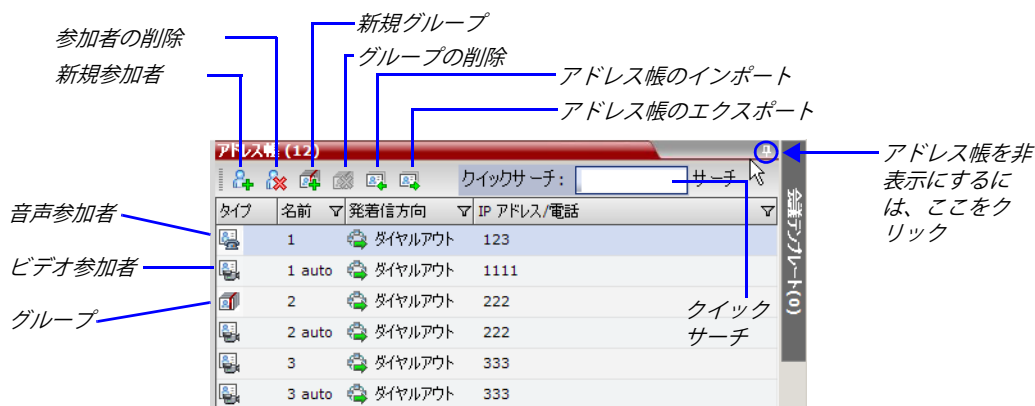
アドレス帳

表示許可		
チェアパーソン	オペレータ	管理者
✓	✓	✓

アドレス帳は、定義されている参加者およびグループのリストです。RMX 上で アドレス帳の情報は、管理者のみが変更できます。ただし、RMX ユーザは全員、アドレス帳を表示して会議の参加者を割り当てるのに使用できます。

アドレス帳ツールバーには、クイック検索フィールドと以下の 6 つのボタンがあります。

- 新規参加者
- 参加者の削除
- アドレス帳のインポート
- 新規グループ
- グループの削除
- アドレス帳のエクスポート



アドレス帳のエントリは、以下のようにリスト表示されます。

- ・ **タイプ** — 個人の参加者か、参加者のグループか。
- ・ **名前** — 参加者の名前またはグループの名前。
- ・ **ダイヤル方向** — ダイヤルインまたはダイヤルアウト。
- ・ **IP アドレス/電話** — 参加者の IP アドレスまたは電話。

アドレス帳の表示と非表示

RMX Web Client に初めてアクセスすると、アドレス帳ペインが表示されます。アンカーピン (📌) ボタンをクリックすると、非表示にすることができます。

アドレス帳ペインが閉じ、画面の右上隅にタブが表示されます。

アドレス帳を再び表示するには、タブをクリックします。

アドレス帳を表示するにはタブをクリック



会議テンプレート

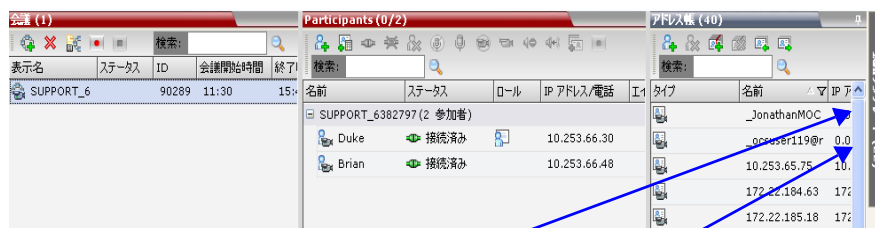
会議テンプレートは、管理者とオペレータが同一の会議を作成、保存およびスケジュールしてアクティブにすることができます。

会議テンプレート:

- ・ 会議プロフィールを保存します。
- ・ 各自の個人レイアウトおよびビデオ固定設定を含む、すべての参加者パラメーターを保存します。
- ・ 細密な参加者レイアウトとビデオ固定の設定が必須の場合に、会議の臨場感を簡単に設定できます。

会議テンプレートの表示および非表示

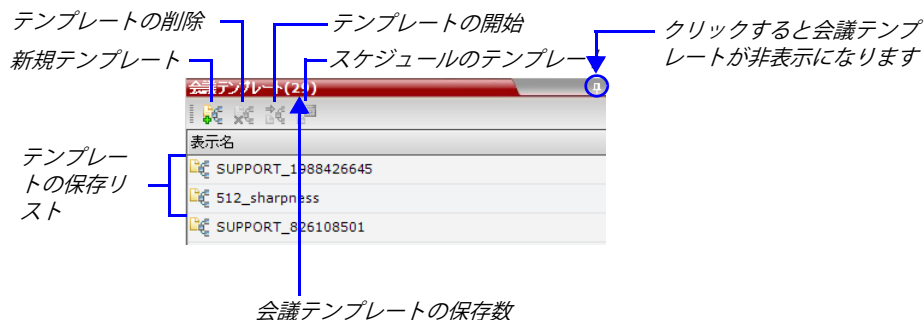
会議テンプレートリストペインは、RMX Web Client メインウィンドウのタブが閉じられた状態で先ず表示されます。会議テンプレートの保存数がタブに示されます。



会議テンプレートタブ

会議テンプレートの保存数

タブをクリックすると、会議テンプレートリストペインが開きます。



会議テンプレートリストペインを非表示にするには、画面の左上隅にあるアンカーピン (📌) ボタンをクリックします。

会議テンプレートリストペインが閉じ、画面の右上隅にタブが表示されます。

メイン画面のカスタマイズ

メイン画面は、必要に応じてカスタマイズできます。ペインサイズの変更、列幅の調整およびデータリストの並べ替えが可能です。



ログインした各ユーザのカスタマイズ設定は、自動的に保存されます。
RMX Web Client を次回起動したときのメイン画面の設定は、ユーザがアプリケーションを終了したときと同じになります。

ペインのサイズを変更するには：

>> ペインの境界上でポインタを動かし、ポインタの形が になったら、ペインの境界をクリックして必要なサイズまでドラッグします。その後、マウスボタンを放します。

列幅を調整するには：

- 1 列ヘッダの行で、列のフィールドを区切る縦棒の上にポインタを置きます。
- 2 ポインタの形が になったら、フィールドを区切る縦棒をクリックして必要なサイズまでドラッグします。その後、マウスボタンを放します。

任意のフィールド (列ヘッダ) を基準にデータを並べ替えるには

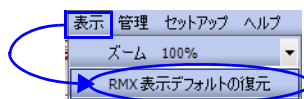
- 1 会議リストまたはリスト表示のペインで、並べ替えに使用するフィールドの列ヘッダをクリックします。
 または が列ヘッダに表示されます。これらの記号は、リストがこのフィールドで並べ替えられることを示すと同時に、並べ替え順序も示しています。
- 2 列ヘッダをクリックして、その列の並べ替え順序を切り替えます。

ペイン内の列の順序を変更するには：

>> 移動する列ヘッダをクリックして、新しい場所にドラッグします。いくつかの赤色の矢印が表示され、列の新しい場所が示されたら、マウスボタンを放します。

RMX 2000 表示ウィンドウをデフォルトの設定に戻すには

>> RMX 2000 メニューの表示 > RMX 表示デフォルトの復元をクリックします。



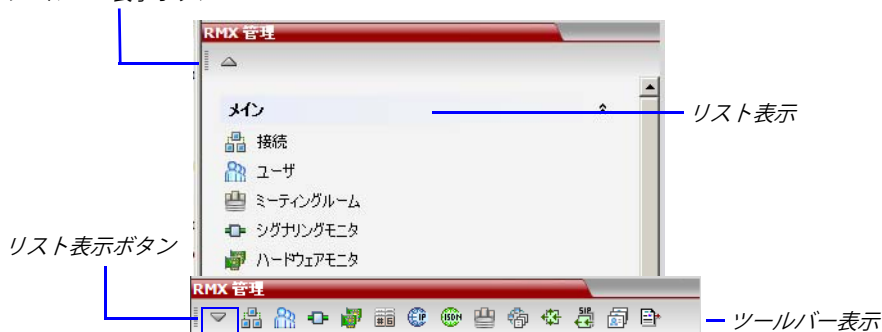
RMX 管理ペインのカスタマイズ

RMX 管理ペインは、リストまたはツールバーのいずれかの形式で表示できます。

ツールバー表示とリスト表示を切り替えるには：

- く RMX 管理ペインの ツールバー表示 ボタンをクリックして、ツールバー表示に切り替えます。ツールバー表示 で、リスト表示 ボタンをクリックすると、リスト表示に戻ります。



ツールバー表示ボタン



頻繁に実行する操作や好みの RXM Web Client 使用方法に応じて、メインセクションとその他セクションの間で項目を移動できます。

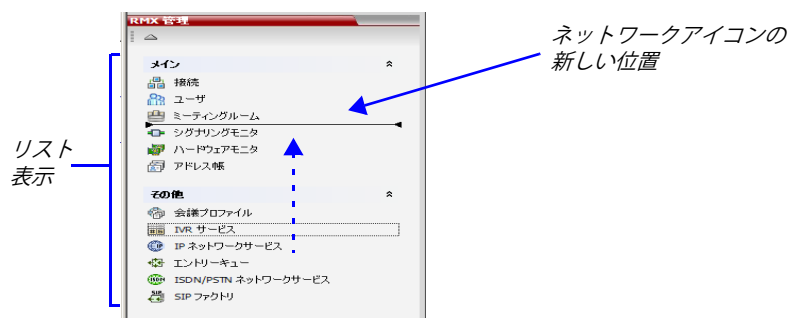
ツールバー表示では、すべての項目がアイコンで表示されるため、項目の移動が可能なのはリスト表示のみです。



メインおよびその他のセクションを展開または折りたたむには：

メインセクションおよびその他のセクションは、 ボタンおよび  ボタンをクリックすると展開または折りたたむことができます。

メインセクションおよびその他のセクション間で項目を移動するには：

- 1 RMX 管理ペインで、移動する項目のアイコンをクリックしてドラッグします。
インジケータライン (————→) が表示され、アイコンの新しい位置が示されます。
- 2 アイコンが目的の位置に移動したら、マウスボタンを放します。



メインセクションおよびその他のセクションは、 ボタンおよび  ボタンをクリックすると展開または折りたたむことができます。

会議の開始

以下に示すように、会議を開始する方法はいくつかあります。

- 会議ウィンドウの **新規会議** ボタンをクリックする。詳細については、「**会議ペインからの会議の開始**」、**3-13** ページを参照してください。
- ミーティングルームにダイヤルインする。
 - ミーティングルームは、MCU に保存された会議です。最初の参加者またはミーティング主催者のダイヤルインによってアクティブになるまで、受動モードのままです。

ミーティングルームの詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「**Meeting Rooms**」、**4-1** ページを参照してください。

- MCU へのアクセスポイントとして使用されている Ad Hoc エントリーキューにダイヤルインする。

Ad Hoc エントリーキューの詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「**Entry Queues**」、**5-1** ページを参照してください。

- 予約を開始する：
 - 予約の開始時間が期限を過ぎている場合、会議が直ぐに開催されます。
 - 予約の開始時間が期限前の場合、指定された日時に会議が開催されます。
 詳細については、「**予約の開始**」、**3-22** ページを参照してください。
- 会議テンプレートリストに保存されている会議テンプレートは、どれでも開始できます。

詳細については、「**開催中の会議をテンプレートから開始**」、**3-23** ページを参照してください。
- *Microsoft Outlook Polycom Meeting Invitation* に記載されているリンクをクリックするか、表示されている番号をエンドポイントの入力デバイスを使用して手動でダイヤルします。
- *Polycom Conferencing Add-in for Microsoft Outlook* を介して *Polycom Meeting* の通知を受けた出席者は、ワークステーションまたはカレンダーの有効なエンドポイントに表示された [Meeting Invitation] 内のリンクをクリックして初回のミーティングに参加できます。または *Meeting Invitation* に記載されている *Polycom Conference* の情報を使用して手動でダイヤルできます。

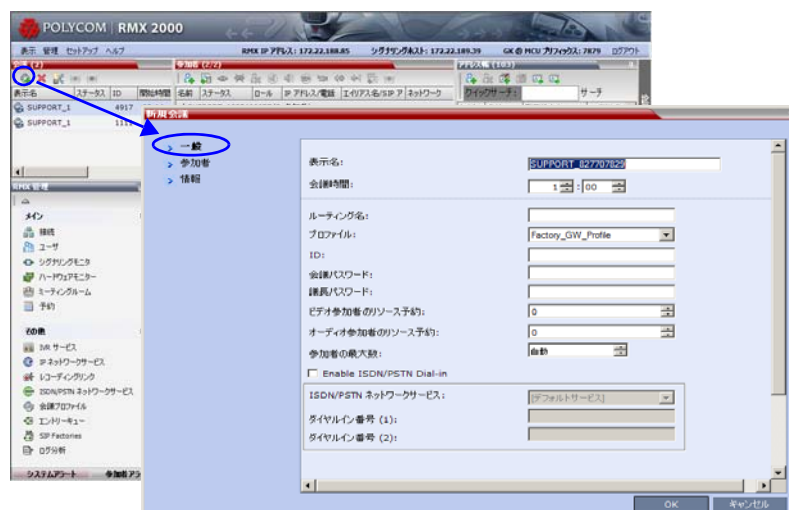
詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「**Polycom Conferencing for Microsoft Outlook®**」、**10-1** ページを参照してください。

会議ペインからの会議の開始

会議ペインから会議を開始するには：

- 1 会議ペインの**新規会議** (🏠) ボタンをクリックします。

新規会議 — 一般ダイアログボックスが開きます。



会議のデフォルトの**名前**、**会議時間**およびデフォルトの**プロフィール**が表示されます。プロフィールには、会議パラメーターとメディア設定が含まれています。

会議が開始されると、RMX が会議 ID を自動的に割り当てます。

ほとんどの場合、デフォルトの会議 ID を使用することができるため、**OK** をクリックするだけで会議を開始できます。必要に応じて、会議 ID を入力してから **OK** をクリックして会議を開始します。

RMX Web Client を使用してミーティングを開始するチェアパーソンまたは主催者は、他の会議参加者がダイヤルインできるように、デフォルトの会議 ID (または作成した ID) を知らせる必要があります。

新規会議 — 一般ダイアログボックスを使用して、会議パラメーターを変更できます。会議に追加する定義済みのパラメーターがない場合、または追加情報を追加しない場合は、**OK** をクリックします。

一般タブ

2 以下のパラメーターを定義します。

表 3-2 新規会議 一般オプション

フィールド	説明
表示名	<p>表示名は、RMX Web Client で表示される、各国語の文字セットによる会議エンティティ名です。</p> <p>会議、ミーティングルーム、エントリーキュー、SIP Factory では、表示名フィールドのための ASCII 名が自動的に生成されます。この名前は、Unicode エンコーディングを使用して変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語テキストには ASCII エンコーディングが使用され、ほとんどの文字を含むことができます (長さはフィールドによって異なります)。 ヨーロッパおよびラテン言語のテキストの長さは、最大長の約半分です。 アジア言語のテキストの長さは、最大長の約 3 分の 1 です。 <p>テキストフィールドの最大長も、文字セットの組み合わせ (Unicode と ASCII) に応じて異なります。</p> <p>ASCII でのフィールドの最大長は 80 文字です。</p> <p>同じ名前が別の会議、ミーティングルームまたはエントリーキューですでに使用されている場合は、別の名前の入力を指示するエラーメッセージが RMX によって表示されます。</p> <p>メモ: このフィールドはすべてのタブで表示されます。</p>
会議時間	<p>会議の時間の長さを時単位で定義します。HH:MM の形式を使用します (デフォルトは 01:00)。</p> <p>メモ: このフィールドはすべてのタブで表示されます。</p>
常設会議	<p>このチェックボックスを選択すると、会議が 常設会議 になります: 終了時間 があらかじめ設定されていない開催中の会議で、管理者、オペレータまたはチェアパーソンが終了させるまで続けられます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Lecture Mode</i>」2-75 ページを参照してください。</p> <p>メモ: このフィールドはすべてのタブで表示されます。</p>

表 3-2 新規会議 一般オプション (続き)

フィールド	説明
ルーティング名	<p>ルーティング名は、開催中の会議、ミーティングルーム、エントリーキュー、SIP Factory がネットワーク上のさまざまなデバイス (ゲートキーパーや SIP サーバなど) への登録に使用する名前です。この名前は、ASCII 文字を使用して定義する必要があります。</p> <p>コンマ、コロン、セミコロンは、ルーティング名に使用できません。</p> <p>ルーティング名はユーザが設定できますが、ルーティング名を入力しない場合、以下のように自動的に生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ASCII 文字が表示名として入力されている場合は、ルーティング名としても使用されます。 • Unicode 文字と ASCII 文字の組み合わせ (または Unicode テキストのみ) が表示名として入力されている場合は、ID (会議 ID など) がルーティング名として使用されます。 <p>同じ名前が別の会議、ミーティングルームまたはエントリーキューですでに使用されている場合は、別の名前の入力を指示するエラーメッセージが RMX によって表示されます。</p>
プロファイル	<p>デフォルトの会議プロファイルの名前が表示されます。必要なプロファイルを一覧から選択してください。</p> <p>会議プロファイルには、会議回線速度、メディア設定および一般設定が含まれます。</p> <p>会議プロファイルの詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Conference Profiles</i>」、1-1 ページを参照してください。</p>
ID	<p>MCU ごとに一意の会議 ID を入力します。空白のままにした場合、会議を開始したときに MCU によって自動的に番号が割り当てられます。</p> <p>この ID を会議参加者に通知して、会議にダイヤルインできるようにする必要があります。</p>
会議パスワード	<p>参加者が会議にアクセスするために使用するパスワードを入力します。空白のままにした場合、パスワードが会議に割り当てられません。</p> <p>このパスワードは、会議パスワードの入力を求めるように設定された会議のみで有効です。</p> <p>これは数値フィールドで、デフォルトの長さは 4 文字です。管理者は、<i>セットアップ - システム設定</i> でこれを変更できます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>System Configuration</i>」、19-4 ページを参照してください。</p> <p>これらのフィールドを空白にすると、RMX は会議 (およびチェアパーソン) パスワードを自動的に生成するように設定されます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Automatic Password Generation Flags</i>」、19-31 ページを参照してください。</p>

表 3-2 新規会議 一般オプション (続き)

フィールド	説明
チェアパーソンパスワード	<p>チェアパーソンを識別し、追加の権限を付与するために、RMX で使用するパスワードを入力します。空白のままにした場合、チェアパーソンパスワードが会議に割り当てられません。このパスワードは、議長パスワードの入力を求めるように設定された会議のみで有効です。</p> <p>これは数値フィールドで、デフォルトの長さは 4 文字です。管理者は、<i>セットアップ システム設定</i> でこれを変更できます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>System Configuration</i>」、19-4 ページを参照してください。</p> <p>これらのフィールドを空白にすると、RMX はチェアパーソン (および会議) パスワードを自動的に生成するように設定されます。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Automatic Password Generation Flags</i>」、19-31 ページを参照してください。</p>
ビデオ参加者リソースのリザーブ	<p>システムがリソースをリザーブしなければならないビデオ参加者数を入力します。</p> <p>デフォルト : 参加者 0 名</p> <p>最大 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPM モード : 参加者 80 名 • MPM+ モード : 参加者 160 名 • MPMx モード : 参加者 180 名 (カード 2 枚) • MPMx モード : 参加者 90 名 (カード 1 枚) <p>メモ : バージョン 7.1 から、MPM メディアカードはサポートされていません。</p>
音声参加者リソースのリザーブ	<p>システムがリソースをリザーブしなければならない音声参加者数を入力します。</p> <p>デフォルト : 参加者 0 名</p> <p>最大 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPM モード : 参加者 80 名 • MPM+ モード : 参加者 200 名 (すべてのポートが音声のみに設定されている場合) • MPMx モード : 参加者 720 名 (カード 2 枚で、すべてのポートが音声のみに設定されている場合) • MPMx モード : 参加者 360 名 (カード 1 枚で、すべてのポートが音声のみに設定されている場合) <p>メモ : バージョン 7.1 から、MPM メディアカードはサポートされていません。</p>
参加者の最大数	<p>会議に接続できる参加者の総数を示します。自動設定では、リソースの利用範囲に従って決められた会議に接続できる参加者の最大数を示します。</p> <p>メモ : 数値を指定する場合は、<i>ビデオ参加者 / 音声参加者のリソース予約フィールド</i> で指定された参加者数に対応できる十分な数にします。</p>

表 3-2 新規会議 一般オプション (続き)

フィールド	説明
ISDN/PSTN ダイヤルインを有効にする	ISDN および PSTN 参加者が会議に直接接続できるようにするには、このチェックボックスを選択します。
ISDN/PSTN Network Service	デフォルトのネットワークサービスが自動的に選択されます。ネットワークサービスリストからさまざまな ISDN/PSTN ネットワークサービスを選択できます。
ダイヤルイン番号 (1)	選択した ISDN/PSTN ネットワークサービスについて定義されたダイヤルインの範囲から、システムが自動的に番号を割り当てるようにするには、このフィールドを空白のままにしておきます。手動でダイヤルイン番号を定義するには、選択したネットワークサービスについて定義されたダイヤルイン番号の範囲から一意の番号を入力します。この番号は、別の会議 / 予約 / ミーティングルーム / ゲートウェイプロファイルには割り当てできません。
ダイヤルイン番号 (2)	デフォルトでは、2 番目のダイヤルイン番号は定義されていません。2 番目のダイヤルイン番号を定義するには、選択したネットワークサービスについて定義されたダイヤルイン番号の範囲から目的の番号を入力します。

- 3 すべての参加者が未定義のダイヤルイン参加者で、新しい会議の追加情報が不要な場合、**OK** をクリックします。
- 4 参加者アドレス帳から参加者を追加する場合、または参加者 (主にダイヤルアウト参加者) を定義する場合、**参加者タブ** をクリックします。

参加者タブ



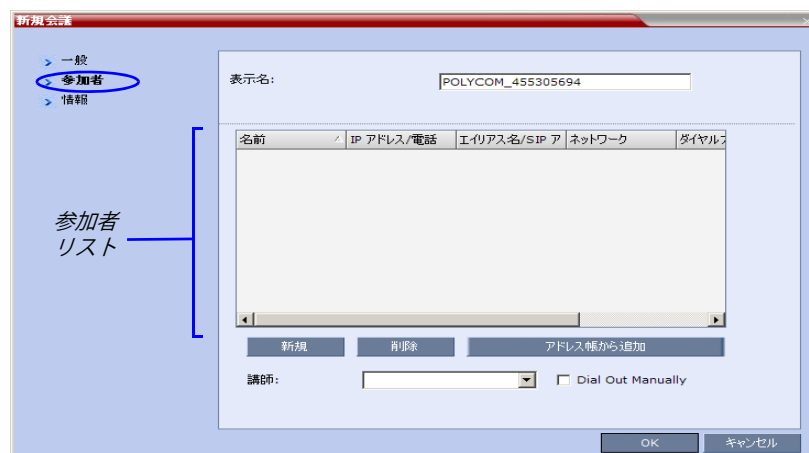
この手順はオプションです。

参加者タブは、アドレス帳から参加者を会議に追加するときに使用します。

定義済みのダイヤルアウト参加者を追加する場合にも使用します。[手動ダイヤルアウト] オプションが選択されていない場合、定義済みのダイヤルアウト参加者は、会議が開始すると会議に自動的に接続されます。

5 参加者タブをクリックします。

参加者タブが開きます。



新しい会議を定義する場合、参加者リストは空です。

参加者リストに表示される情報と実行できる操作について、以下の表で説明します。

表 3-3 新規会議 – 参加者タブ

列 / ボタン	説明
参加者リスト	
名前	参加者の名前とエンドポイントのタイプを表すアイコンが表示される Unicode フィールド：音声のみまたはビデオ。
IP アドレス / 電話	参加者のエンドポイントの IP アドレスまたは電話番号が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ダイヤルアウト接続の場合、Polycom RMX 1500/2000/4000 によって呼び出されたエンドポイントの IP アドレスまたは電話番号が表示されます。 ダイヤルイン接続の場合、参加者を識別して適切な会議にルーティングするために使用される参加者の IP アドレスまたは電話番号が表示されます。
エイリアス名/SIP アドレス (IP のみ)	H.323 エンドポイントのエイリアス名または SIP URL が表示されます。
ネットワーク	エンドポイントから会議に接続するために使用されるネットワーク通信プロトコル。H.323、SIP または ISDN/PSTN。
ダイヤル方向	ダイヤルイン – 参加者が会議にダイヤルインします。 ダイヤルアウト – RMX が参加者にダイヤルアウトします。
暗号化	エンドポイントがこのメディアに暗号化を使用するかどうかが表示されます。 デフォルトの設定は 自動 で、エンドポイントの接続は会議の暗号化設定に従う必要があることを示しています。

表 3-3 新規会議 – 参加者タブ (続き)

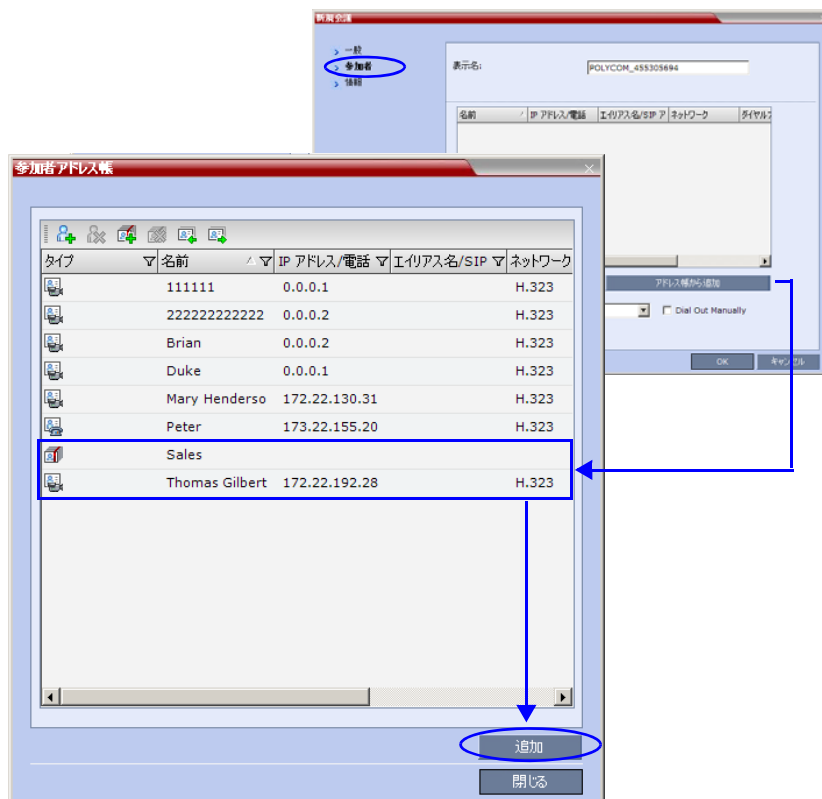
列 / ボタン	説明
ボタン	
新規	新規参加者を定義するときにクリックします。 詳細については、『 <i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i> 』の「 <i>Adding a new participant to the Address Book Directly</i> 」、 6-3 ページを参照してください。
削除	クリックして選択した参加者を会議から削除します。
アドレス帳から追加	クリックしてアドレス帳から参加者を会議に追加します。
レクチャラ	
レクチャラ	このオプションは、レクチャーモードをアクティブにするために使用します。会議参加者のリストから、レクチャラに指定する参加者を選択します。 レクチャラは、会議実施中に参加者が接続されると選択可能です。
手動ダイヤルアウト	RMX ユーザが制御するダイヤルアウト会議接続を指定するには、このオプションを選択します。チェックされている場合には、ユーザは会議に接続されるまで待機したままになっているダイヤルアウト参加者をそれぞれ接続する必要があります。

以下の方法で参加者を会議に追加できます。

- 会議の定義中に新しい参加者を定義できます (新規ボタンをクリック)。
- アドレス帳から定義済みの参加者を追加できます。この場合、リストから参加者を選択するか、アドレス帳から参加者を参加者リストにドラッグアンドドロップします。
- ダイヤルイン参加者は、会議が開始されると会議に接続可能になります ([新規会議 – 参加者] ダイアログボックスを使用する必要はありません)。
- 会議が開始されると、[新規会議 参加者] タブを使用せずに、参加者アドレス帳から参加者を会議に直接追加できます。詳細については、「アドレス帳から参加者を追加」、**3-47** ページを参照してください。

アドレス帳から参加者を追加するには：

- 6 参加者リストのアドレス帳から追加ボタンをクリックして、参加者アドレス帳を開きます。



- 7 参加者アドレス帳で、会議に追加する参加者を選択し、追加ボタンをクリックします。
この手順では、Windows の標準的な複数選択テクニックを使用できます。
- 8 選択した参加者が会議に割り当てられ、参加者リストに表示されます。
- 9 追加の参加者を選択するか、閉じるボタンをクリックして参加者タブに戻ります。

情報タブ

情報フィールドには、連絡先、会社名、課金コードなど、会議に関する一般情報を追加できます。

この情報は、会議が開始されたときに *Call Detail Record (CDR)* に書き込まれます。

会議開始後にこの情報に加えられた変更は、CDR に保存されません。



この手順はオプションです。
これらのフィールドに入力された情報は会議に影響しません。

情報を会議に追加するには：

10 情報タブをクリックします。

情報タブが開きます。

11 以下の情報を入力します。

表 3-4 新規会議 – 情報オプション

フィールド	説明
Info1、2、3	会社名や連絡先など、会議に関する一般情報を入力できる情報フィールドが 3 つあります。 これらのフィールドでは、Unicode を使用できます。 各フィールドの最大長は 80 文字です。
課金情報	該当する場合は、会議課金コードを入力します。

12 OK をクリックします。

会議ウィンドウに、新しい会議のエントリーが表示されます。

会議の参加者が定義されていない場合、または参加者が接続されていない場合は、空という表示と警告アイコン (⚠) が会議ウィンドウのステータス列に表示されます。

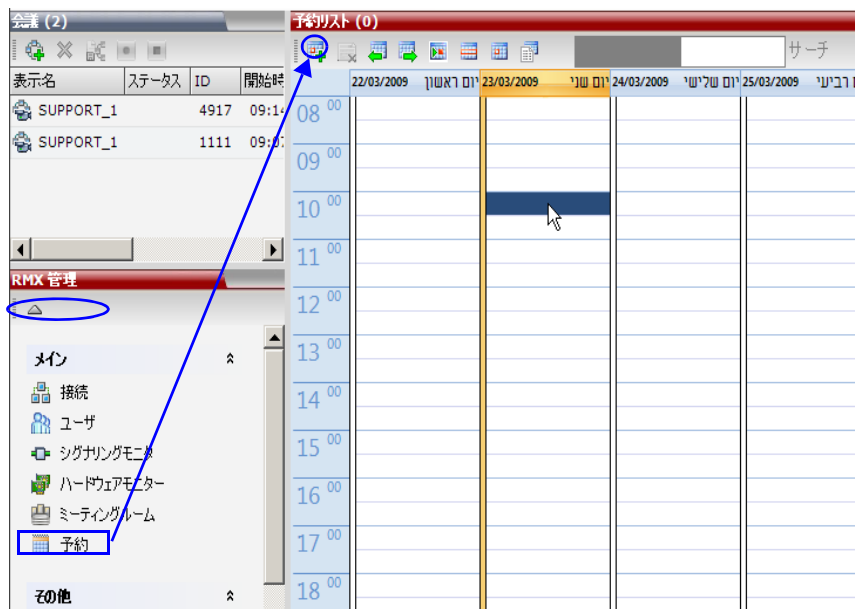
ステータスは、参加者が会議に接続すると変更されます。

会議プロファイル > 自動終了 > 最初の参加前フィールドで指定された時間内に接続する参加者が誰もいない場合、その会議はシステムによって自動的に終了されます。

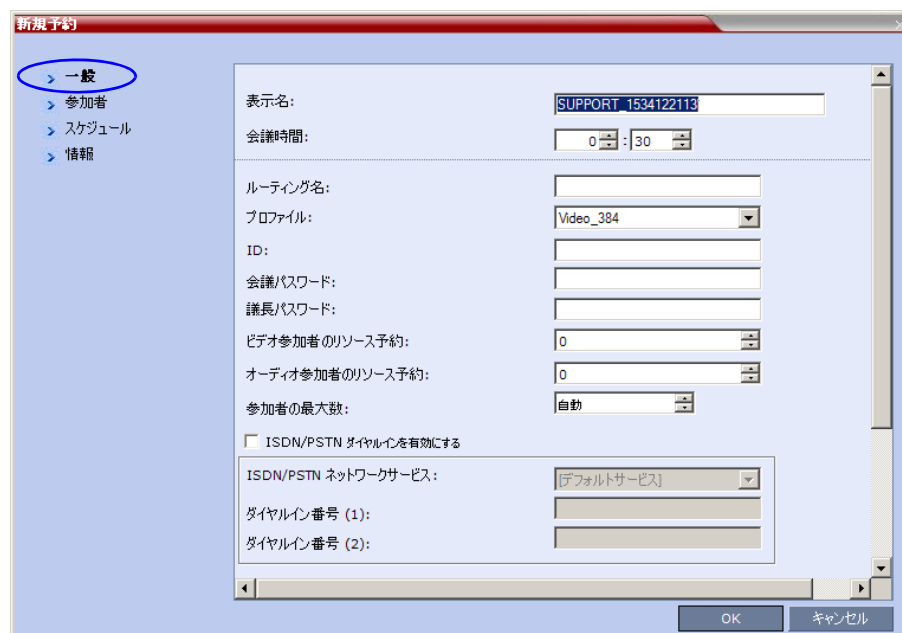
予約の開始

予約カレンダーから会議を開始するには

- 1 RMX 管理ペインで、予約入力 (📅) をクリックします。
予約カレンダーが表示されます。
- 2 新規予約 (📅) ボタンをクリックします。



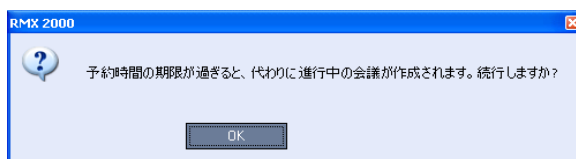
新規会議 — 一般タグのダイアログボックスが開きます。



このダイアログボックスは、新規会議 — 一般ダイアログボックスが開きます。フィールドの説明については、「一般タブ」、[3-14](#) ページを参照してください。

- 3 オプション。ISDN および PSTN 参加者が会議に直接接続できるようにするには、ISDN/PSTN ダイアルインを有効にするチェックボックスを選択します。
- 4 ISDN/PSTN ダイアルインを有効にするオプションを選択する場合は、ダイアルイン番号を入力します。ダイアルイン番号フィールドを空白のまましておくと、選択された ISDN/PSTN ネットワークサービスに定義されたダイアルインの範囲から自動的に番号が割り当てられます。
- 5 OK ボタンをクリックします。

予約時間が期限切れのため会議が直ぐに開催されることを知らせる確認ボックスが表示されます。



- 6 OK をクリックします。

会議が開始されます。ISDN/PSTN ダイアルイン番号が会議に自動的にまたは手動で割り当てられると、その番号を会議ペインに表示できます。

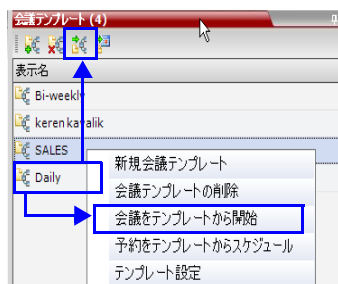
予約の詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Reservations」、7-1 ページを参照してください。

開催中の会議をテンプレートから開始

開催中の会議は、会議テンプレートリストに保存された会議テンプレートから開始できます。

開催中の会議をテンプレートから開始するには：

- 1 会議テンプレートリストで、開催中の会議として開始するテンプレートを選択します。
- 2 会議をテンプレートから開始 (🔗) ボタンをクリックします。
または
右クリックして、会議をテンプレートから開始を選択します。



会議が開始されます。



会議テンプレートに割り当てられるダイアルイン番号が開催中の会議、ミーティングルーム、エントリーキュー、ゲートウェイプロファイルに既に割り当てられている場合、テンプレートを使用して開催中の会議の開始または予約のスケジュールは起動できません。ただし、開催中の会議を開始するために同時に使用されない場合は、同じ番号を複数の会議テンプレートに割り当てることができます。会議の開始時間前にダイアルイン番号のコンフリクトが発生した場合、次のアラートが表示されます：「ISDN ダイアルイン番号は別の会議に既に割り当てられています」会議を開始できません。

会議リスト内の開催中の会議名は、会議テンプレートの表示名から取得されます。テンプレートが開催中の会議になっても、別の開催中の会議に接続されている参加者は接続されません。



開催中の会議にて、同じ表示名、ルーティング名のミーティングルームまたはエントリーキューあるいは ID がシステムで既に使用されている場合、その会議は開始できません。

会議テンプレートの詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Conference Templates*」、[9-1](#) ページを参照してください。

Microsoft Outlook Polycom Meeting Invitation からの音声ミーティングの開始

Polycom Conferencing Add-in to Microsoft Outlook を使用すると、ミーティングを他の Outlook ミーティングとして作成できます。詳細については、『*Polycom Unified Conferencing Deployment Guide for Microsoft Environments*』を参照してください。

クリックして会議

マルチポイント音声会議およびビデオ会議を、ポイントツーポイントコールの開始と同じやり方で RMX MCU で実行される OCS または *Lync Client* ウィンドウから直接開始するように、*Microsoft Lync* および OCS クライアントを設定できます。

このモードでは、複数の連絡先を選択してから、音声またはビデオ会議を開始できます。Ad-Hoc 会議は、*Microsoft A/V MCU* の代わりに、RMX で開始され、より良い高画質のビデオが提供されます。

詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Click-to-Conference*」、[H-56](#) ページを参照してください。

会議への接続

直接ダイヤルイン

直接ダイヤルインによる会議およびミーティングルームへの接続は、すべてのエンドポイントで可能です。

ネットワークタイプ、会議パスワード、およびチェアパーソンパスワードに応じて異なるダイヤル文字列を参加者に提供する必要があります。

参加者は会議ダイヤルイン文字列をダイヤルして会議 IVR サービスに接続されます。会議パスワードやチェアパーソンパスワードなどの情報を正しく入力すると、参加者は会議に接続されます。

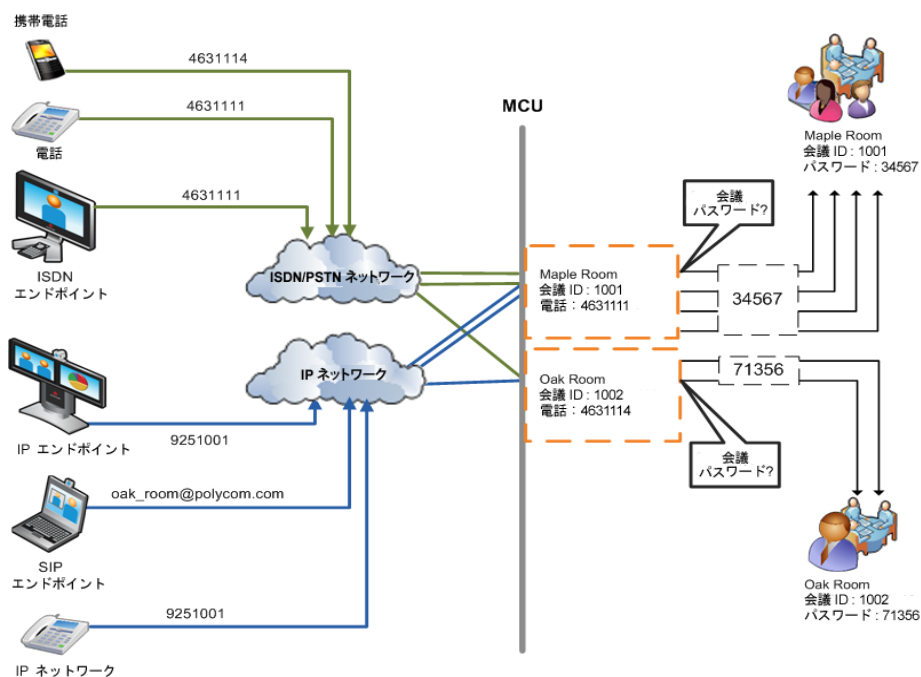


図 3-1 IVR システムを介したダイヤルイン接続

MCU は、チェアパーソンが会議パスワードを入力せずに、チェアパーソンパスワードを会議パスワードとして使用できるように設定できます。

H.323 参加者

H.323 参加者の場合、ダイヤル文字列はゲートキーパーの MCU プリフィックスと会議 ID で構成されます。

例：

ゲートキーパーのプリフィックス	925
会議 ID	1001
会議名	Maple_Room
>> 参加者がダイヤルする文字列	9251001 または 925Maple_room

ネットワークに対して定義されているゲートキーパーがない場合、H.323 参加者は MCU のシグナリングホスト IP アドレスと会議 ID を ## で区切ってダイヤルします。

例：

MCU (シグナリングホスト) IP アドレス	172.22.30.40
会議 ID	1001
>> 参加者がダイヤルする文字列	172.22.30.40##1001

SIP 参加者

SIP 参加者の場合、ダイヤル文字列は会議ルーティング名とドメイン名で構成され、以下の形式となります。

conference_routing_name@domain_name

例：

会議ルーティング名	1001
>> 参加者がダイヤルする文字列	1001@polycom.com

ISDN/PSTN 参加者

ダイヤルイン ISDN および PSTN 参加者は、会議 / ミーティングルーム / 予約 / 会議テンプレートに割り当てられたダイヤルイン番号のいずれかにダイヤルします。必要に応じて国番号と市外局番を含みます。参加者は、ダイヤルイン番号に従って会議にルーティングされます。

例：

割り当てられたダイヤルイン番号	4631111
参加者がダイヤルする文字列	4631111

エントリーキューアクセス

エントリーキューを介したアクセスでは、すべての参加者が同じエントリーポイントにダイヤルできます。このエントリーポイントは、ルーティングのためのロビーとして機能します。エントリーキューに入った参加者は、入力した会議 ID に応じて会議に誘導されます。

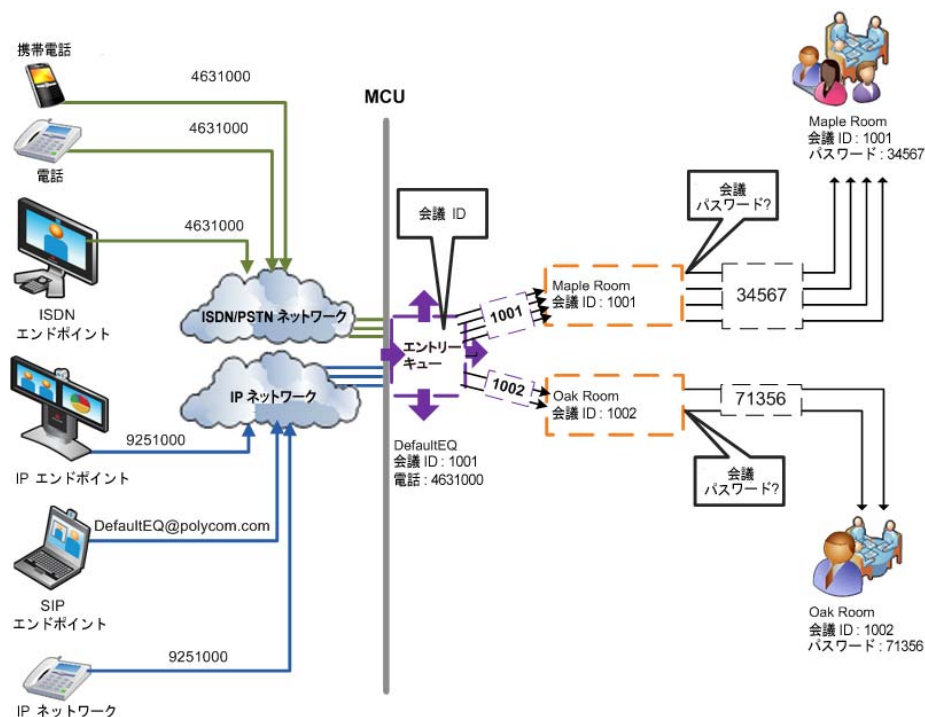


図 3-2 エントリーキューを介したダイヤルイン接続

H.323 参加者

ダイヤル方法は会議の場合と同じで、会議の ID や名前の代わりにエントリーキューの ID または名前が使用されます。

H.323 参加者は、[ゲートキーパープリフィックス][エントリーキューの ID または名前] をダイヤルします。

例：

ゲートキーパーのプリフィックス 925

エントリーキュー ID 1000

>> 参加者がダイヤルする文字列 9251000

H.323 参加者は、最初のダイヤル文字列に接続先の会議の正しい会議 ID を追加すると、エントリーキュー IVR 音声メッセージをバイパスできます。

[ゲートキーパープリフィックス][EQ ID][## 接続先の会議 ID]

例：

会議 ID 1001

>> H.323 参加者がダイヤルする文字列 9251000##1001

また、H.323 参加者は、最初のダイヤル文字列に会議パスワードを追加すると、会議 IVR 音声メッセージもバイパスできます。

[ゲートキーパープリフィックス][EQ ID][## 接続先の会議 ID][## パスワード]

例:

会議 ID 1001

会議パスワード 34567

>> H.323 参加者がダイヤルする文字列 9251000##1001##34567

SIP 参加者

エントリーキューを使用すると、SIP サーバへの登録が必要な会議の数が最小限に抑えられ、1つの URI アドレスをすべてのダイヤルイン会議に使用できるようになります。以下の形式の URI を使用します。

< エントリーキュールーティング名 >@< ドメイン名 >

例:

エントリーキュールーティング名 DefaultEQ

ドメイン名 polycom.com

>> SIP 参加者がダイヤルする文字列 DefaultEQ@polycom.com

ISDN および PSTN 参加者

ISDN および PSTN 参加者用のエントリーキューには、最大 2 個のダイヤルイン番号を割り当てることができます。

エントリーキューに割り当てられていない ISDN および PSTN ダイヤルイン範囲内の番号への通話は、トランジットエントリーキューにルーティングされます。

ダイヤルイン ISDN および PSTN 参加者は、エントリーキューに割り当てられたダイヤルイン番号のいずれかにダイヤルします。必要な場合は、国番号と市外局番もダイヤルします。

ダイヤルした参加者は、会議 ID に応じて会議にルーティングされます。

例:

エントリーキュー ID 1000

割り当てられたダイヤルイン番号 4631000

>> ISDN/PSTN 参加者ダイヤル 4631000

Outlook Meeting Invitation からの Polycom Conference への接続

Polycom Conferencing Add-in for Microsoft Outlook を使用して Outlook を介して送信した Meeting Invitation を受信する出席者は、通知に記載されているリンクをクリックするか、表示されている番号をエンドポイントの入力デバイスを使用して手動でダイヤルすると接続されます。

Meeting
 Bell, Maria
 Sent: 18:56 11/03/2010 ㇏
 To: O'Brien, Sean

 You have been invited to join a meeting using the Polycom® conferencing service.
[Join the meeting using Polycom CMA Desktop](#)
[Join the meeting using Microsoft® Office Communicator](#)

MEETING DETAILS
 Video Number: 7218817
 Meeting Password: 12
[View the meeting stream or recording](#)

TECHNICAL SUPPORT
 If you need help, contact technical support at
 • 1.800.555.2222
 • help@example.com
 • <http://help.example.com/video-calendar>

NOTICE
 Polycom® conferencing service can be used to record meetings. By participating in this meeting, you agree that your communications may be monitored or recorded at any time during the meeting.

DO NOT EDIT BELOW THIS LINE
 --BEGIN POLYCOM VMR ENCODED TOKEN==
 UE9MWUNPTS1BVURJT05VTUJFUjI9CIBPTFDt00tQVVESU9OVU1CRVIXPQpQT0xZQ09NLVNUUkVBTU1FRVRJTk9dHJ1ZQpPTFDt00tQ0hBSVJQVNTV09SRFJFUjVJUKVZbHhNCIBPTFDt00tU0lHTkFMSU5HUE9TVEZJWD1Ac2lwLmV4YW1wbGU RD0xMgpQT0xZQ09NLVZFUjU049MgQo=
 --END POLYCOM VMR ENCODED TOKEN==

Maria Bell
 Engineer
 Polycom

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Polycom Conferencing for Microsoft Outlook®」、10-1 ページを参照してください。

ダイヤルアウト参加者

自動ダイヤルアウト

ダイヤルアウト参加者は、ダイヤルアウト番号で定義されます。開催中の会議にダイヤルアウト参加者が追加されると、参加者に対して定義されているデフォルトの H.323、SIP、または ISDN/PSTN ネットワークサービスを使用して、MCU が参加者に自動的に 1 秒間に 1 ダイヤルアウトの間隔で電話をかけます。

手動ダイヤルアウト

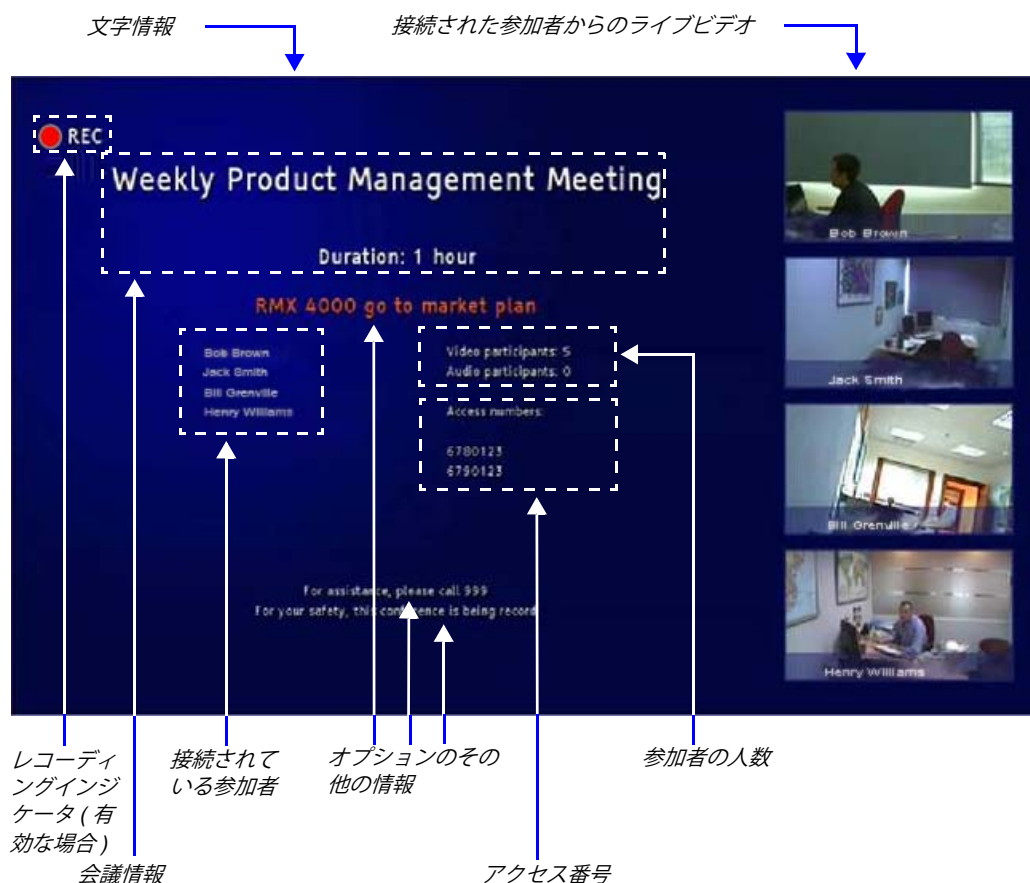
マニュアルモードでは、RMX ユーザまたはミーティング主催者が会議システムに参加者を呼び出すように指示します。ダイヤルアウト参加者を（主に名前と電話番号で）定義して会議に追加する必要があります。このモードは、会議の定義段階でのみ選択でき、会議の開始後には変更できません。

フェーズの収集

会議のフェーズの収集とは、参加者が会議に接続している時間を意味します。これは、[会議プロファイル - 設定の収集] ダイアログボックス内の会議に対して有効にすることができます。

フェーズの収集中は、接続されたエンドポイントからのライブビデオのミックスが会議に関する文字情報（静止 / 可変の両方）に組み合わされて、接続されているすべてのエンドポイントでスライド表示されます。現在の会議の状況が接続されているすべての参加者に常時伝えられます。これには、接続されている参加者の名前、参加者の人数、参加者のタイプ（ビデオ / 音声）などが含まれます。

フェーズの収集中はすべての参加者の音声を聴くことができ、誰かが発言を開始すると、その発言者のビデオがビデオウィンドウに表示されます。



フェーズの収集ガイドライン

- フェーズの収集スライドは、*Show Participants DTMF* コード、*88 を入力して、会議中いつでも表示できます。
- フェーズの収集は、ビデオスイッチ会議ではサポートされません。
- 接続されている最初の 8 名の参加者の名前が表示されます。参加者の人数が 8 名を超える場合、8 列目には
- フェーズの収集スライドの静止文字のフィールドヘッダ (主催者、会議時間、ビデオ/音声参加者、アクセス番号、IP) は、*Polycom Virtual Meeting Rooms Add-in for Microsoft Outlook* で設定されている言語で表示されます。サポートされている言語は以下のとおりです：
 - 英語
 - フランス語
 - ドイツ語
 - スペイン語 (国際)
 - 韓国語
 - 日本語
 - 簡体字中国語
- フェーズの収集スライドの会議のプロファイル設定の収集タブにある *Info1/2/3* フィールドに入力する動的テキスト (ミーティング名、参加者名、アクセス番号、その他の情報など) は、ミーティングの通知と同じ言語で表示されます。
- フェーズの収集を含むために設定された会議のフェーズの収集スライドの言語が *Polycom Conferencing Add-in for Microsoft Outlook* では起動されない場合、管理者が設定してください。管理者は、*RMX Web Client* を使用して、フェーズの収集スライドの言語を設定できます。選択された言語は、設定を実行するために管理者によって使用されている *RMX Web Client* とは別の言語にできます。
- コンテンツは、フェーズの収集中に送信できます。コンテンツは参加者のレイアウトの大きなビデオウィンドウに表示され、収集スライドは小さなビデオウィンドウのレイアウト表示されます。



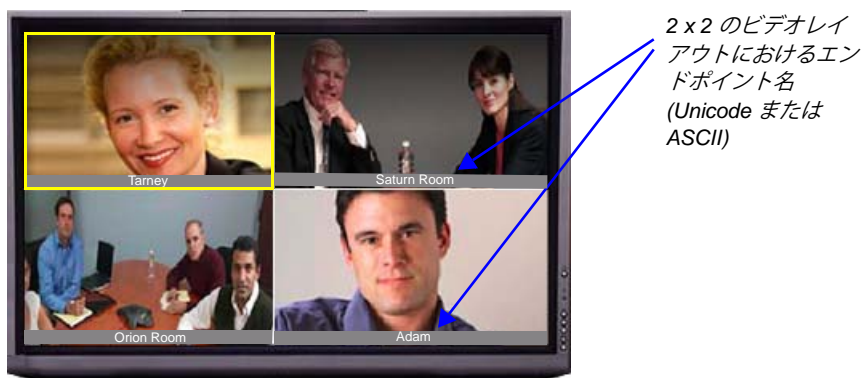
詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Video Preview*」、**2-37** ページを参照してください。

ビデオレイアウトにおけるテキスト表示

エンドポイント (サイト) の名前

会議中、会議に接続されているエンドポイントの名前を自分のエンドポイントのビデオレイアウトウィンドウに表示できます。MCU は、ウィンドウのレイアウト (サイズ) に応じて、エンドポイント名を 33 文字まで表示できます。

エンドポイント画面でのエンドポイント名の表示の例を次に示します。



表示名は以下のように決定されます。

- エンドポイントで定義されている名前が表示されます。
- エンドポイントがエンドポイント名を送信しない場合は、以下のようになります。
 - 定義済みの H.323 参加者または SIP 参加者の場合
 - 参加者定義にある名前が表示されます。
 - 未定義の H.323 参加者の場合
 - H.323 ID エイリアスが表示されます。
 - または
 - E.164 エイリアスが表示されます。
 - または
 - すべてのフィールドが空の場合は何も表示されません。
 - 未定義の SIP 参加者の場合
 - SIP *DisplayName* フィールドが表示されます。
 - または
 - SIP アドレス (SIP アプリケーションサーバ) が表示されます。
 - または
 - SIP *ContactDisplay* フィールドが表示されます。
 - または
 - すべてのフィールドが空の場合は何も表示されません。
 - 定義済みの H.320 参加者の場合
 - 参加者定義にある名前が表示されます。

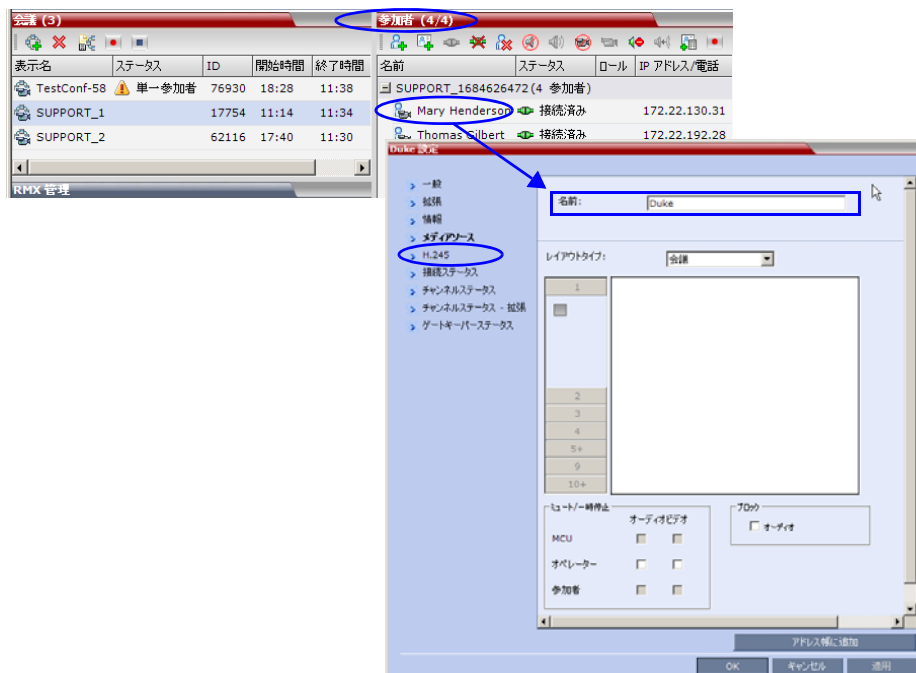
— 未定義の H.320 参加者の場合

- *Terminal Command String (TCS-2)* を表示して参加者を識別します。
または
文字列が受信されていないまたは空白の場合は何も表示されません
- RMX Web Client でエンドポイントの表示名が変更された場合、その表示名が上記すべてに優先されます。

表示名を変更するには：

- 1 参加者リストで参加者をダブルクリックします。または、参加者を右クリックして参加者プロパティを選択します。

参加者プロパティ — メディアソースダイアログボックスが開きます。



- 2 新しい表示名を名前フィールドに入力します。

- 3 OK をクリックします。

エンドポイント名の透明度

エンドポイント名の背景の透明度は 50% であり、コントラストが維持される一方で、重ねられたビデオが完全に見えなくなることはありません。

エンドポイント名の透過性機能は、以下のように、新しいフラグをシステム設定に追加して値を NO に設定すると無効にできます：SITE_NAME_TRANSPARENCY=NO.

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「System Configuration」
19-4 ページを参照してください。

エンドポイント名の常時表示

エンドポイント名は、以下のように、新しいフラグをシステム設定に追加して値を YES に設定すると常時表示できます : SITE_NAMES_ALWAYS_ON = YES.

詳細については、『RMX 2000/4000 Administrator's Guide』の「System Configuration」、[19-4](#) ページを参照してください。

エンドポイント名の場所

ビデオレイアウトのエンドポイント名のデフォルトの位置は、新しいフラグ「SITE_NAMES_LOCATION」をシステム設定に追加して、それによってその値を設定して変更することができます (上揃え、中央揃え、下揃え、左揃え、右揃え)。

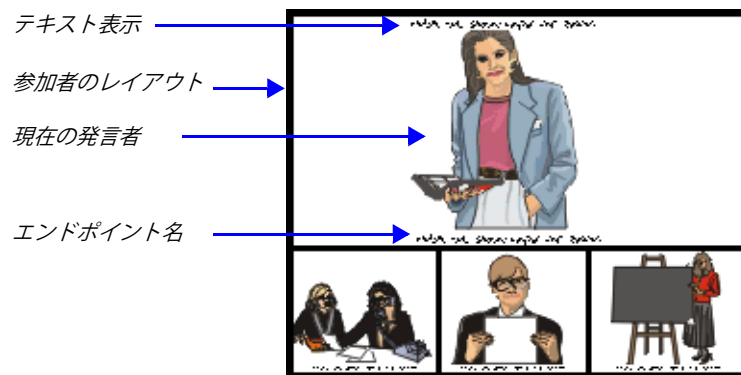
詳細については、『RMX 2000/4000 Administrator's Guide』の「System Configuration」、[19-4](#) ページを参照してください。

テキスト表示

参加者のレイアウトでは、エンドポイント名に加えてテキスト表示が現在の発言者のウィンドウに表示されます。会議のセキュアモード (オンまたはオフ)、接続中の参加者の総数、ビデオ参加者数と音声参加者数を表示します。

テキスト表示は、会議のセキュア状態に変更があった (セキュアが実施またはキャンセルされた) ときに自動的に表示され、数秒間 (エンドポイント名と同じ時間) のみ表示されます。

会議のチェアパーソンまたは参加者は、リモコンなどのエンドポイントの DTMF 入力デバイスに DTMF コード *88 を入力することによって、会議の統計情報のテキスト表示を要求することができます。



テキスト表示は、Conference IVR Service での設定に応じて表示されます：

- ・ チェアパーソン許可 : チェアパーソンに対してのみ表示されます。
- ・ 全員許可 : 参加者全員に対して表示されます。



セカンダリ (ビデオなし) に接続した参加者は音声参加者と見なされます。会議に現在接続していない定義済みの参加者 (未接続、リダイヤル、切断中など) はカウントされません。

テキスト表示は、以下のように、新しいフラグをシステム設定に追加して値を NO に設定すると有効になります : ENABLE_TEXTUAL_CONFERENCE_STATUS = NO.

この設定は、MCU で実行する *臨場感会議* にお勧めします。

詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*System Configuration*」、**19-4** ページを参照してください。

クローズドキャプション

有効になっている場合は、FECC(Far End Camera Control) をサポートしている IP エンドポイントを、ビデオ会議でクローズドキャプションを表示してリアルタイムの字幕または翻訳言語を提供するように設定できます。

会議のキャプションは、会議に参加しているキャプション作成者が提供するか、キャプション作成者が電話または Web ブラウザを使用して会議の音声を聞いて作成します。

キャプション作成者が一連のテキストを送信すると、会議参加者全員のメインモニターに 15 秒間表示されます。その後テキストは自動的に消えます。

エンドポイント名の表示は、クローズドキャプションの表示による影響を受けません。

詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Closed Captions*」、**2-44** ページを参照してください。

クローズドキャプションのオプションは、システム設定のシステムフラグで有効にします。システムフラグの詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*System Configuration*」、**19-4** ページを参照してください。

メッセージオーバーレイ

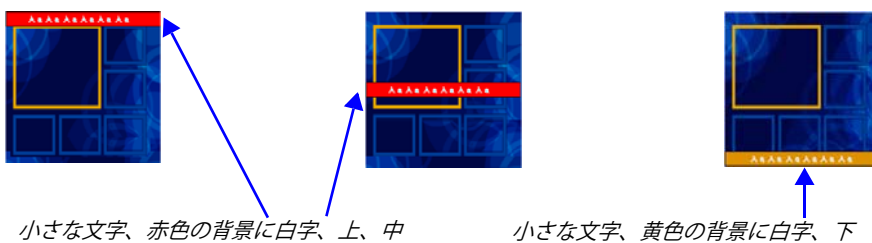
メッセージオーバーレイを使用して、開催中の会議への参加者全員にメッセージを送信できます。

メッセージオーバーレイでは、ユニコード最大 24 文字を送信できます。.



ロシア語などの一部の言語では、大きなフォントサイズを選択すると、メッセージの長さが解像度幅を超えた場合に、ローリングメッセージと静的メッセージの両方が切り取られることがあります。

メッセージは、異なる色、静止、スクロールで画面上の様々な位置に表示設定できます。



詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Message Overlay*」、**2-45** ページを参照してください。

開催中の会議のモニタリング

会議をモニタリングすると、会議や参加者を追跡して、すべての参加者が正しく接続されているか、エラーや障害が発生していないかを確認できます。

1 回の会議の最大参加者数 (音声およびビデオ):

- RMX 1500 MPMx-Q モード: 90 (25 ビデオ)
- RMX 1500 MPMx-S モード: 180 (45 ビデオ)
- RMX 1500 MPMx-D モード: 360 (90 ビデオ)
- RMX 2000 MPM モード: 400 (80 ビデオ)
- RMX 2000 MPM+ モード: 800 (160 ビデオ)
- RMX 2000 MPMx モード: 720 (180 ビデオ)
- RMX 4000 MPM+ モード: 1600 (160 ビデオ)
- RMX 4000 MPMx モード: 1440 (180 ビデオ)

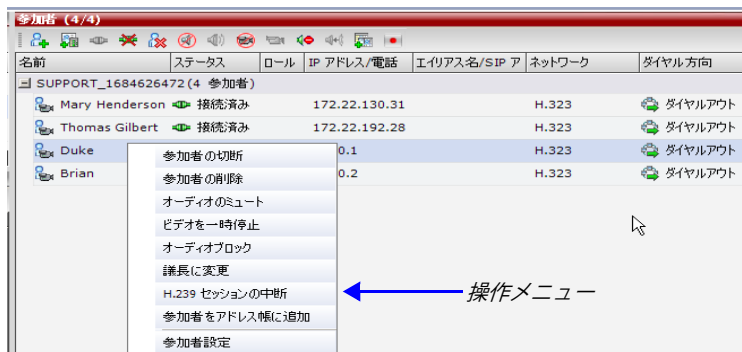
全般のモニタリング

開催中の会議で実行されるモニタリングおよび操作の手順はすべて、以下の 2 つの方法のいずれかで実行できます。

- ツールバーのボタンを使用する。



- 会議ウィンドウ内または参加者ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、メニューから操作を選択する。



複数選択

複数選択を使用すると、複数の会議の複数の参加者をモニタリングしたり、それらに対して同時に操作を実行したりできます。

選択した会議は、参加者リストウィンドウにサブリストとして表示されます。

サブリストは、サブリストのヘッダの会議名の横に表示される **+** および **-** サブリストコントロールボタンをクリックして展開および折りたたむことができます。



チェアパーソンパスワードによるフィルタリング

チェアパーソンとしてログインすると、チェアパーソンパスワードフィールドがパスワードを所有している場合、開催中の会議での検索およびリストの



チェアパーソンパスワードによって開催中の会議で検索を実行するには:

- 1 チェアパーソンパスワードフィールドをクリックします。
- 2 検索用のパスワードを入力します。
- 3 リフレッシュ ボタンをクリックします。

会議リストが更新されて、開催中の会議が必要なパスワードと共に表示されます。



会議レベルのモニタリング

管理者、オペレータ、およびチェアパーソンは、会議レベルのモニタリングを実行できます。

会議リストウィンドウには、開催中の会議に関する情報が表示されます。



ステータス

表示名	ステータス	ID	開始時間	終了時間
TestConf-58	単一参加者	76930	18:28	14:28
SUPPORT_1		17754	11:14	14:34
SUPPORT_2		62116	17:40	14:30

ステータス列にステータスインジケータが1つも表示されない場合、会議が問題なく実行されていることを意味します。

ステータス列には、表 3-5 に示したステータスインジケータが1つ以上表示される場合があります。

表 3-5 会議 — モニタリング情報






フィールド	説明
表示名	<p>会議名と会議タイプが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  — ビデオ会議 (HD CP 会議を含む)。  — ビデオスイッチングモードで実行されている会議。  — 会議が *71 DTMF コードを使用してセキュリティ保護されています。詳細については、「セキュアな会議のモニタリング」、3-41 ページを参照してください。  — オペレータ会議。
ステータス	<p>開催中の会議のステータスが表示されます。 参加者の接続に問題がない場合は、何も表示されません。 以下のいずれかのステータスが発生すると、該当する表記が警告アイコン () と一緒に示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声 — 参加者の音声に問題があります。 空 — 接続された参加者はいません。 接続障害 — 参加者が接続されていますが、その接続に問題があります。 満員ではありません — 接続されているのは、定義済みの参加者全員ではありません。 Partially Connected — 接続プロセスが未完了で、ビデオチャネルは未だ接続されていません。 単一参加者 — 1 名の参加者のみが接続されています。 ビデオ — 参加者のビデオに問題があります。 コンテンツリソース欠陥 — コンテンツがレガシーエンドポイントに送信されません。 オペレータ待機中 — 参加者がオペレータシスタンスを要求しています。
ID	会議に割り当てられた会議 ID。

表 3-5 会議 – モニタリング情報 (続き)

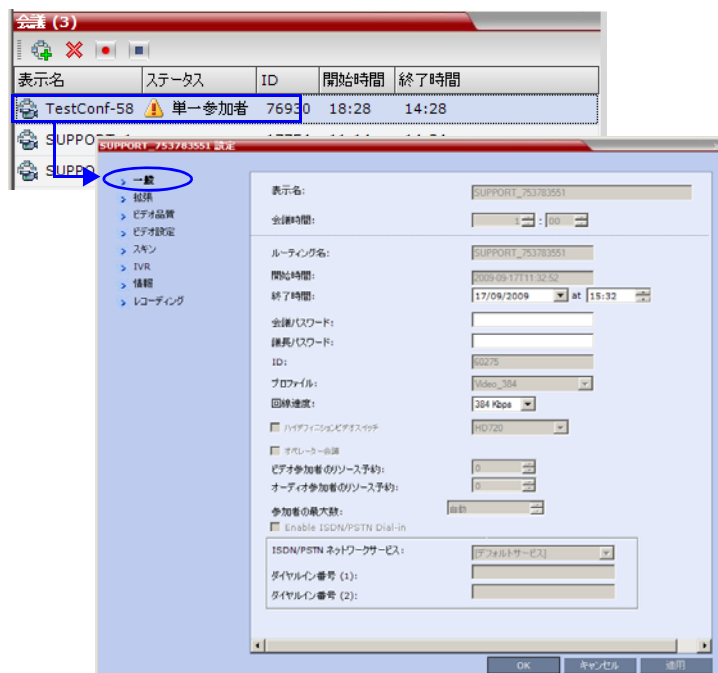
フィールド	説明
開始時間	会議の開始時刻。
終了時間	会議が終了すると予想される時刻。
ダイヤルイン番号 (1)	ISDN/PSTN 参加者用の会議ダイヤルイン番号。
SIP 登録	<p>SIP サーバの登録ステータス :</p> <ul style="list-style-type: none"> • Not configured – SIP サーバの登録が、この会議エンティティに割り当てられた会議プロファイルで有効にされませんでした。複数のネットワーク設定では、他のサービスが設定され登録されていても、1 つのサービスが設定されていない場合には、ステータスは設定されたネットワークサービスの登録が反映されます。各 SIP サーバの登録ステータスは、各会議エンティティの [プロパティ – ネットワーク サービス] ダイアログボックスに表示されます。 • Failed – SIP サーバの登録に失敗しました。これは、IP ネットワーク サービス内の SIP サーバの定義が正しくないか、SIP サーバがダウンしているか、その他の理由で RMX または SIP サーバとネットワーク間の接続が影響を受けている可能性があるためです。 • Registered – 会議エンティティが SIP サーバに登録されました。 • Partially Registered – このステータスは、複数ネットワーク構成で複数のネットワークサービスが選択されている場合に、会議エンティティが要求されるすべてのネットワークサービスへの登録に失敗したときにのみ使用されます。

会議に関するその他の情報は、会議プロパティにアクセスすると確認できます。

会議をモニタリングするには :

>> [Conference List] ペインで、モニタリングする会議の名前をダブルクリックするか会議を右クリックして、[Conference Properties] をクリックします。

Conference Properties — [General] ダイアログボックスが開きます。



すべての会議プロパティを表示できますが、グレーの背景で表示された設定を変更することはできません。

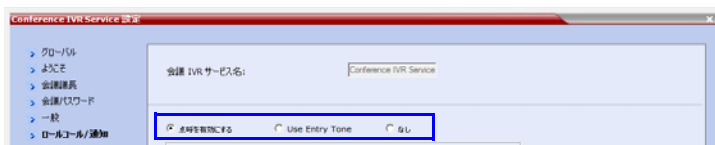
詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Conference Level Monitoring」、11-3 ページを参照してください。

会議開催中のロールコール / オーディオトーン

ロールコールが有効な場合、参加者の会議出席または退席時にシステムが音声メッセージを参加者全員に再生します。出席または退席参加者のロールコール名で構成される音声メッセージは、「会議に出席」または「会議から退席」した後に送られます。

これらの音声メッセージは、オーディオトーンに置き換えることができます。トーンを使用するには、*.wav 形式の適切なトーンファイルをアップロードして、ロールコール出席およびロールコール退席メッセージファイルとの置き換えを設定する必要があります。

これらのオプションは、[会議 IVR サービスプロパティ — ロールコール / 通知] ダイアログボックスで有効 / 無効に変更できます。



詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Defining a New Conference IVR Service」、15-7 ページを参照してください。


音声のみのメッセージ

ビデオリソースが不足しているためセカンダリ(音声のみ)で接続されている H.323 および SIP ビデオ参加者は、音声メッセージを受信します: 「All video resources are currently in use. Connecting using audio only(すべてのビデオリソースが現在使用されています。音声のみで接続しています)」というメッセージでビデオ接続されていない理由が説明されます。詳細については、RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide を参照してください。

セキュアな会議のモニタリング

RMX でセキュアな会議モードを有効にすると、会議がロックされて参加者と RMX ユーザーは会議へ出席できなくなります。セキュアな会議は、モニタリングまたはコントロールを一切行うことができません。会議がセキュアモードの間、管理者の権限を持つ RMX ユーザーは参加者のリストまたはその他の会議プロパティを閲覧できませんが、手動で終了させることはできます。

会議チェアパーソンは、DTMF 入力デバイス(トーンダイヤル電話またはエンドポイントのリモートコントロール)から適切な DTMF コード(デフォルトのコードは *71)を使用して、セキュアモードを有効または無効にできます。セキュアな会議中、チェアパーソンおよび参加者は、DTMF 入力デバイスから適切な DTMF コードを使用して各種の操作(ミュートなど)を実行できます。ただし、セキュアな会議はモニタリングできないため、操作やステータスの変更は会議または参加者ペインに表示されません。

セキュアモードの会議の表示には、専用アイコン  が使用されます。

進行中のゲートウェイセッションのモニタリング


ゲートウェイプロファイルの呼び出し時に作成される進行中のゲートウェイセッションは、開催中の会議リストに記載されて会議と同じ方法でモニタリングされます。

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Conference Level Monitoring」、11-3 ページを参照してください。

参加者レベルのモニタリング

参加者の接続のモニタリング

会議リストで会議が選択されると、参加者リストヘッダーに参加者接続ステータスの概要が表示されます。



会議リスト

参加者リストヘッダー

与会者 (12/15)

接続済みおよび接続予定

現在接続済み

これらの数には以下が含まれます。

- 現在接続済みの参加者 — 現在会議に接続している定義済みおよび未定義の参加者。
- 接続済みおよび接続予定 — 会議に参加予定の参加者の合計数。会議に接続することを予定されている現在接続されている参加者と定義されている参加者を含みます。

上記の図では、**参加者 (12/15)** は、15 名の予定参加者のうち 12 名が接続されており、3 名の定義済み参加者がまだ接続されていないことを示しています。

参加者リストに、次の参加者インジケータとプロパティが表示されます。

表 3-6 参加者のモニタリング インジケータとプロパティ

列	アイコン / 説明	
名前	参加者の名前とタイプ (アイコン) が表示されます。	
		音声参加者 — IP 電話または ISDN/PSTN で接続されています。
		ビデオ参加者 — 音声チャンネルとビデオチャンネルで接続されています。
ステータス	参加者の接続ステータス (テキストとアイコン) が表示されます。参加者の接続に問題がない場合は、何も表示されません。	
		接続済み — 参加者は正常に会議に接続されています。
		切断済み — 参加者は会議から切断されています。このステータスは、定義済みの参加者のみに適用されます。
		ダイヤルイン待ち — 定義済みの参加者が会議にダイヤルインするのを待っています。
		Partially Connected — 接続プロセスが未完了で、ビデオチャンネルは未だ接続されていません。
ステータス (続き)		接続障害 — 参加者は接続されていますが、同期が失われたなど、接続の問題が発生しています。
		セカンダリ接続 — エンドポイントのビデオチャンネルを会議に接続できず、参加者は音声のみで接続されています。
		個人アシスタンスの待機中 — 参加者がユーザ (オペレータ) のアシスタンスを要求しています。
		会議アシスタンスの待機中 — 参加者が会議についてオペレータのアシスタンスを要求しています。これは通常、ユーザ (オペレータ) が会議に参加することを要求されていることを示します。

表 3-6 参加者のモニタリング インジケータとプロパティ (続き)


















列	アイコン / 説明	
ロール	会議での参加者のロールまたは役割が表示されます。	
		チェアパーソン – この参加者は、会議のチェアパーソンとして定義されています。チェアパーソンは、トーンダイヤル信号 (DTMF コード) を使用して会議を管理できます。
		レクチャラ – この参加者は、会議のレクチャラとして定義されています。
		レクチャラ兼チェアパーソン – 参加者は、会議のレクチャラおよびチェアパーソンの両方に定義されています。
		カスケードが有効なダイヤルイン参加者 – カスケード会議のリンクとして機能する特別な参加者。
		レコーディング – レコーディングリンクとして機能する特別な参加者。
音声		発言の要求 – 会議主催者 / システムオペレータによりミュートされた参加者は、適切な DTMF コード (デフォルト 99) を入力することにより、ミュート解除の要求を表すことができます。アイコンが 30 秒間表示されます。
	IP 参加者の IP アドレスまたは ISDN/PSTN 参加者の電話番号。	
	参加者のエイリアス名または SIP URI。 参加者がレコーディングリンクとして機能している場合、RSS 2000 レコーディングシステムのエイリアス。	
	参加者のネットワーク接続タイプ (H.323、SIP または ISDN/PSTN)。	
		ダイヤルイン – 参加者が会議にダイヤルしました。
		ダイヤルアウト – MCU が参加者にダイヤルしました。
音声	参加者の音声チャンネルのステータスが表示されます。 参加者の音声接続されていて、チャンネルがミュートもブロックもされていない場合は、何も表示されません。	
		切断 – 参加者の音声チャンネルは切断されています。これは会議への接続を待機している定義済みの参加者です。
		ミュート中 – 参加者の音声チャンネルはミュートされています。この状態でも参加者は会議の音声を聞くことができます。
		ブロック中 – 会議から参加者への音声の送信がブロックされています。
		ミュートおよびブロック中 – 音声チャンネルがミュートおよびブロックされています。

表 3-6 参加者のモニタリング インジケータとプロパティ (続き)

列	アイコン / 説明	
ビデオ	参加者のビデオチャネルのステータスが表示されます。 参加者のビデオ接続に問題がなく、音声チャネルが中断されていたりセカンダリであったりしなければ、何も表示されません。	
		切断 — 参加者のビデオチャネルは切断されています。これは会議への接続を待機している定義済みの参加者です。
		一時停止中 — 参加者から会議へのビデオ送信が一時停止しています。
		セカンダリ — ビデオチャネルの問題が原因で、参加者は音声チャネルのみで接続されています。
暗号化		エンドポイントが会議への接続に暗号化を使用していることを示します。
サービス名	この参加者が会議に接続するために使用した IP ネットワークサービスが表示されます。	
FECC トークン		参加者は FECC トークンの所有者で、相手側からのカメラ制御 (FECC) 機能を使用できます。 FECC トークンは、一度に 1 人の参加者のみに割り当てられます。このトークンを要求する参加者がいない場合は、割り当てられないままです。
コンテンツトークン		参加者はコンテンツトークンの所有者で、コンテンツを共有する許可が与えられています。 コンテンツトークンは、一度に 1 人の参加者のみに割り当てられます。このトークンを要求する参加者がいない場合は、割り当てられないままです。 詳細については、『 <i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i> 』の「 <i>H.239 / People+Content</i> 」 2-25 ページを参照してください。

詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Participant Level Monitoring*」[11-13](#) ページを参照してください。

ビデオプレビュー

RMX ユーザは、ビデオプレビューを使用して、参加者が送信および受信したビデオの品質をモニターでき、品質が低下していないかどうかをチェックできます。

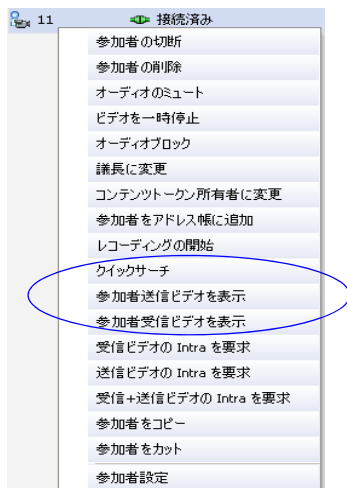
ガイドライン

- MPM+ および MPMx カードでは、ビデオプレビューがサポートされています。
- プレビューウィンドウは、各 RMX Web Client 接続 (ワークステーション) に 1 つだけ表示されます。
- プレビューウィンドウは、1 つの会議に 1 つのみ表示され、異なるワークステーション上の各メディアカードに 4 つまでのプレビューウィンドウを表示できます (ワークステーション当たり 1 つ、および会議当たり 1 つ)。

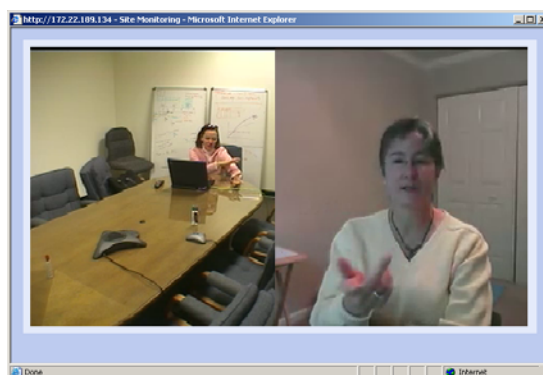
詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Video Preview*」[2-37](#) ページを参照してください。

参加者のビデオをプレビューするには：

- 1 会議参加者を参加者ペインにリスト表示します。
- 2 ビデオをプレビューする参加者を右クリックして、以下のいずれかを選択してクリックします：



- 参加者送信ビデオを表示 — 参加者から会議へ送信されたビデオを表示します。
 - 参加者受信ビデオを表示 — 会議から参加者へ送信されたビデオを表示します。
- ビデオプレビューウィンドウが開きます。



PC に取付けられているビデオカードが DirectDraw Acceleration をサポートしていない場合、黒い画面が表示されます。ワークステーションの最低要件など、詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』を参照してください。

開催中の会議で実行される操作

会議レベルの操作

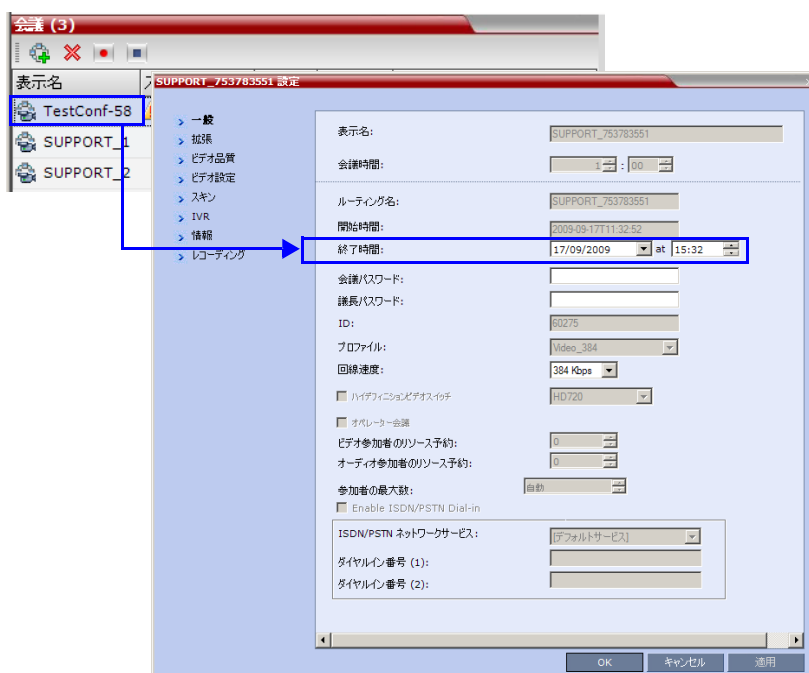
会議時間の変更

各会議の会議時間は、新しい会議を作成するときに設定します。デフォルトの会議時間は1時間です。RMX で実行されているすべての会議は、会議に接続されている参加者がいる限り、自動的に延長されます。

会議の会議時間は、スケジュールした終了時間を変更することで、実行中に延長または短縮できます。

会議を手動で延長または短縮するには：

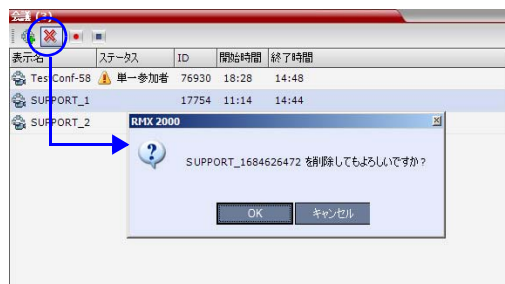
- 1 会議ウィンドウで、会議の名前をダブルクリックします。
- 2 一般タブで、終了時間フィールドを変更し、OK をクリックします。



終了時間が変更され、会議時間フィールドが更新されます。

会議を手動で終了するには：

- 1 会議リストで削除する会議を選択し、会議の削除 (X) ボタンをクリックします。
確認を求められます。



- 2 OK をクリックして、会議を終了します。

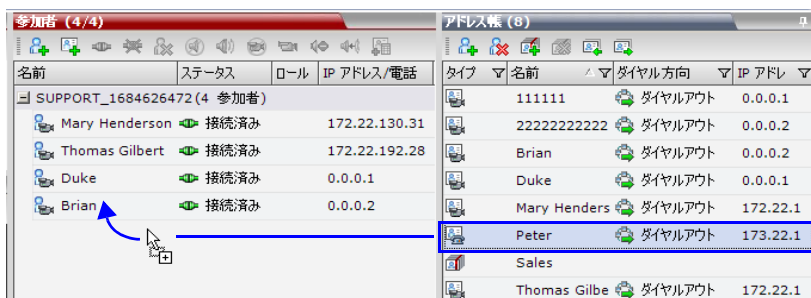
アドレス帳から参加者を追加

新規会議 参加者タブを使用せずに、参加者アドレス帳から参加者を会議に直接追加できます。

参加者を参加者リストにドラッグアンドドロップするには：

- 1 アドレス帳を開きます。
- 2 参加者アドレス帳から直接、会議に追加する参加者を選択し、参加者リストにドラッグアンドドロップします。

この手順では、Windows の標準的な複数選択テクニックを使用できます。



参加者の移動

RMX ユーザは、以下の操作を行って参加者を支援することができます。

- 参加者をオペレータ会議に移動 (参加者として出席)。
- 参加者をホーム (接続先) 会議に移動。
- 参加者を開催中の会議から別の会議に移動。

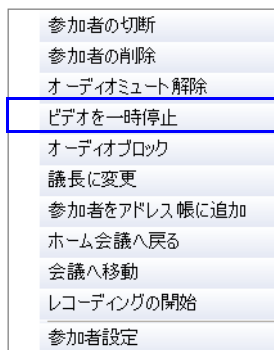
オペレータ会議へ移動は、オペレータ会議が実行中にのみ有効になります。オペレータ会議およびオペレータ会議からの参加者移動の詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Operator Assistance & Participant Move」、8-1 ページを参照してください。

移動は、以下の方法を使用して行うことができます。

- 参加者の右クリックメニューを使用
- ドラッグアンドドロップ

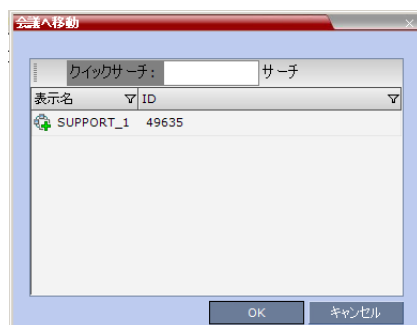
参加者を開催中の会議から移動するには、右クリックメニューのオプションを使用します：

- 1 会議リストで、移動を待っている参加者がいる会議をクリックします。
- 2 参加者リストで移動する参加者のアイコンを右クリックして、以下のオプションを選択します：



— 会議へ移動 — 参加者を開催中の別の会議に移動します。

選択すると **会議へ移動** ダイアログボックスが表示され、移動先の会議の名称を選択できます。



参加者をインタラクティブな方法で移動する

エントリーキューまたは開催中の会議から、オペレータ会議または接続先（ホーム）会議に参加者をドラッグアンドドロップできます。

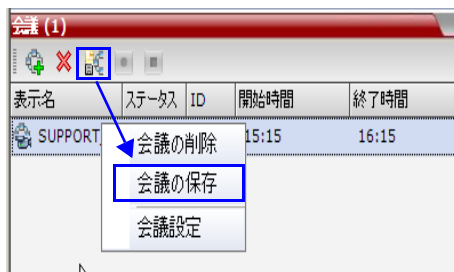
- 1 会議リストのエントリをクリックして、エントリーキューまたは元の会議の参加者リストを表示します。
- 2 参加者リストで、会議リストの枠に参加者のアイコンをドラッグして、オペレータ会議アイコンまたは別の開催中の会議にドロップします。

開催中の会議をテンプレートとして保存

開催中の会議はどれでもテンプレートとして保存できます。

会議をテンプレートとして保存するには：

- 1 会議リストでテンプレートとして保存する会議を選択します。
- 2 会議の保存 (📁) ボタンをクリックします。
または
右クリックして、会議の保存を選択します。



開催中の会議の表示名と同じ名前でテンプレートとして保存されます。

会議のコピーと貼り付け

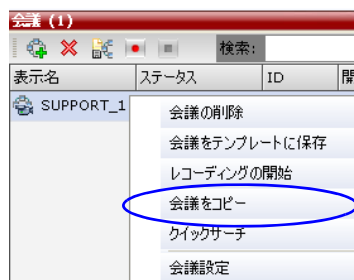
RMX ユーザは、会議をコピーおよび貼り付けることができます。RMX Web Client を使用している場合は会議を同じ RMX にコピーして貼り付けることができ、RMX Manager を使用している場合は複数の RMX 会議を管理して別の RMX 間でコピーして貼り付けることもできます。

会議のコピー

コピーコマンドを使用して、接続されている参加者を含むすべての会議プロパティをコピーして、コピーしたプロパティを貼り付けて新しい会議を開始できます。コピーした会議は、完了または削除するまで有効な状態となります。

会議をコピーするには：

- 1 会議リストペインで、コピーする会議を右クリックします。
- 2 ドロップダウンメニューで、会議をコピーを選択します。



会議を貼り付け

会議を貼り付けコマンドを使用して、同じ RMX または別の RMX で新しい会議を開始できます。

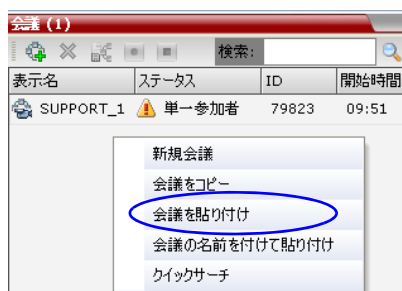
会議を貼り付けるには：

>> 会議リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューで会議を貼り付けを選択します。

または

RMX Manager を使用している場合に、会議を別の RMX に貼り付けるには：

- a MCU リストペインで、会議受信先の RMX をクリックします。
- b 会議リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューから会議を貼り付けを選択します。



会議が RMX に貼り付けられます。表示名は、システムによって割り当てられます。

会議の名前を付けて貼り付け

会議の名前を付けて保存コマンドを使用することで、RMX ユーザが新しい会議を作成できるようになります。コピーされた会議のプロパティがテンプレートとして使用されます。Conference Properties ダイアログボックスが自動的に開き、RMX ユーザは全般、参加者および情報タブを変更して新しい会議を作成できます。会議プロパティダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、新しい会議が開始されます。

会議に新しい名前を付けて貼り付けるには：

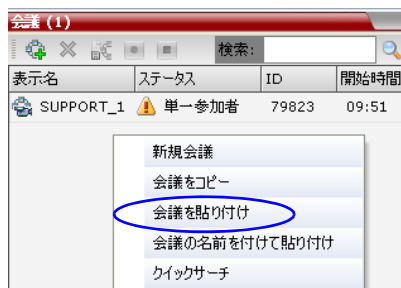
- 1 会議リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューで会議の名前を付けて貼り付けを選択します。

または

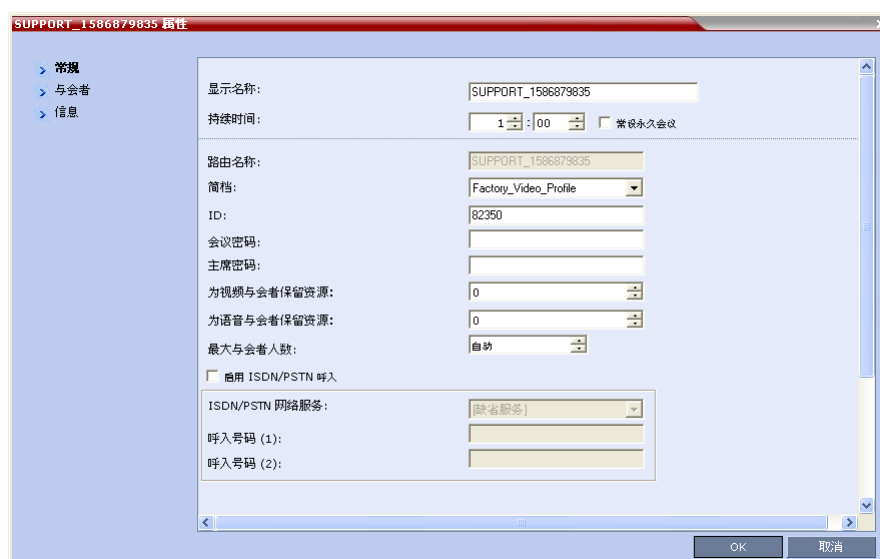
RMX Manager を使用している場合に、会議を別の RMX に貼り付けるには：

- a MCU リストペインで、会議受信先の RMX をクリックします。

- b 会議リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューから会議の名前を付けて貼り付けを選択します。



会議プロパティ ダイアログボックスが表示されます。



- 2 必要に応じて、会議の情報を変更します。
- 3 [OK] ボタンをクリックすると、貼り付けられて新しい会議が開始されます。

会議のビデオレイアウトの変更

会議の実行中に、ビデオレイアウトを変更し、RMX でサポートされている 24 種類のビデオレイアウトから 1 つを選択できます。

ビデオレイアウトの選択は、以下の 2 つのレベルで行うことができます。

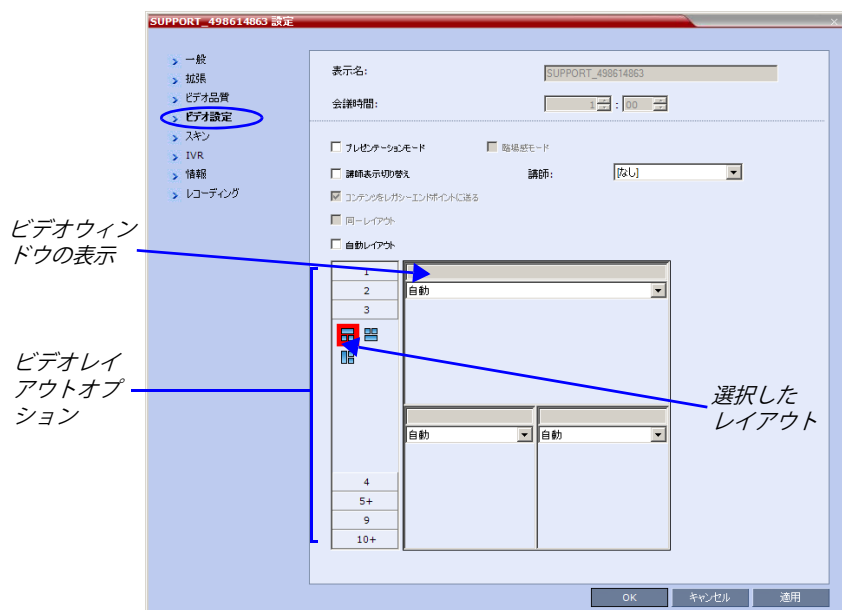
- **会議レベル** — すべての会議参加者に適用されます。すべての参加者のビデオレイアウトは同じになります。
- **参加者レベル** — 当該参加者のビデオレイアウトが変更されます。その他の会議参加者のビデオレイアウトは影響を受けません。

最初のビデオレイアウトは、**会議プロフィール**で会議に対して選択されます。

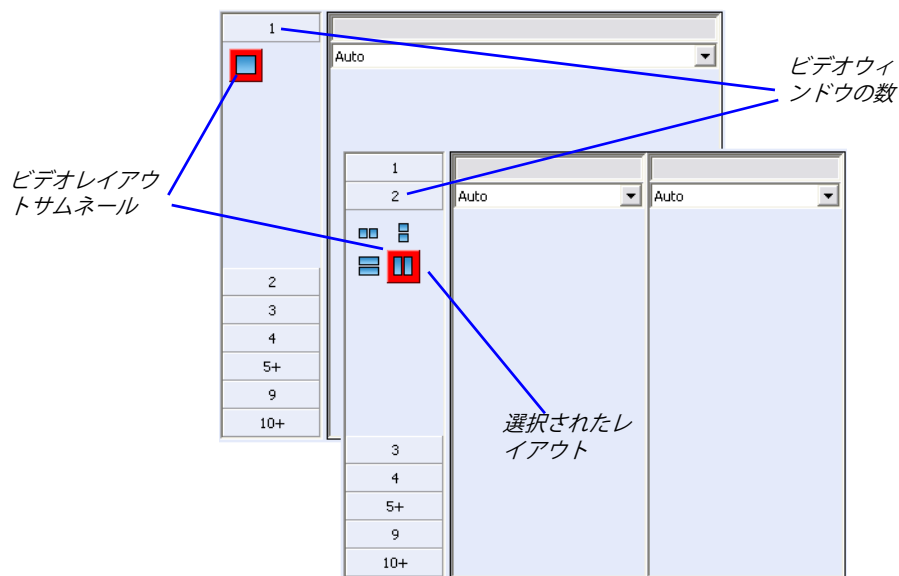
参加者レベルのビデオレイアウトの選択は、会議レベルのビデオレイアウト設定に優先されます。レクチャラモードが有効な場合は、参加者は**個人レイアウト**を変更できません。

会議のビデオレイアウトを変更するには：

- 1 会議プロパティダイアログボックスで、ビデオ設定を選択します。



- 2 自動レイアウトチェックボックスが選択されている場合、選択を解除します。
- 3 ビデオレイアウトのオプションから、表示するウィンドウの数と必要なビデオレイアウトのサムネイルを選択し、OK をクリックします。



ビデオ固定

チェアパーソンまたはオペレータの権限を持つユーザは、**ビデオ固定**を使用して、ビデオレイアウトウィンドウごとに表示する参加者を選択できます。参加者をレイアウトウィンドウに固定すると、そのウィンドウでの参加者の切り替えは中断され、割り当てられた参加者のみが表示されます。ビデオ固定は、会議レベルまたは参加者レベルで機能します。

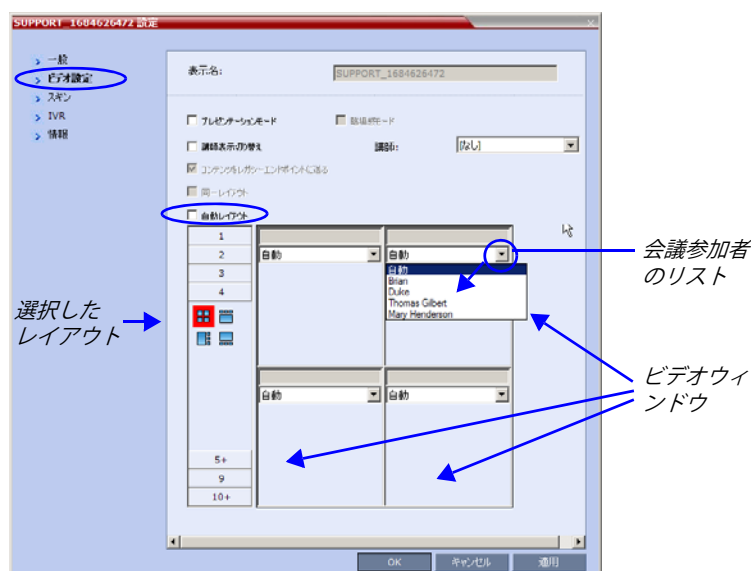
- **会議レベル** — 参加者をウィンドウに固定すると、すべての会議参加者が選択されたウィンドウでその参加者を参照できます。
- **参加者レベル** — 参加者をウィンドウに固定すると、その参加者のビデオレイアウト表示のみが影響を受けます。その他の参加者には会議レイアウトが表示されます。

ビデオ固定に関するガイドライン：

- 1人の参加者を同時に2つ以上のウィンドウに表示することはできません。
- 参加者レベルのビデオ固定は、会議レベルのビデオ固定に優先されます。
- 同一レイアウトオプションを選択すると、参加者は自分自身をレイアウトウィンドウに表示できます。
- 個人レイアウトでは、1+2、1+3、1+4などの異なるサイズのビデオウィンドウがビデオレイアウトで使用されている場合、参加者を固定できるのは、**会議レイアウト**でその人物用に選択したサイズと同じサイズのビデオウィンドウのみです。
- 会議レベルでビデオレイアウトを変更した場合、新しいレイアウトにはビデオ実行の設定が適用されず、参加者の切り替えでは音声アクティブです。Video Forcing の設定は保存され、レイアウトを次回選択したときに適用されます。
- 参加者が割り当てられていないウィンドウには、現在の発言者と最後の発言者が表示されます。

参加者をウィンドウにビデオ固定するには：

- 1 会議プロパティダイアログボックスで、ビデオ設定タブを選択します。
- 2 自動レイアウトチェックボックスがオンになっている場合は、オフにします。
- 3 必要なビデオレイアウトを選択します。
- 4 参加者を固定するウィンドウで、参加者の名前を会議参加者のリストから選択します。



- 5 他のウィンドウに参加者を固定するには、ステップ 3 を繰り返します。
- 6 OK をクリックします。

ウィンドウのビデオ固定をキャンセルするには：

- 1 会議プロパティダイアログボックスで、ビデオ設定タブを選択します。
- 2 ビデオレイアウトウィンドウの 参加者リスト で、自動を選択します。
- 3 OK をクリックします。

参加者の切り替えが再開されます。音声はアクティブです。

Video Clarity™ の有効化および無効化

Video Clarity™ は、会議の開催中に有効または無効にできます。

Video Clarity を有効または無効にするには：

- 1 会議リスト ペインで Video Clarity を有効または無効にする会議名をダブルクリックします。
または
会議名を右クリックして、会議プロパティ をクリックします。
- 2 ビデオ設定タブ をクリックします。
- 3 Video Clarity のチェックボックスを選択または解除します。
- 4 OK をクリックします。

メッセージオーバーレイの有効化および無効化

ユーザはメッセージオーバーレイを有効または無効にすることが可能で、それにより会議の進行中に、参加者全員にテキストメッセージを送信できます。

メッセージオーバーレイを有効にするには

- 1 会議リスト ペインで、メッセージオーバーレイを有効にする会議名をダブルクリックするか、会議名を右クリックして会議プロパティ をクリックします。
- 2 メッセージオーバーレイタブ をクリックします。
- 3 有効にするチェックボックスを選択します。
- 4 必要に応じて、ダイアログボックスのフィールドを変更してメッセージを表示します。
- 5 OK をクリックします。

メッセージオーバーレイを無効にするには

- 1 上記の有効化でステップ 1 と ステップ 2 を繰り返します。
- 2 [有効にする] チェックボックスを消去します。
- 3 [OK] をクリックします。

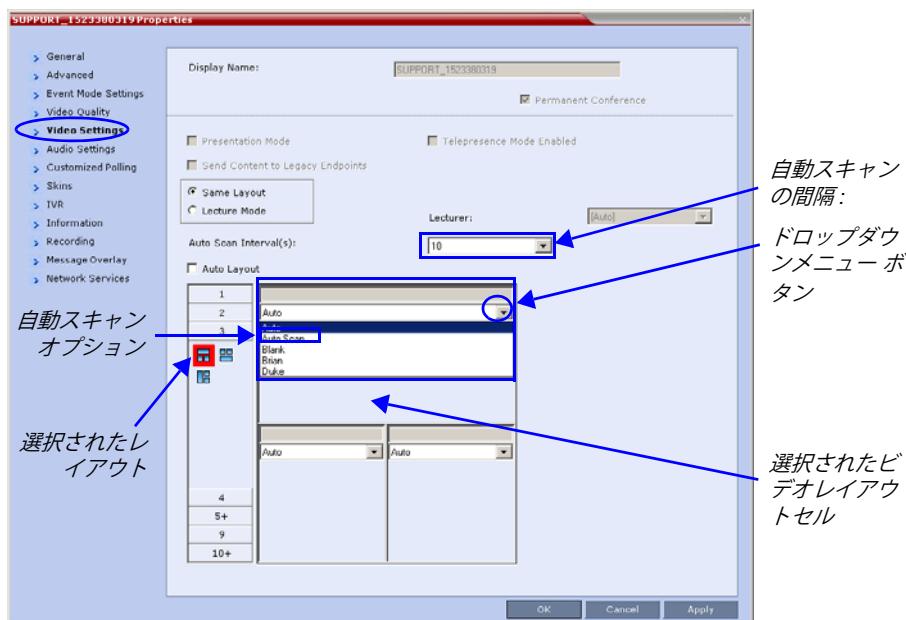
自動スキャン

自動スキャンでは、会議レイアウトにいない参加者の表示を循環するように会議レイアウトの1つのセルを定義することができます。

カスタムポーリングでは、循環表示を事前定義された期間、事前定義した順に設定することができます。参加者数がレイアウトのセル数以上の場合にのみ、循環表示が発生します。

自動スキャンを有効にするには

- 1 [RMX Web Client のメイン画面- 会議] リストペインで、会議をダブルクリックするか、会議を右クリックして[会議プロパティ]をクリックします。
- 2 [会議プロパティ- 一般] ダイアログボックスで、[ビデオ設定]をクリックします。
[ビデオ設定]タブが表示されます。

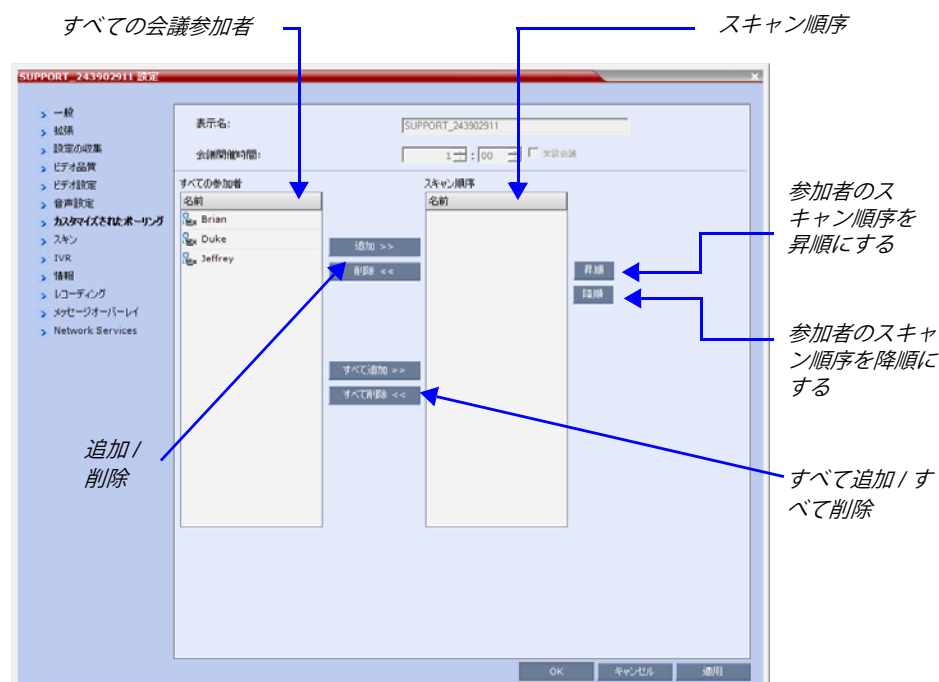


- 3 自動スキャン用に指定するビデオレイアウトで、ドロップダウンメニュー ボタンをクリックして、[自動スキャン]を選択します。
- 4 [自動スキャンの間隔] ドロップダウンリストからスキャン間隔 / 秒を選択します。
- 5 [適用] ボタンをクリックして確定して、[会議プロパティ] ダイアログボックスを開いたままにします。
- または -
[OK] をクリックして確定して、[会議プロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

カスタムポーリング

ビデオレイアウトの自動スキャンを有効にしたセルに自動スキャンされた参加者の表示順をカスタマイズすることができます。

- 1 [カスタマイズされた ポーリング] タブを開いて、以下を実行します。
 - a [ビデオ設定] タブが開いている場合は、[カスタムポーリング] タブをクリックします。
または
 - b [会議] リストペインで、会議をダブルクリックするか、会議を右クリックして[会議プロパティ] をクリックします。
 - c [会議プロパティ - 一般] ダイアログボックスで、[カスタムポーリング] をクリックします。
[カスタムポーリング] タブが表示されます。



すべての会議参加者が左のペインに一覧表示され (すべての参加者)、ビデオレイアウトの自動スキャンが有効になっているセルに表示させるようにする参加者は右のペインに表示されます (スキャン順)。

ダイアログ ボックス ボタンは、表 3-7 を参照してください。

表 3-7 カスタムポーリング ボタン

ボタン	説明
追加	参加者を選択してこのボタンをクリックして、自動スキャンにする参加者の一覧に参加者を追加します。参加者名は、[すべての参加者] ペインから削除されます。

表 3-7 カスタムポーリング ボタン (続き)

ボタン	説明
削除	参加者を選択してこのボタンをクリックして、自動スキャンにする参加者の一覧から参加者を削除します。参加者名は、[すべての参加者] ペインに戻ります。
すべて追加	自動スキャンにする参加者の一覧にすべての参加者を追加します。すべての参加者名は、[すべての参加者] ペインから削除されます。
すべて削除	自動スキャンにする参加者の一覧からすべての参加者を削除します。参加者名は、[すべての参加者] ペインに戻ります。
昇順	参加者を選択してこのボタンをクリックして、参加者のスキャン順序を昇順にします。
降順	参加者を選択してこのボタンをクリックして、参加者のスキャン順序を降順にします。

- 2 オプション。以下の手順に従って自動スキャンにする参加者の一覧に参加者を追加します。
 - a すべての参加者一覧から参加者名をクリックします。
 - b 追加ボタンをクリックして、参加者をスキャン順序ペインに移動します。
- 3 オプション。以下の手順に従って自動スキャンにする参加者の一覧から参加者を削除します。
 - a スキャン順序一覧から参加者名をクリックします。
 - b 削除ボタンをクリックして、参加者を すべての参加者 ペインに戻します。
- 4 オプション。以下の手順に従って自動スキャンにする参加者の一覧にすべての参加者を追加します。
 - すべて追加ボタンをクリックします。
- 5 オプション。以下の手順に従って自動スキャンにする参加者の一覧からすべての参加者を削除します。
 - すべて削除ボタンをクリックします。
- 6 オプション。以下の手順に従って参観者のスキャン順序を昇順にします。
 - 昇順ボタンをクリックします。
- 7 オプション。以下の手順に従って参観者のスキャン順序を降順にします。
 - 降順ボタンをクリックします。
- 8 適用ボタンをクリックして確定して、会議プロパティダイアログボックスを開いたままにします。
または
OK ボタンをクリックして確定して、RMX Web Client メイン画面に戻ります。

参加者レベルの操作

参加者レベルの操作では、開催中の会議にて参加者の接続やステータスを変更および制御できます。表 3-8 の説明を参照してください。

表 3-8 参加者レベルの操作

メニュー オプション	ボタン	説明
新規参加者		新規参加者を定義します。[新規参加者] ダイアログボックスのタブの詳細については、表 3-3 (3-18 ページ) を参照してください。
アドレス帳から 参加者を追加		アドレス帳を開いて、会議の参加者を選択します。 アドレス帳の詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Address Book」、6-1 ページを参照してください。
参加者の接続		切断されている未定義のダイヤルアウト参加者を会議に接続します。
参加者の切断		参加者を会議から切断します。
参加者の削除		選択した参加者を会議から削除します。
音声のミュート		参加者から会議への音声送信をミュートします。 音声ミュート中インジケータが参加者リストに表示され、音声ミュート解除ボタン () がアクティブになります。
音声ミュート解除		参加者から会議への音声送信が再開されます。 音声ミュートボタン () がアクティブになります。
ビデオの中断		参加者から会議へのビデオ送信を中断します。抑制された参加者のビデオは会議に送信されませんが、この状態でも参加者は会議ビデオを受信します。 ビデオを中断インジケータが参加者リストに表示され、ビデオを再開ボタン () がアクティブになります。
ビデオを再開		参加者から会議へのビデオ送信が再開されます。 [Suspend Video] ボタン () がアクティブになります。
音声ブロック		会議から参加者への音声送信をブロックします。ブロックされていても、会議では参加者の音声を聞くことができます。 音声ブロックインジケータが参加者リストに表示され、音声ブロック解除ボタン () がアクティブになります。
音声ブロック解除		会議から参加者への音声送信が再開されます。 音声ブロックボタン () がアクティブになります。
参加者をアドレ ス帳に追加		選択した参加者の詳細を参加者アドレス帳に追加します。

表 3-8 参加者レベルの操作 (続き)

メニュー オプション	ボタン	説明
会議へ移動		参加者を開催中の別の会議に移動させます。移動先の会議は、表示されるリストから選択できます。
参加者送信ビデオを表示		参加者から会議に送信されたビデオをプレビューします。
参加者受信ビデオを表示		会議から参加者に送信されたビデオをプレビューします。
参加者をコピー		貼り付け準備中のすべての参加者のパラメータを別の会議にコピーします。または、現在の会議に戻します。
参加者をカット		すべての参加者のパラメータをコピーして、現在の会議から参加者を削除します。参加者を別の会議にコピーできます。または、現在の会議に戻すことができます。
参加者の名前を付けて貼り付け		[参加者アドレス帳] から [プロパティ] ダイアログボックスを選択して、選択した会議に参加者を新規参加者として、変更されたパラメータと一緒に貼り付けます。
H.239 セッションの中止		コンテンツトークンが参加者から回収され、再割り当てできるように MCU に戻されます。
チェアパーソンに変更		選択した参加者を会議リーダー / チェアパーソンとして定義します。
通常の参加者に変更		チェアパーソンを、チェアパーソン権限を持たない通常の参加者として定義します。
コンテンツトークン所有者に変更		<i>Content Broadcast Control</i> を開始して、参加者によって共有される <i>H.239 Content</i> の予期せぬ中断や終了を防止します。 詳細については、『 <i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i> 』の「 <i>Content Broadcast Control</i> 」 2-76 ページを参照してください。
コンテンツトークン所有者をキャンセル		<i>Content Broadcast Control</i> をキャンセルします。詳細については、『 <i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i> 』の「 <i>Content Broadcast Control</i> 」 2-76 ページを参照してください。
Web サイトに接続		参加者のエンドポイントの内部 Web サイトに直接接続して、管理、設定およびトラブルシューティング作業を行います。
AGC (Auto Gain Control)		<p>会議の開催中に音声信号が弱い参加者に対して AGC を有効にします。</p> <p>メモ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の音声に AGC を実装するには、system.cfg の ENABLE_AGC System Flag を YES に設定する必要があります。このフラグのデフォルト値は NO です。詳細については、『<i>RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide</i>』の「<i>Adding a Participant to the Address Book</i>」6-3 ページを参照してください。 AGC を有効にすると、バックグラウンドノイズが増幅される場合があります。

表 3-8 参加者レベルの操作 (続き)

メニュー オプション	ボタン	説明
参加者プロパ ティ		すべての参加者プロパティを表示します。 詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の 「Participant Level Monitoring」、11-13 ページを参照してください。

参加者の切り取りと貼り付け

RMX ユーザは、RMX で実行中の別の会議間で、参加者をコピー、切り取りおよび貼り付けることができます。これらの機能を *RMX Manager* を介して使用することで、複数の RMX 参加者を管理でき、RMX ユーザは別の RMX で実行中の会議間でも参加者をコピー、切り取りおよび貼り付けることができます。

参加者をコピー

コピーコマンドで、すべての参加者プロパティをコピーして、コピーしたプロパティを貼り付けることができます。参加者は、現在の会議に接続されたままの状態となります。

参加者をコピーするには：

- 1 参加者リストペインで、コピーする参加者を右クリックします。
- 2 ドロップダウンメニューで、参加者をコピーを選択します。



参加者をカット

切り取りコマンドで、すべての参加者プロパティをコピーして、コピーしたプロパティを貼り付けることができます。参加者は、現在の会議から削除されます。

参加者を切り取るには：

- 1 参加者リストペインで、切り取る参加者を右クリックします。

2 ドロップダウンメニューで、参加者を切り取りを選択します。



参加者を貼り付け

貼り付けコマンドで、コピーしたまたは切り取った参加者を選択された会議に接続できます。コピーした参加者は、コピー元の会議から削除されます。ただし、参加者が2つ(またはそれ以上)の会議に接続されることを要求されている場合を除きます。(エンドポイントによっては、参加者が複数の会議へ接続することを許可する場合があります)。

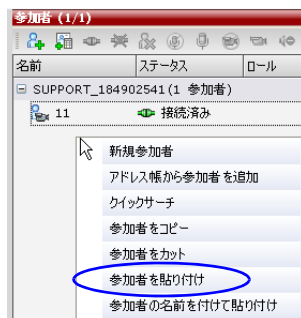
参加者を貼り付けるには：

- 1 会議リストペインで、コピー / 切り取った参加者を貼り付ける先の会議をクリックします。
- 2 選択した会議の会議リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューで参加者を貼り付けを選択します。

または

RMX Manager を使用している場合に、参加者を別の RMX の会議に貼り付けるには：

- a MCU リストペインで、参加者受信先の会議をホスティングしている RMX をクリックします。
- b 会議リストペインで、コピー / 切り取った参加者を貼り付ける先の会議をクリックします。
- c 右クリックして、ドロップダウンメニューで参加者を貼り付けを選択します。



参加者が会議に接続されます。

参加者の名前を付けて貼り付け

参加者の名前を付けて貼り付けコマンドを使用することで、RMX ユーザはコピーされた参加者のプロパティをテンプレートとして使用して、新しい参加者を作成できます。アドレス帳-参加者プロパティダイアログボックスが自動的に開き、RMX ユーザは参加者のプロパティを変更して新規参加者を作成できます。参加者プロパティダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックすると、新しい参加者が選択した会議に接続されます。

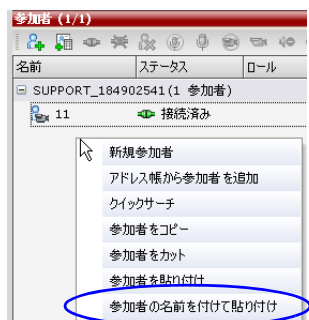
参加者に新しい名前を付けて貼り付けるには：

- 1 会議リストペインで、コピー / 切り取った参加者を貼り付ける先の会議をクリックします。
選択した会議の参加者リストペイン内を右クリックして、ドロップダウンメニューで [参加者の名前を付けて貼り付け] を選択します。

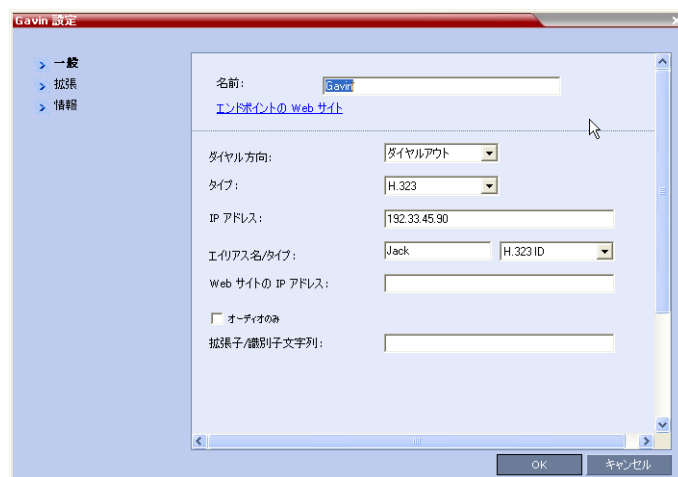
または

RMX Manager を使用している場合に、参加者を別の RMX の会議に貼り付けるには：

- a MCU リストペインで、参加者受信先の会議をホスティングしている RMX をクリックします。
- b 会議リストペインで、コピー / 切り取った参加者を貼り付ける先の会議をクリックします。
- c 右クリックして、ドロップダウンメニューで参加者の名前を付けて貼り付けを選択します。



アドレス帳-参加者プロパティ ダイアログボックスが表示されます。



- 2 必要に応じて、参加者の情報を変更します。詳細については、*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide* の「Modifying Participants in the Address Book」、6-10 ページを参照してください。

オプション。アドレス帳に含まれてない参加者をコピー / 切り取って、アドレス帳に追加できます。

オプション。新しい参加者をアドレス帳に追加できます。

- 3 [OK] ボタンをクリックすると、新しい参加者が選択された会議に接続されます。

RMX Web Client による個人レイアウトの制御

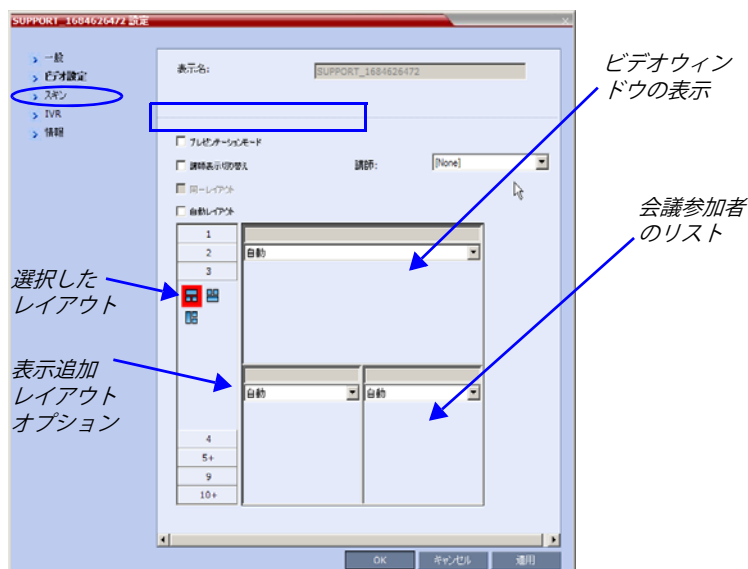
RMX ユーザは、RMX Web Client を使用して、各参加者のビデオレイアウトを変更および他の参加者のビデオレイアウトに影響を与えずに参加者をウィンドウに固定できます。レクチャーモードが有効な間は、参加者の個人レイアウトを変更することはできません。

参加者のビデオレイアウトおよび Video Forcing を変更するには

- 1 参加者リストで参加者をダブルクリックします。または、参加者を右クリックして参加者プロパティを選択します。

参加者プロパティ — メディアソースダイアログボックスが開きます。

2 レイアウトタイプリストで、個人を選択します。



- 3 ビデオウィンドウの数を選択します。
- 4 必要なビデオレイアウトを選択します。
- 5 選択したビデオレイアウトのウィンドウに参加者を固定するには、参加者を表示するウィンドウで、固定する参加者の名前を会議参加者のリストから選択します。
- 6 他のウィンドウに参加者を固定するには、ステップ5を繰り返します。
- 7 OK をクリックします。

個人ビデオレイアウトの選択をキャンセルして会議レイアウトに戻るには

- 1 参加者プロパティダイアログボックスで、メディアソースタブを選択します。
- 2 レイアウトタイプリストで、会議を選択します。
- 3 OK をクリックします。

この参加者には、固定された参加者が表示された状態で会議ビデオレイアウトが表示されるようになります。

会議レイアウトに戻らずにウィンドウの個人向け Video Forcing をキャンセルするには



- 1 参加者プロパティ - メディアソースダイアログボックスのビデオレイアウトウィンドウの参加者リストで、自動を選択します。
- 2 OK をクリックします。
参加者の切り替えが再開されます。音声はアクティブです。

Click&View による個人レイアウトの選択

参加者は **Click&View** アプリケーションを使用して、エンドポイントから DTMF コードを入力して各自の個人レイアウトを変更できます。レクチャーモードが有効な場合は、参加者は個人レイアウトを変更できません。

このオプションは、会議 IVR サービスで **[Click&View]** オプションが選択されている場合のみ使用できます。詳細については、『*RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide*』の「*Defining a New Conference IVR Service*」、[15-7](#) ページを参照してください。

Click&View を使用して個人レイアウトを変更するには

- 1 Click&View を有効にする – エンドポイントのキーパッドで、  を入力します。

Click&View アプリケーションが画面に表示されます。




Polycom VSX エンドポイントを使用している場合は、リモートの DTMF キーパッドを有効にするために、 を追加入力する必要があります。Click&View 入力シーケンスの全体は次のとおりです：,  .

個人レイアウトキーパッドオプションのメニューがビデオ画面に表示されます。




- 2 エンドポイントのリモートキーパッドで、ビデオウィンドウの数に対応する数字を選択します。


たとえば、4つのウィンドウがあるビデオレイアウトは、 を選択します。

画面のビデオウィンドウレイアウトが、下の図のように最初の4ウィンドウレイアウトに変更されます。




8秒以内に  キーを繰り返して押すと、次に示す4ウィンドウレイアウトの一連のオプションで切り替わります。


























複数ウィンドウのレイアウトで  を選択すると、現在の発言者が左上のウィンドウに表示されます。

全体表示で  を選択すると、次の参加者が全体表示に固定されます。

ビデオレイアウトで  選択すると、会議のレイアウトが元に戻ります。

以下の表に、*Click&View* を介して使用できるビデオレイアウトオプションを示します。

表 3-9 ビデオレイアウトオプション

DTMF コード	グループデフォルトレイアウト	グループレイアウトオプション
1		
2		  
3		 
4		  
5		 
6		
7		
8		
9		   
0 / 	元の会議レイアウトに戻します。	

Polycom Touch Control による個人レイアウトのコントロール

HDX エンドポイントから接続された参加者は、個人レイアウトを Polycom Touch Control デバイスからコントロールできます。



参加者によって Touch Control デバイスから HDX にレイアウト変更要求が送られると、HDX エンドポイントから RMX に送られる DTMF コードが発生します。RMX は要求されたレイアウトを HDX エンドポイントに送って対応します。



Polycom Touch Control デバイスは、MPM+ および MPMx メディアカードでのみサポートされています。

詳細については、Polycom Touch Control User Guide を参照してください。

DTMF コードの使用による会議制御

参加者およびチェアパーソンは、各自のエンドポイントからトーンダイヤル信号 (DTMF コード) を使用して、開催中の会議への接続を管理できます。使用できる DTMF コードの一覧については、表 3-9 を参照してください。

チェアパーソンは DTMF コードを使用して、開催中の会議も制御できます。

すべての会議参加者またはチェアパーソンが実行する DTMF アクションに関する許可は、会議に割り当てられた会議 IVR サービスにのみで設定できます。

詳細については、『RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide』の「Defining a New Conference IVR Service」、15-7 ページを参照してください。

DTMF コードを使用して会議を制御するには、エンドポイントのリモコンで DTMF を入力できるようにしておく必要があります (例えば、# 入力)。

表 3-10 会議および参加者管理用デフォルト DTMF コード

操作	DTMF 文字列	許可
会議ヘルプ	00	チェアパーソン
PCM 開始	##	すべて
Click&View の開始	**	すべて
個人ヘルプ	*0	すべて
レコーディングを休止	*1	チェアパーソン
レコーディングを停止	*2	チェアパーソン
レコーディングの開始 / 再開	*3	チェアパーソン
ロールコールを有効にする	*42	チェアパーソン
ロールコールを無効にする	#42	チェアパーソン
ロールコールレビュー名	*43	チェアパーソン
ロールコール停止レビュー名	#43	チェアパーソン
自分以外の全員をミュート	*5	チェアパーソン
自分以外の全員をミュート解除	#5	チェアパーソン
自己回線のミュート	*6	すべて
自己回線のミュート解除	#6	すべて
I 発信音量を上げる	*9	すべて
発信音量を下げる	#9	すべて
セキュアな会議	*71	チェアパーソン
セキュア会議	#71	チェアパーソン
受信音量を上げる	*76	すべて
受信音量を下げる	#76	すべて
パスワードの変更	*77	チェアパーソン
チェアパーソンに変更	*78	すべて
再生ヘルプメニュー	*83	すべて
着信参加者のミュート	*86	チェアパーソン
着信参加者ミュート解除	#86	チェアパーソン
会議の終了	*87	チェアパーソン

表 3-10 会議および参加者管理用デフォルト DTMF コード



操作	DTMF 文字列	許可
参加者を表示	*88	すべて
発言の要求	99	すべて
全員ミュートを無効にする	設定可能	すべて
Touch Control リフィックス	*#	すべて

ヘルプの要求

参加者は、トーンダイヤル式電話またはエンドポイントの DTMF 入力デバイスから、適切な DTMF コードを使用して、ヘルプを要求できます。参加者は、個人アシスタンス (デフォルトの DTMF コードは *0) または会議アシスタンス (デフォルトの DTMF コードは 00) を要求できます。

適切な接続先の会議 ID または会議パスワードを入力しなかったエントリーキュー内の参加者は、オペレータアシスタンスを待ちます (オペレータ会議がアクティブな場合)。

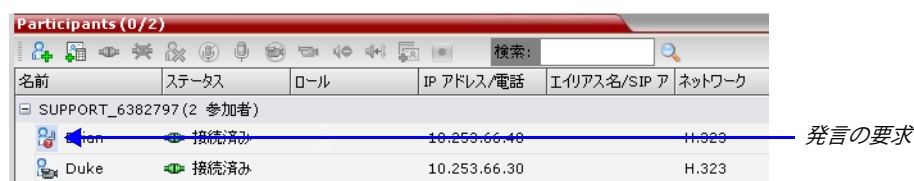
ユーザ (オペレータ) アシスタンスを待っている参加者は、参加者ペインのステータス列に以下のアイコンで表示されます。

	個人アシスタンスの待機中 – 参加者がユーザ (オペレータ) のアシスタンスを要求しています。
	会議アシスタンスの待機中 – 参加者が会議についてのユーザ (オペレータ) のアシスタンスを要求しています。これは通常、RMX ユーザ (オペレータ) が会議に参加することを要求されていることを示します。

発言の要求

会議主催者 / システムオペレータによりミュートされた参加者は、適切な DTMF コードを入力することにより、ミュート解除の要求を表すことができます。

参加者リストの **ロール** 欄にアイコンが 30 秒間表示されます。



発言の要求は

- 参加者が適切な DTMF コード (デフォルト : 99) を入力した場合にアクティブになります。
- DTMF コードは、会議の IVR サービスプロパティ – DTMF コードダイアログボックスで変更できます。
- ダイヤルインおよびダイヤルアウトの参加者が利用できます。
- 参加者は、発言の要求を会議中に複数回使用できます。
- すべての会議タイプでサポートされています。

- H.323 および SIP 環境でサポートされています。
- アイコンの表示時間は変更できません。

Personal Conference Manager (PCM)

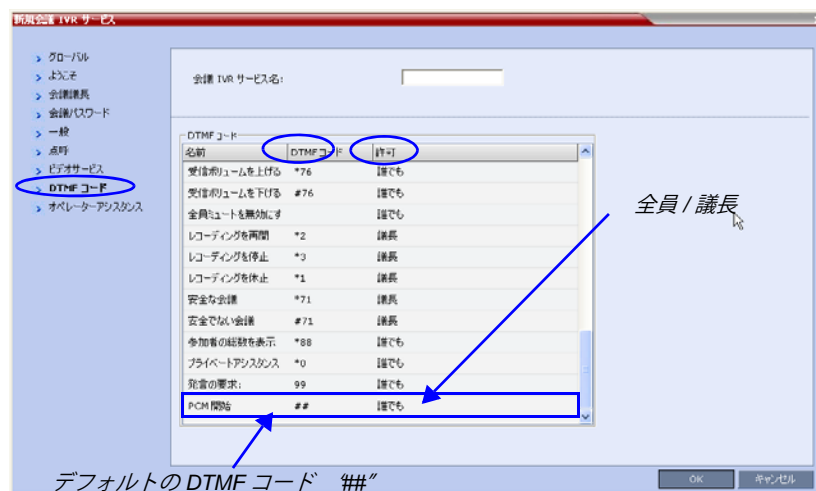
Personal Conference Manager (PCM) インターフェースでは、会議のチェアパーソンが各自のエンドポイントのリモートコントロール装置を使用して、様々な会議機能を制御できます。以下の会議操作を実行できます。

- **Polycom Click&View™** アプリケーションを起動して、ローカルの画面レイアウトを変更。
- H.323 および SIP 参加者を会議への接続に招待。
- 接続された各エンドポイントでの音声とビデオの表示および制御。
- カメラ制御1 – リモートエンドポイントのカメラを *Far End Camera Control (FECC)* を使用して制御。
- 接続されたエンドポイントのカメラを制御。
- 特定の参加者をビデオ固定して、ビデオレイアウトの専用画面に表示。
- 会議の録画を開始および制御。
- 参加者の切断。
- 会議の終了。

ガイドライン

- PCM は、MPM+ および MPMx カードでサポートされています。
- PCM は、H.323、SIP、および H.320 ネットワーク環境でサポートされています。
- PCM は、CP 会議でのみサポートされます。
- RMX は最大 800 会議までホストできますが (RMX モデルによって異なります)、PCM は 1 枚の MPM+ または MPMx カードにつき 4 つの会議からのみ有効です。
 - 1 つの RMX 2000 に 2 枚の MPM+ または 2 枚の MPMx カードを取付けると、合計 8 つの PCM セッションをホストでき、1 つの RMX 4000 に 4 枚の MPM+ または 4 枚の MPMx カードを取付けると、合計 16 の PCM セッションをホストできます。
 - 1 枚の MPM+/MPMx カードで 4 つの PCM セッションがアクティブな場合、同じ MPM+/MPMx カードにホストされている別の会議のチェアパーソンが別の PCM セッションを開始しようとする、同時に開くことができる PCM セッションの最大数をすでに起動しているため、リクエストされた PCM セッションは開くことができないというメッセージが表示され、続いて FECC が起動されます。
 - PCM がアクティブな場合、チェアパーソンのみが PCM のカメラ制御メニューを使用して FECC を実行できます。
- FECC は、アクティブな PCM セッションを所有するチェアパーソンを除く、会議のすべての IP 参加者が利用できます。
- 有効な場合、PCM がアクティブなときは、メッセージオーバーレイは表示されません。

- 通常の会議ビデオは、PCM メニュー内で無効にされると、4 秒後に再開されます。
- アクティブな PCM セッションのチェアパーソンが別の会議に移動すると、その PCM セッションは自動的に終了します。
- **PCM_LANGUAGE System Flag** は、PCM インターフェースの言語を決定します。
 可能な値: ENGLISH、CHINESE_SIMPLIFIED、CHINESE_TRADITIONAL、JAPANESE、GERMAN、FRENCH、SPANISH、KOREAN、PORTUGUESE、ITALIAN、RUSSIAN、NORWEGIAN
 デフォルト: 現在の RMX Web Client 言語。
- PCM を起動するための Start PCM の DTMF コードは、[新規会議IVR サービス] または [会議IVR サービスプロパティ] ダイアログボックスの [DTMF コード] タブで設定できます。デフォルトの DTMF コードは ## ですが、必要に応じて変更できます。
 [許可] フィールドのデフォルト値は、全員 です。これは、議長に変更できます。



- PCM は Microsoft Office Communications クライアントまたは Lync クライアントで正常に起動されましたが、FECC 機能がこれらのクライアントで使用できないので、いずれの PCM オプションは、利用可能なキーが #、*、1.9 で、かつナビゲーションキー (「LEFT」、「RIGHT」等) でない場合にのみ使用できます。

システムフラグ

PCM_FECC System Flag は、DTMF Code、##、Arrow Keys (FECC) または両方が PCM インターフェースをアクティブにするかどうかを決定します。また、このフラグは PCM を無効にするために使用できます。

可能な値: YES / NO

デフォルト: YES.

表 3-11 に、システムでの DTMF Code および **PCM_FECC System Flag** 設定の組み合わせた効果を示します。


表 3-11 *PCM_FECC / DTMF Code*

PCM_FECC=	DTMF コード	システムでの効果
YES	定義される	DTMF Codes および Arrow Keys の両方が PCM をアクティブにします。
	削除される	Arrow Keys のみが PCM をアクティブにできます。 PCM がアクティブになると、Arrow Keys は FECC 機能を失います。
NO	定義される	DTMF Code のみが PCM をアクティブにできます。 PCM がアクティブになると、Arrow Keys は FECC 機能を失います。
	削除される	PCM は無効になります。

この System Flag は、System Configuration ファイルに追加しなければ変更できません。詳細については、RMX 1500/2000/4000 Administrator's Guide の「Modifying System Flags」、[19-4](#) ページを参照してください。

PCM インターフェース

PCM 開始

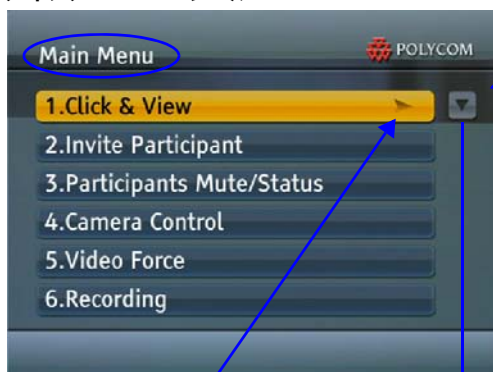
IP エンドポイント: PCM は、リモートコントロール装置の矢印キーの後にある Far キー () を押すと起動します。

ISDN/PSTN エンドポイント: PCM は、リモートコントロール装置の ## を押すと起動します。

有効にした後に、キーを 10 秒間以内にリモートコントロール装置で押さない場合は、PCM が自動的に無効になります。

PCM が有効になると、PCM メインメニューの最上位のレベルが会議のチェアパーソンのエンドポイントに表示されます。

メインメニュー - レベル1

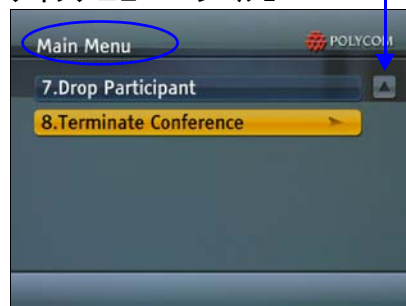


矢印インジケータ：
次ページのメニュー
オプションをご覧ください

矢印インジケータ：
前ページのメ
ニューオプション
をご覧ください
次ページ

右矢印：
リモート装置の右矢
印キーに対応
アクション：
選択したオプション
のサブメニューに移
動します
(Click & View)

メインメニュー - レベル2



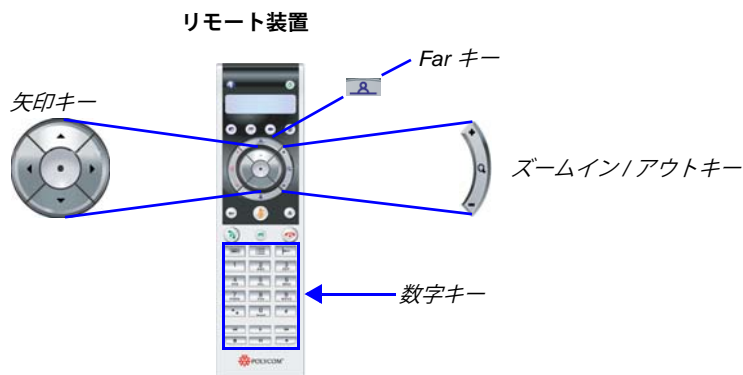
PCM メインメニュー - レベル2 の閲覧およびアクセスは、ISDN エンドポイントからのみ、DTMF コード7 および 8 を使用して行うことができます。

リモートコントロール装置キー

PCM は、RMX とのユーザインタラクションを容易に行うことができます。DTMF Codes およびエンドポイントのリモートコントロール装置の矢印 (FECC) キーを使用します。

メニュー操作 - 矢印とズームキー

PCM メニューの操作には、リモート装置の矢印ズームキーを以下のように使用します：



操作方法は、以下の通りです：

表 3-12 PCM – メニュー操作

矢印キー	説明
左 	<ul style="list-style-type: none"> ひとつ上のメニューレベルに移動します。 データ入力時にカーソルの左の文字を削除します。 PCM メニューを終了して、通常の会議ビデオに戻ります (PCM の最上位レベルのメニューから)。 ビデオレイアウト操作時に左のビデオウィンドウを選択します。 会議から PCM を開始します。
右 	<ul style="list-style-type: none"> ひとつ下のメニューレベルに移動します。 PCM メニューの現在の選択を確定します。 ビデオレイアウト操作時に右のビデオウィンドウを選択します。 会議から PCM を開始します。
昇順 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたメニューオプションを昇順に送ります。 ビデオレイアウト操作時に上のビデオウィンドウを選択します。 会議から PCM を開始します。
降順 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたメニューオプションを降順にスクロールします。 ビデオレイアウト操作時に下のビデオウィンドウを選択します。 会議から PCM を開始します。
ズームイン (+) 	<ul style="list-style-type: none"> PCM メニューの現在の選択を確定します。 FECC 使用時にリモートカメラでズームインします。
ズームアウト (-) 	<ul style="list-style-type: none"> PCM メニュー終了 FECC 使用時にリモートカメラでズームアウトします。

DTMF コード – 数字キー



0 ～ 9 のショートカット数字キーを使用する前に、エンドポイントの設定に従って、エンドポイントの DTMF 機能を有効にします。

DTMF コードは、リモート装置の数字キーを使用して入力します。内容は以下の通りです：

表 3-13 PCM – DTMF コード

数字キー	説明
0	<ul style="list-style-type: none"> 数字入力。 番号が付けられたメニューオプションへのショートカットキー – 会議ビデオまたは PCM メニュー表示中に使用できます。
1-9	<ul style="list-style-type: none"> 数字入力。 番号が付けられたメニューオプションへのショートカットキー – 会議ビデオまたは PCM メニュー表示中に使用できます。 ISDN/PSTN エンドポイントで PCM セッションを開始します (<i>Start PCM DTMF Code</i> のデフォルトは 1 です)。
*	<ul style="list-style-type: none"> 会議中または PCM メニュー表示中に、DTMF (Polycom エンドポイント) モードを開始します。 IP アドレス入力時にピリオド「.」を入力できます。
#	選択を確定して情報を RMX に送信します。

PCM メインメニュー – レベル 1

Click&View

Click&View アプリケーションでは、エンドポイントの矢印キーを使用するか数字キーで DTMF コードを入力して、参加者が個人レイアウトを変更できます。

Click&View の詳細については、「Click&View による個人レイアウトの選択」、3-64 ページを参照してください。

参加者の招待

ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンは、この機能を利用できません。

参加者を会議への接続に招待するには：

- 1 上/下矢印キーを使用してメインメニューの参加者の招待を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 2 を押します。

参加者の招待サブメニューが表示されます。



- 2 数字キーを使用して、参加者のエンドポイント番号を入力します。
- 3 # キーを押すと、呼び出しが開始されます。
- 4 オプション。
 - a 下矢印を使用して自動ボタンを選択し、以下の中からダイヤル方法を選択します。
 - H.323
 - SIP
 - VOIP
 - ISDN
 - PSTN
 - b # キーを押すと、呼び出しが開始されます。
- 5 オプション。
 - a 矢印キーを使用してディレクトリボタンを選択し、*Alphabetic Grouping* サブメニューを選択します。

ローカルディレクトリが表示されます。



参加者リスト

- b 数字キーを使用して、参加者のエンドポイント番号を入力します。
- c # またはズームインキーを押すと、呼び出しが開始されます。
- または
- d 上/下矢印キーを使用して、表示されたリストから参加者を選択します。上/下および左/右矢印キーを使用して、別のディレクトリリストを表示することもできます。

Press # or Zoom In to select(# またはズームインを押して選択) というメッセージが表示されます。

- e # またはズームインキーを押すと、呼び出しが開始されます。

オプション。すべての参加者を表示するには：

- 下矢印を使用して、すべてボタンを選択します。
- ズームインキーを使用して、グローバルディレクトリを表示します。
- 上/下および左/右矢印キーを使用して、参加者を選択します。
- # またはズームインキーを押すと、呼び出しが開始されます。

着信参加者のミュート / ステータス

ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンは、この機能を利用できません。

チェアパーソンは、各参加者エンドポイントの音声とビデオステータスを表示および制御できます。チェアパーソンは、以下の操作を実行できます：

- 参加者の音声とビデオステータスの表示。
- 参加者音声のミュート、ブロック、ミュート解除。
- 参加者ビデオの中断または許可。
- 全員をミュート (チェアパーソンとレクチャラを除く)

参加者のミュート / ステータスを表示および変更するには：

- 1 上/下矢印キーを使用してメインメニューの参加者のミュート / ステータスを選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 3 を押します。

参加者のミュート/ステータスサブメニューが表示されます。



サブメニューには、参加者全員のエンドポイントのステータス (ミュート中、ブロック中およびビデオ中断中) が表示されます。すべてを選択すると、チェアパーソンとレクチャラを除く、参加者全員のエンドポイントをミュートおよびミュート解除できます。


- 2 上/下/左/右矢印キーを使用して、ミュート、ブロックまたは中断ステータスアイコンを選択します。
- 3 ズームインキーを使用して、参加者エンドポイントを音声またはビデオチャンネルに切り替えます。

ステータスアイコンの内容については、表 3-14 を参照してください。

表 3-14 着信参加者のミュート/ステータス – アイコン

ステータス アイコン	説明
	このエンドポイントからの音声出力が許可されます。他の会議参加者は、このエンドポイントからの音声を聴くことができます。
	エンドポイントがミュートされます。他の会議参加者は、このエンドポイントからの音声を聴くことができません。
	このエンドポイントへの音声入力が許可されます。このエンドポイントは、会議の音声を聴くことができます。
	このエンドポイントへの音声出力が許可されます。このエンドポイントは、会議の音声を受信できません。
	このエンドポイントからのビデオ出力が許可されます。他の会議参加者は、このエンドポイントからのビデオを見ることができます。
	エンドポイントからのビデオ出力が中断されます。他の会議参加者は、このエンドポイントからのビデオを見ることはできません。
	エンドポイントがミュートまたはブロックされます。

表 3-14 着信参加者のミュート/ステータス – アイコン (続き)

ステータス アイコン	説明
	エンドポイントがミュートおよびブロックされます。

カメラ制御

ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンは、この機能を利用できません。

制御される側のエンドポイントが *Far End Camera Control* (FECC) をサポートしていなければなりません。

チェアパーソンは、リモート制御装置の矢印キーを使用して、リモートエンドポイントのカメラの向き、ズーム、フォーカスを制御できます。

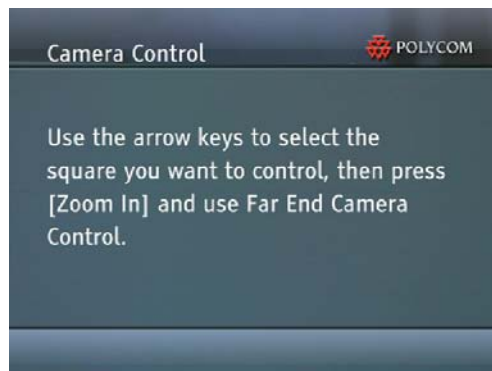
Far カメラを制御するには：

- 1 上/下矢印キーを使用してメインメニューのカメラ制御を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または


リモート装置のキー 4 を押します。

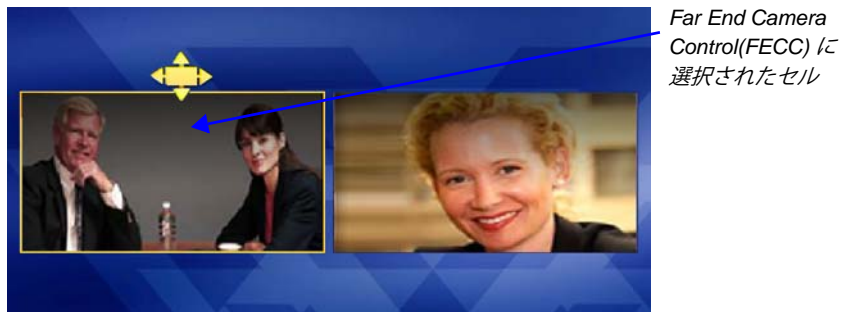
カメラ制御サブメニューが表示されます。



- 2 上/下/左/右矢印キーを使用して、制御される側の Far カメラを選択します。ビデオレイアウトの選択したセルの周囲に色付きのフレームが表示されます。

3 ズームインキーを使用して、FECC を有効にします。

選択したサイトのビデオ画像には、10 秒後に FECC アクティブアイコン () が表示されます。



カメラ制御キーを 5 秒間以内に リモートコントロール装置で押さない場合は、前のメニュー (カメラ制御) メニューが自動的に表示されます。

- 4 上/下/左/右/ズームイン/ズームアウト矢印キーを使用して、リモートカメラを制御します。
- 5 リモートコントロールの ズームアウト キーを使用して、PCM メインメニューに戻します。

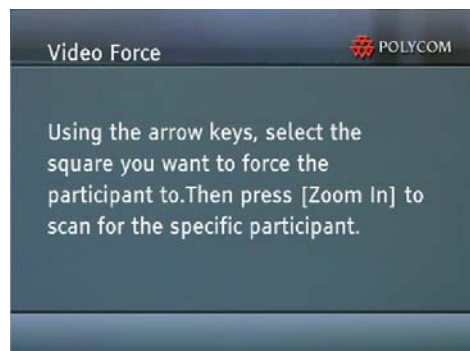
ビデオ固定

ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンは、この機能を利用できません。

チェアパーソンは、ビデオ固定を使用して、特定の参加者のビデオをビデオレイアウトの各ウィンドウにフォーカスできます。

参加者のビデオをビデオ固定するには：

- 1 上/下矢印キーを使用してメインメニューの [Video Force] を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。
または
リモート装置のキー 5 を押します。
ビデオ固定サブメニューが表示されます。



- 2 上/下/左/右矢印キーを使用して、特定の参加者を表示するビデオレイアウトのウィンドウを選択します。

- 3 ズームインキーを押すと、選択したビデオウィンドウで参加者全員の表示をスクロールして、表示する参加者を見つけることができます。
- 4 右矢印または # キーを押して、選択を確定します。

レコーディング

ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンは、この機能を利用できません。

レコーディングリンクが会議プロフィールで設定されている場合、会議のチェアパーソンは PCM インターフェースを使用して、レコーディングを開始、一時停止、再開、停止できます。レコーディングリンクがない場合、この機能はグレー表示されて選択できません。

MPMx モードでは、レコーディングまたは レコーディング一時停止 が会議参加者全員のビデオレイアウトの左上隅に表示されます。

レコーディングインジケータ



レコーディング機能を使用するには：

- 1 上/下矢印キーを使用してメインメニューのレコーディングを選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。
または
リモート装置のキー 6 を押します。
レコーディングサブメニューが表示されます。



レコーディングを開始するには：

- く 上/下矢印キーを使用してレコーディングの開始を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。
または
リモート装置で 1 キーを押します。

レコーディングを一時停止するには：

- ＜ レコーディング進行中に上/下矢印キーを使用して一時停止を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 2 を押します。

レコーディングを再開するには：

- ＜ レコーディング一時停止中に上/下矢印キーを使用して再開を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 2 を押します。

レコーディングを停止するには：

- ＜ レコーディング進行中に上/下矢印キーを使用してレコーディングを停止を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 3 を押します。

PCM メインメニュー – レベル 2

参加者の切断

参加者を会議から切断するには：

- 1 上/下矢印キーを使用して、メインメニューの 2 ページ目に進みます。
- 2 上/下矢印キーを使用して参加者を切断を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 7 を押します。

参加者の切断サブメニューが表示されます。



- 3 上/下矢印キーを使用して切断する参加者を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

参加者が接続されているリモート装置の数字キーを押します。

会議の終了



この機能には、ISDN エンドポイントで PCM を使用しているチェアパーソンがアクセスして表示できますが、会議の終了は実行できません。

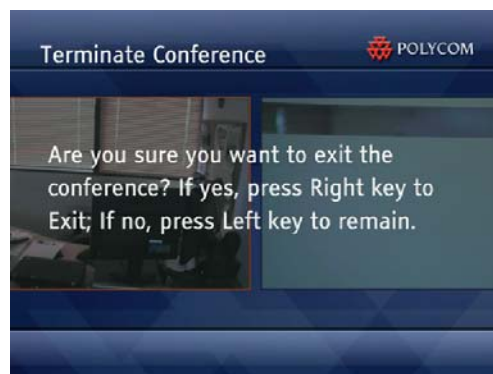
会議を終了するには：

- 1 上/下矢印キーを使用して、メインメニューの 2 ページ目に進みます。
- 2 上/下矢印キーを使用して**会議を終了**を選択し、右矢印または # キーを押して選択を確定します。

または

リモート装置のキー 8 を押します。

会議の終了サブメニューが表示されます。



- 3 右矢印キーを押すと、会議の終了が確定されます。
または
左矢印キーを押すと、会議の終了がキャンセルされます。

付録 A

用語集

この付録では、Polycom RMX 1500/2000/4000 に関連し、RMX ドキュメントで一般的に使用される用語と略語を説明します。

略語 / 用語	説明
AGC	Auto Gain Control の略。参加者全員の信号のバランスを保つことで、雑音およびボリュームを調整するメカニズムです。
<i>Bonding</i>	ON Demand INterpolarity Group の帯域幅。2 つの 64 Kbps B チャンネルを結合して 1 つの 128 Kbps チャンネルとして機能させる通信プロトコルです。複数の BRI チャンネルを使用する場合、Bonding では単一の D チャンネルがすべての BRI チャンネルに適用され、残りの D チャンネルはデータ転送に使用されます。参照：BRI。
<i>Bps, Kbps</i>	ビット / 秒およびキロビット / 秒。帯域幅の単位です。(送信メディアを使用して) 通信回線を 1 秒間に流れることができるデータの量を示します。 1 Kbps = 1000 Bps
<i>BRI</i>	Basic Rate Interface の略。2 つの B チャンネル (各 64 Kbps) および 1 つの D チャンネル (16 Kbps) の合計 3 チャンネルで 2 つの B チャンネル (各 64 Kbps) および 1 つの D チャンネル (16 Kbps)。
<i>CIF, 4CIF, QCIF</i>	CIF は Common Intermediate Format の略で、ITU-T の H.261 標準および H.263 標準のオプション部分です。CIF では、176 ピクセルで構成された、288 本のノンインターレース輝度線の仕様が定義されています。CIF は、1 秒あたりのフレームレート 7.5、10、15、または 30 で送信できます。CIF を使用して操作している場合は、256 K ビット (K = 1024) を超えるデータは送信できません。CIF ビデオフォーマットでは、352 × 288 ピクセルのビデオイメージを 36.45 Mbps および 30 フレーム / 秒で送信可能です。4CIF フォーマットの容量は CIF の 4 倍で、QCIF の容量は CIF の 4 分の 1 です。
<i>CSU</i>	Channel Service Unit の略。通信ネットワークとデータターミナル間のインターフェースとして使用される、顧客が調達しなければならない装置です。
<i>DBA</i>	Dynamic Bandwidth Allocation の略。LPR にパケットを送信するために必要な帯域幅を割り当てるのに使用します。
<i>DTMF</i>	Dual Tone Multi Frequency の略。トーンダイヤル電話によって使用される符号化された信号の体系。コンピュータが信号を簡単に認識できるように、固有の音、周波数、またはトーンが各キーに割り当てられています。コードを使用して、データの入力と音声処理システムの制御を行うことができます。DTMF 信号は、接続全体を通過して宛先デバイスに到達できるため、MCU との接続が確立された後のリモート制御に使用されます。

略語 / 用語	説明
<i>E1 回線</i>	欧州で使用する 2 Mb のデジタル交換回線。
<i>FECC</i>	Far End Camera Control (相手側カメラ制御) の略。特定のビデオカメラに付属する、参加者によるリモートカメラの制御を可能にするソフトウェア。LSD オプションとともに Continuous Presence ビデオ会議で使用されます。詳細については、「LSD」を参照してください。
<i>G0.711</i>	ITU-T の音声アルゴリズム。64Kbps、3.4 kHz。
<i>G0.722</i>	ITU-T の音声アルゴリズム。64Kbps、7 kHz。
<i>G0.728</i>	ITU-T の音声アルゴリズム。16Kbps、3.4 kHz。
<i>H.221</i>	ビデオ、音声、コントロール、およびユーザデータを 1 つのシリアルビットストリームに多重化する方法を定義した ITU-T 標準。
<i>H.230</i>	マルチポイント制御システムの単純なプロシージャを定義し、ネットワークメンテナンス機能を規定した ITU-T 標準。
<i>H.231</i>	MCU 機能群と動作要件を定義した ITU-T 標準。
<i>H.242</i>	システム間の通信の開始と機能ネゴシエーションプロシージャを定義した ITU-T 標準。
<i>H.243</i>	マルチポイント会議におけるシステム間の通信の開始と機能ネゴシエーションプロシージャを定義した ITU-T 標準。
<i>H.261</i>	Px64 ビデオ符号化アルゴリズムを定義した ITU-T 標準。
<i>H.263</i>	384 Kbps を下回る回線速度での高度な圧縮およびビデオイメージ品質を規定した ITU-T 標準。この標準は、すべてのコーデックでサポートされるわけではありません。
<i>H.264</i>	回線速度の低い接続での高度な圧縮およびビデオイメージ品質を規定した ITU-T 標準。ビデオスイッチ会議の最も高度な共通メカニズムに組み込まれています。
<i>H.264*</i>	Polycom 独自開発のビデオ圧縮標準。
<i>H.320</i>	ビデオ会議に関する H シリーズ勧告がどのように連携するかを定義した ITU-T 標準。
<i>H.323</i>	インターネットを含む IP ベース (LAN) ネットワークでの音声、ビデオ、データ通信に関する ITU-T 標準。
<i>ICE</i>	Interactive Connectivity Establishment (ICE) は、様々なファイアウォールに使用される各種の NAT トラバース技術を統合するストラクチャ / プロトコルを提供します。 呼び出し側エンドポイント (ローカル) と MCU または 呼び出される側のエンドポイント (リモート) 間に存在し得る各種のファイアウォールをトラバースしながら、SIP ベースのエンドポイントを接続できます。
<i>IP</i>	Internet Protocol の略。インターネットの基盤を形成する実用プロトコルです。

略語 / 用語	説明
<i>ISDN</i>	Integrated Services Digital Network の略。電話ネットワークを構成するプロトコルとインターフェースの標準群 (音声、ビデオ、およびデータ)。ISDN 回線には、BRI と PRI の 2 種類があります。
<i>ITU-T 標準</i>	ITU-T は International Telecommunications Union, Telecommunication Standardization Sector (国際電気通信連合電気通信標準化部門) の略。旧称 CCITT。電気通信に関する公式標準を策定する国際団体です。
<i>LAN</i>	Local Area Network の略。ネットワークのオペレーティングシステムを介して連結されたコンピュータなどのデバイスの集合です。
<i>LDAP</i>	Lightweight Directory Access Protocol の略。
<i>LPR</i>	Lost Packet Recovery の略。失われたパケットの再生に必要なリカバリ情報を含む追加パケットを作成するためのアルゴリズムです。
<i>MCU</i>	Multipoint Control Unit の略。ビデオ会議で 3 か所以上のサイトを接続するデバイスです。
<i>PRI</i>	Priority Rate Interface の略。大容量のデータ通信用に設計された ISDN インターフェース。23 の B チャンネル (各 64 Kbps) と 1 つの D チャンネル (64 Kbps) で構成されます。欧州の PRI 回線は、30 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル。
<i>PSTN</i>	Public Switched Telephone Network の略。
<i>QCIF</i>	Quarter CIF。イメージサイズが 176 × 144 ピクセルのビデオフォーマット。30 フレーム / 秒で 9.115 Mbps を送信します (CIF の容量の 4 分の 1)。詳細については、「CIF」を参照してください。
<i>QoS</i>	Quality of Service の略。QoS は、パケット間の平均遅延など、ネットワークサービスのパフォーマンスを定義します。
<i>RS-232</i>	シリアルインターフェース接続に関する標準。
<i>RTV</i>	Real Time Video プロトコルは、高品質のビデオ会議機能を Microsoft OCS (Office Communicator Server) エンドポイントに提供します。
<i>SIP</i>	Session Initiation Protocol の略。IP ネットワークで機能するように設計されたアプリケーション層プロトコル。SIP サービスは、SIP ネットワークコンポーネントの設定と IP アドレスを定義します。
<i>SRTP</i>	SIP メディアの暗号化は、SRTP (Secured Real-time Transport Protocol) と AES キー交換方法を使用してサポートされます。
<i>T1 回線</i>	米国で使用される 1.5Mb のデジタル交換回線。
<i>ToS</i>	Type of Service の略。音声パケットおよびビデオパケットをルーティングするための最適化タギングを定義します。
<i>WAN</i>	Wide Area Network の略。LAN より広い地理的領域に対応する通信ネットワーク。
<i>Whiteboard</i>	共有ドキュメントを配置するための画面上の共有ノート。

略語 / 用語	説明
エンドポイント	電話をかけることができ、MCU または他のエンドポイントからの電話を受けられることのできるハードウェアデバイスまたはデバイスセット。たとえば、電話、PC に接続されたカメラとマイク、統合型ルームシステム（会議システム）などがエンドポイントです。
会議	ビデオおよび音声情報を交換する 2 つ以上のエンドポイント間の接続。接続されているエンドポイントが 2 つのみの場合は、ポイントツーポイント会議と呼ばれ、MCU は不要です。3 つ以上のエンドポイントが接続されている場合は、マルチポイント会議と呼ばれ、管理システムとして MCU (Multipoint Control Unit) が必要です。詳細については、「MCU」を参照してください。
回線速度	通信デバイスによって使用される帯域幅の量。単位は Kbps (キロビット / 秒) です。
キャリア	電気通信による送信サービスを提供する電話会社などの企業。
ゲートキーパー	次の 2 つの主要機能を実行するサーバの一種。1) 端末およびゲートウェイの LAN エイリアスアドレスを IP アドレスに変換する。2) 帯域幅管理を提供する。
コーデック	コーダーデコーダの略。音声およびビデオのデジタルコードへの変換およびその逆方向への変換を実行するデバイスです。ビデオ会議に使用されるエンドポイントであるビデオカメラやビデオボードを指します。
参加者	エンドポイントを使用して会議に接続する個人。ルームシステムを使用する場合は、複数の参加者が 1 つのエンドポイントを使用します。
スパン	ISDN 回線または専用回線。スパンの種類は T 1 (米国) または E1 (欧州) のいずれかです。サーキットとも呼ばれます。
帯域幅	チャネルの情報伝送容量を定義します。アナログシステムでは、帯域幅はチャネルが伝送できる最大周波数と最小周波数の差であり、単位はヘルツです。デジタルシステムでは、帯域幅の単位は bps です。接続の帯域幅が大きいほど一定の時間で送信されるデータが多くなるため、ビデオ解像度を高めたり、会議のサイトを増やすことが可能になります。詳細については、「回線速度」を参照してください。
マルチモデムケーブル	2 台のデジタルデバイスが互いに直接接続されるときに通信機器が不要になるように設計されたシリアルケーブル。
フレーム	特定のプロトコルで送信するビデオデータの基本ブロックを構成するビットの集合。
フレームレート	1 秒間に画面に表示されるビデオフレームの数。単位は fps (フレーム / 秒)。